専門学校教育と卒業生のキャリア

小方　直幸　編

高等教育研究叢書

103　2009年3月

広　島　大　学

高等教育研究開発センター

専門学校教育と卒業生のキャリア

小方　直幸　編

広島大学高等教育研究開発センター

はしがき

本書は，平成 19-21 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「専門学校卒業生のキャリアと専門学校教育」(代表 小方直幸）と社団法人東京都専修学校各種学校協会調査統計部（部長 関口正雄）との共同プロジェクトの成果の一部である。

従来の高等教育研究では，専門学校（専修学校専門課程）に対する関心は薄かった。その背景には，大学セクターが高等教育システムの中核を形成してきたことが挙げられる。高等教育研究の関心は常に大学にあり，現在の拡大状況からも今後その傾向は強まると予想される。しかし，高等教育システム全体のあり方を議論するには，専門学校を始めとする非大学型高等教育機関にも着目し，アカデミックな教育だけでなく職業教育も視野に入れる必要がある。

他方で，専門学校の教育実践や社会的機能については，まずは専門学校自らが点検・評価活動の一環として行うべきものだろう。だが，そうした動きも従来，必ずしも活発とはいえなかった。どちらかといえば，資格の取得率や就職率等に依存してきた傾向があり，教育実践の実態や職業教育の意義について積極的に情報を開示してきたわけではない。しかし近年，高等学校から専門学校への進学者は減少に転じており，評価という文脈を越えて専門学校教育の質が問われるようになっている。

この度のプロジェクトは，以上のような事情を踏まえて始まった。こうした調査研究を行う場合，研究者の視点は重要だが，それが教育の見直しや改革につながるとは限らない。もちろん，実践への寄与を常に念頭に入れる必要はない。ただし，今回のような学校ベースの調査は，名簿のチェックや作成，調査票発送や発送後の問い合わせへの対応，回答者への調査結果のフィードバックなど，調査実施校の協力なしでは成立しない側面が少なくない。

そこでこの度のプロジェクトにおいては，研究的な視点と現場の教育実践的な視点の双方を織り込んだものを指向した。具体的には，調査の意図の説明を行った上で調査協力校を募り，調査票の設計にあたっては，調査協力校のメンバーと数回にわたって打合せを行った。フィードバック用の調査結果の概要の内容についても意見交換を行い，さらに学校ごとの基礎集計データを配布するだけでなく，各学校に調査結果の分析等を行ってもらい報告会も実施してきた。

本書で紹介するのは，東京を中心とするごく一部の専門学校の事例であり，一般化は難しい。その意味で今後，大規模な調査研究の実施が待たれる。また，専門学校に対する評価や見解は，卒業生からのものが全てではない。現在，卒業生を雇用している企業に対しても同様の調査が進行中である。本書が，専門学校に関心を持つ研究者だけでなく，専門学校教育の経営や実践に携わっている方々の目にも触れ，忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いである。

2009 年 3 月

小方　直幸・関口　正雄

目　次

はしがき
小方　直幸・関口　正雄 ･････････････ i

第Ⅰ部　データ分析編

序　章　　卒業生調査の狙いと概要
小方　直幸 ･････････････････････････ 1

第１章　　専門学校選択と進学後の学習行動
立石　慎治 ･････････････････････････ 13

第２章　　専門学校卒業生の初期キャリア
李　　敏 ･････････････････････････ 33

第３章　　専門学校教育に対する卒業生の評価
小方　直幸 ･････････････････････････ 49

終　章　　結論と課題
小方　直幸 ･････････････････････････ 59

第Ⅱ部　資料編

「専門学校教育と卒業生のキャリアに関する調査」を終えて
久保谷富美男 ･････････････････････ 63
卒業生調査への参加の狙いと意義
高村　雅行 ･････････････････････････ 67
卒業生キャリア調査について
関口　正雄・伊藤　忠男 ･････････････ 71

基礎集計表 ･･･ 75

第Ⅰ部

データ分析編

序章　卒業生調査の狙いと概要

小方　直幸
（広島大学）

この章では，従来の専門学校研究との関わりから，今回実施した卒業生調査の狙いがどこにあるかを提示し，調査結果の概要を報告する。

１．研究の位置づけ

２つの系譜

本書は，卒業生調査の分析を通して，専門学校の職業的レリバンスの一端を明らかにすることを目的にしている。

専門学校に対する研究は，進学者の量的な規模の大きさに比して，これまで必ずしも十分な関心が注がれてきたわけではない。ただし，進学選択の構造をめぐっては，教育社会学の領域で研究の少なからぬ蓄積がある。専門学校独自の拡大メカニズムを分析した岩木・耳塚（1986）や，非大学型高等教育機関の中に一括する形で高校生の進学選択を考察した耳塚（2000）があるし，最近では矢野・濱中（2006）が，専門学校の選択が所得，授業料と大学の合格率を考慮して行い，失業率の影響がないことから就職の有利性を否定する見解を示している。濱中（2007）も指摘するように，進学選択をめぐる研究において専門学校は，職業教育を評価する「就職有利説」か，大学進学が叶わなかった層の「受け皿説」か，という対比で捉えられる傾向にあり，従来の研究はその積極的機能よりも調整弁的機能を支持してきた。

教育社会学的な考察が，学歴の階層性，つまり大学進学や高卒就職との関係性から，専門学校への進学を切り取ってきたのに対して，専門学校独自の機能の析出を目的とした吉本（2003）は，マクロ統計に依拠しながら，関連分野への就職者が大学・短大を想定した際に，それほど明確であるとはいえないということから，専門学校への進学者の拡大を「専門性」の評価と考えることは難しいとしている。また，新規高卒者以外の受け入れが一定割合を占めるが，時系列的に量的な変動がないことから，進学者の拡大が生涯学習マーケットに支えられているわけでもないとしている。その上で，必修カリキュラムや出欠管理を通じた教育に，高卒者に対する「しつけ」機能を見出し，それが評価されているのではないかという仮説を提示している。また塚原（2005）は，マクロ統計から得られる動向と政策動向から，高等教育システムにおける専門学校のステータスは当面は高まると指摘している。

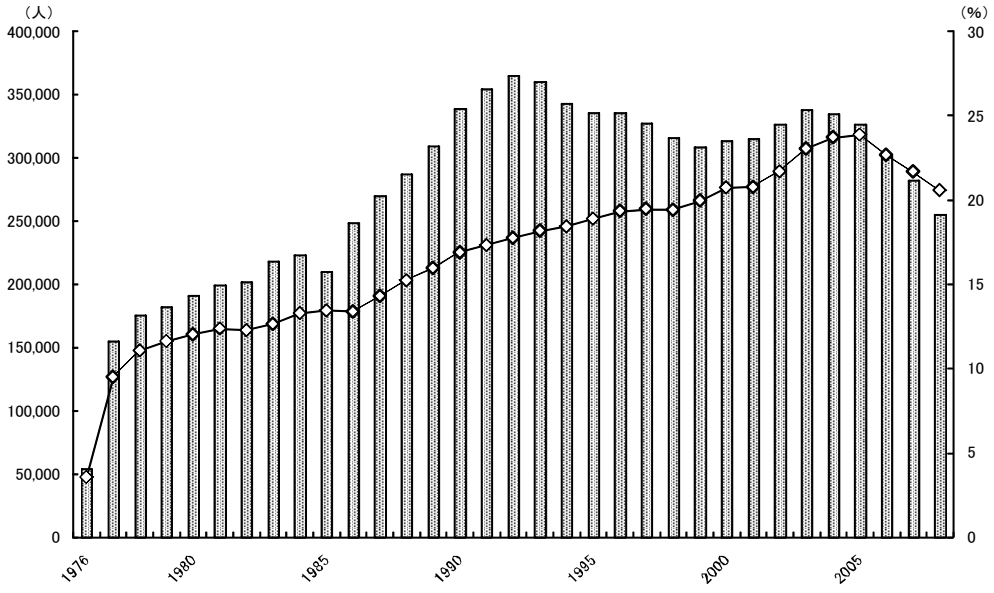
このように，専門学校の研究をめぐっては，あえて整理するならば，教育社会学的な流れと

高等教育論的な流れがあったといえる。専門学校は非大学型高等教育機関という形態上，調整弁的な機能を免れないだろう。しかしそこには，非大学型ゆえの一定の機能があるはずであり，それは「就職有利」か「受け皿」か，という対比的な枠組みからは必ずしも抽出されない。むしろ「受け皿」的な機能は，程度問題はあるにせよ所与とみなしつつ，どのような職業的機能を専門学校教育が実質的に果たしているかということを明らかにすべきであろう。

専門性の程度は別としても，専門学校はこれまで高い就職率を誇ってきた。その裏には退学者の多さ（吉本 前掲書，筒井 2007）があるのも事実だが，高い資格取得率と就職率をウリにしてきたのは事実である。しかし近年になって進学者，進学率ともに減少に転じている（図 0-1）。超過需要を前提としてきた大学が，その前提の崩壊と社会自体の変化を背景に，教育の質を問われるようになったのと同様のことが，専門学校にも生じている。

こうした課題を射程に収めるには，従来の研究が扱ってきたマクロの統計資料や，高校からの移行に関する資料だけでは十分とはいえない。専門学校が実際にどういうタイプの学生を受け入れ，そこでどのような教育を提供し，卒業生がどのような初期キャリアを歩み，その結果として専門学校教育をどのように評価しているのか。近年になって大学に関しては分析が進みつつあるこれらの領域を，専門学校についても明らかにする必要性が増している。こうした問題意識を背景として，専門学校卒業生に対して「専門学校教育と卒業生のキャリアに関する調査」を実施した。

図 0-1　専門学校への進学者と粗進学率の推移



出所：『高等教育データ集』および『学校基本調査』

本書の構成

本書は 2 部から構成されている。第 I 部は卒業生調査のデータ分析である。序章では，以下 2 節で卒業生調査の実施と回収状況について簡単に紹介した後，3 節では調査結果の概要を報告する。結果の概要のみを把握されたい方は，序章だけを読んでいただければ，大凡の理解ができるようになっている。

続く第 1 章では，高校在学中の状況を視野に入れつつ専門学校での学習状況について報告する。進学選択の構造を意識しつつ，進学後の状況を中心に据えた考察となっている。第 2 章では，卒業後の初期キャリアの状況を，専門分野の違いを中心に報告する。従来の研究では表層的にしか明らかにされてこなかった領域である。第 3 章では，卒業後のキャリアを振り返って，卒業生が専門学校教育をどのように評価しているかを報告する。なお，第 1 章から第 3 章の報告の中には，序章と一部重複する記述もある。ただし，章としてのまとまりを優先させるため，そのまま掲載している点を予め断っておく。

第Ⅱ部は資料編である。まず，必ずしも十分な情報を提供できるには至っていないが，今回調査に参加した学校が，自校のデータをどのように受け止め，活用しようとしているのか，事例の一部を紹介している。また，本書の考察においては，全ての設問を取り扱えているわけではない。各設問への回答傾向に関心を持たれた方は，基礎集計表を掲載しているので，そちらを参考にして欲しい。

２．調査の実施プロセスと回収状況

社団法人東京都専修学校各種学校協会調査統計部の協力を得て，1. 在学中の経験，2. 卒業後の進路，3. 現在の仕事，4. 専門学校と仕事の関係，5. 専門学校に入学する以前の経験という，主として 5 つのパートから構成される調査票を作成し，専門学校卒業生に対する調査を 2007 年の 10 月から 2008 年の 1 月にかけて行った。首都圏の 12 の専門学校（農業・医療系除く）を 2000 年，2004 年，2006 年に卒業した（卒後 7 年目，3 年目，1 年目）5,904 名に調査票を郵送し，1,221 名から回答があった。回収率は 21%だった。

図 0-2 から図 0-4 に回答者のプロフィールを示した。専門学校の学生数で最大の学科を構成する医療系がサンプルに入っていないものの，その他の学科からは，まんべんなく回答を得ている。学科の構成比率を 2003 年の全国値（学校基本調査－農業・医療系を除いた値）と比較すると，工業(−8%)，衛生(−10%)，教育・社会福祉(+4%)，商業実務(+13%)，服飾・家政(+8%)，文化・教養(−9%)であり，商業・実務系と服飾・家政系の割合が高めになっている。性別にみると，女性の回答者が 6 割，男性の回答者が 4 割であり，卒業年は 2000 年卒，2004 年卒，2006 年卒が，ほぼ 3 分の 1 ずつと均等に回答が得られた。

図 0-2　学科の構成

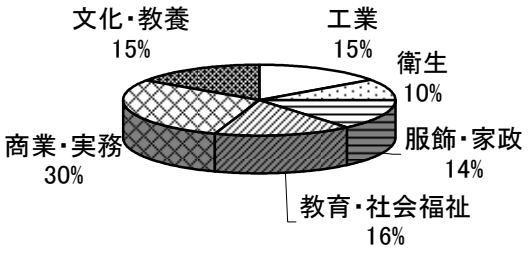


図 0-3　性別の構成

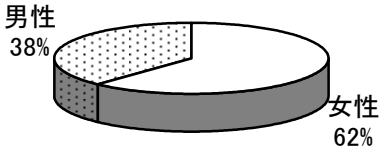


図 0-4　卒業年の構成

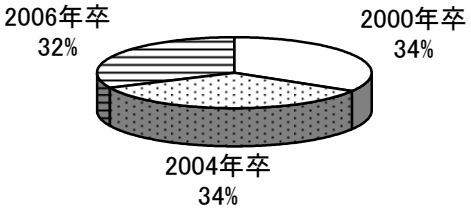


図 0-5　１日の勉強時間（自宅）

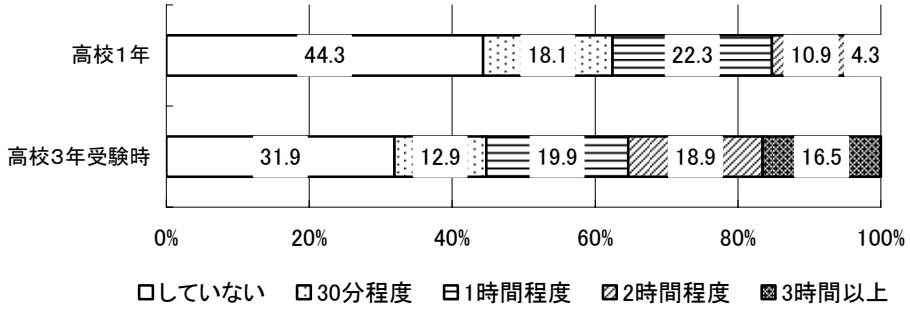
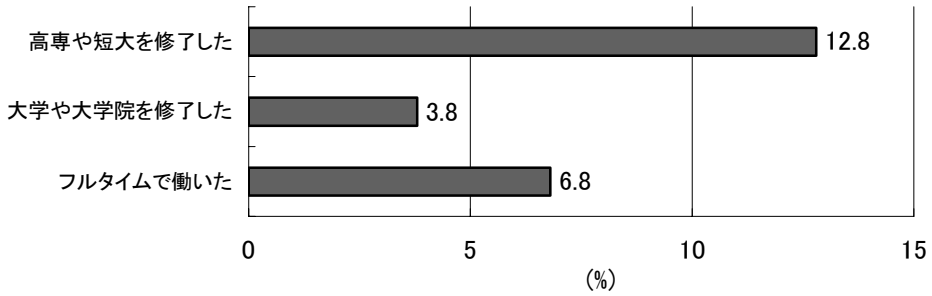


図 0-6　入学前に経験したこと



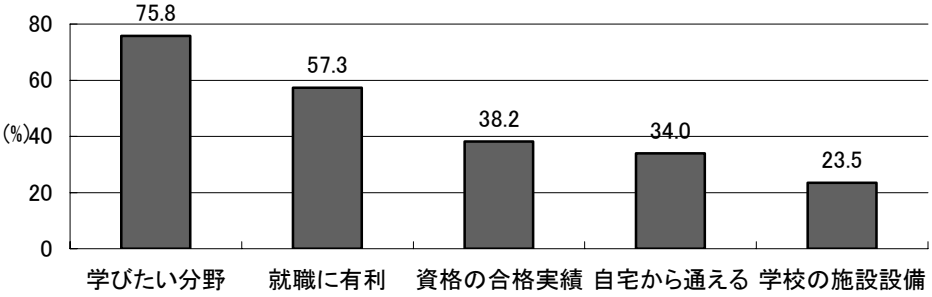
３．調査結果の概要

入学前の経験

高校在学中における１日の勉強時間をみると（図 0-5），自宅での勉強を全くしたことがない者は，高１時点では 44%と多く，高３の受験時になっても 32%にのぼる。他方で 35%は，高３の受験時には１日に２時間以上自宅で学習している。この結果は，入学前の学習習慣が２極化しているように見えるが，留意すべき点がある。それは，回答者の中に専門学校入学以前に短大や大学，大学院などで学んだ経験のある者が含まれているからである。

図 0-6 にあるように，専門学校に入学する前に 17%が高専・短大や大学・大学院を修了している。短大や大学への進学者の場合，高卒後にそのまま専門学校に進学した者よりも高校在学中の自宅での学習時間が長いと予想される。この点を検討すると，入学前に高等教育経験のある者では，そうでない者と比べて自宅でまったく勉強していない者の比率が，高１時点で６ポイント，高３の受験時で８ポイント低く，逆に２時間以上勉強している比率が，高１時点で 11

図 0-7　卒業した学校を選んだ理由



ポイント，高 3 の受験時で 14 ポイント高い。このように，高卒後すぐに専門学校に進学した者では，学習習慣が身についていない者が図 0-5 に示したよりも多いことに留意する必要がある。

なお，専門学校を選んだ理由としては，4 人に 3 人が「学びたい分野があったから」と回答し，6 割が「就職に有利だと思ったから」，4 割が「取得したい資格・検定の合格実績がよかったから」を挙げている。他の高等教育機関と比較して分野と就職先の関連性が相対的に強いと想定すれば，就職の視点をかなり重視した進路選択を行っている（図 0-7）。他方で，「希望の大学・短大・専門学校に進学できなかったから」を理由に挙げた者は 12%（大学等の進学経験者を除く）と多くない。主観的な意見ならびに既に専門学校を選択した後という限界はあるものの，この結果は，マクロの統計に依拠した分析でこれまで強調されてきた，専門学校進学の大学進学に対する受け皿的機能を必ずしも支持していない。

在学中の経験

図 0-8 は在学中の 1 週間の生活時間をみたものである。まず，7 割が 26 時間以上授業に出席している。この背景には，学校側の出席管理の厳しさも挙げられるが，授業には真面目に出席しているようである。また，入学前に学習習慣を身につけていない者が少なからずいたが，授業中以外の学習，つまり授業のための予習・復習については，約半数が 6 時間以上行っていると回答している。他方で，専門学校のカリキュラムは，大学等と比べればかなりタイトなスケジュールになっているが，アルバイトに費やす時間も予習・復習のための学習よりも長い傾向にある。

続いて，学習経験に対する評価である。カリキュラムに対しては，「業界や職種に直結するように教育目標が設定されていた」については 6 割が肯定的に評価している反面，「卒業までに何をどこまで学べばよいかが明確にされていた」と「カリキュラム全体の中での授業間の関係や位置づけが明確だった」については，肯定的な評価が 4 割にとどまる（図 0-9）。

図 0-8　在学中の生活時間（１週間の平均）

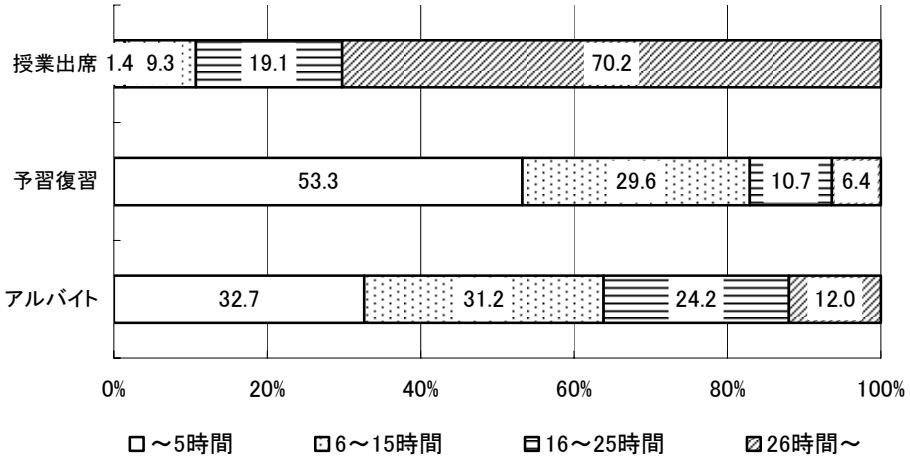
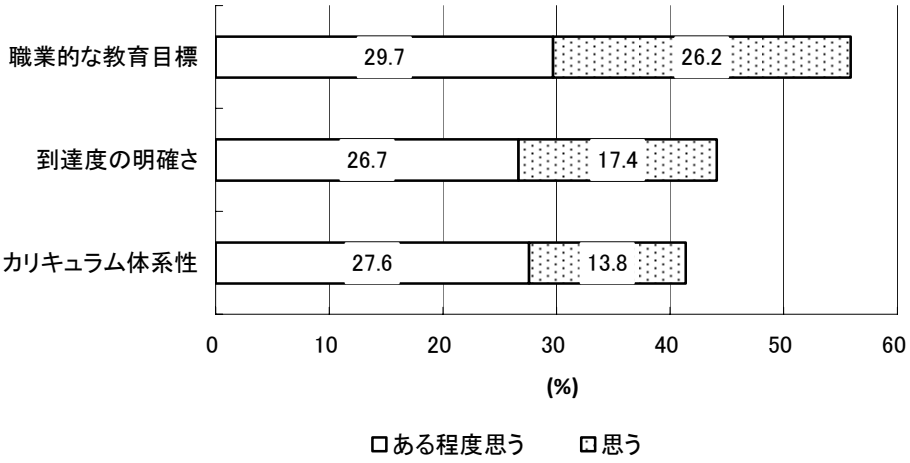


図 0-9　カリキュラムに対する評価



教育経験の充実度については，何れも平均点が 3 以上であり，肯定的な評価となっている。授業内容・方法に関わる項目の中では「専門的な知識や技術を身につける授業」，授業外のサポートに関わる項目の中では「就職・進路指導の体制」「資格の取得に役立つ情報やテクニックの提供」，人との交流に関わる項目の中では「学生同士の交流の機会」の評価が高い。他方で，授業の方法や学習環境に関わる項目に対する評価はさほど高くない（図 0-10）。

学習の成果として，卒業時点で身につけていた能力に対する自己評価をみたのが図 0-11 である（評価の高かった上位項目を抜粋）。最も評価が高いのは「礼儀・マナー」や「コミュニケ

図 0-10　教育経験の充実度（５段階評価）

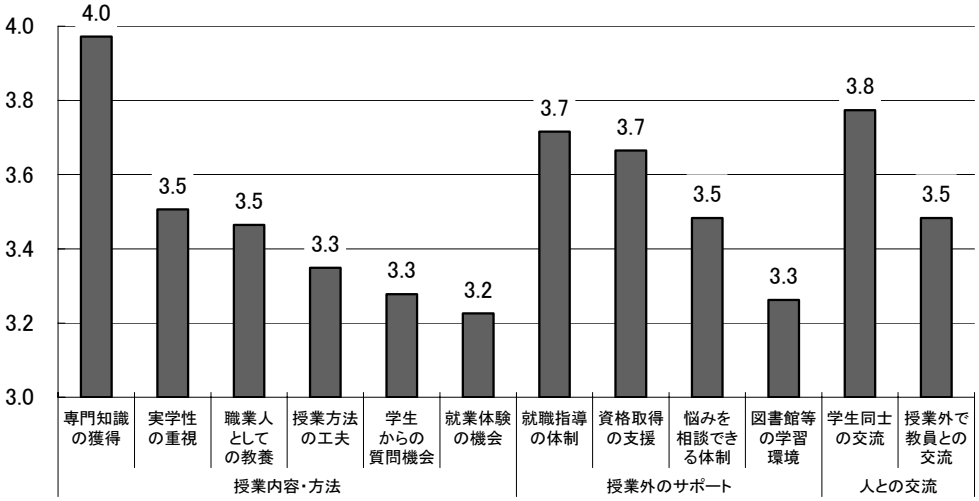
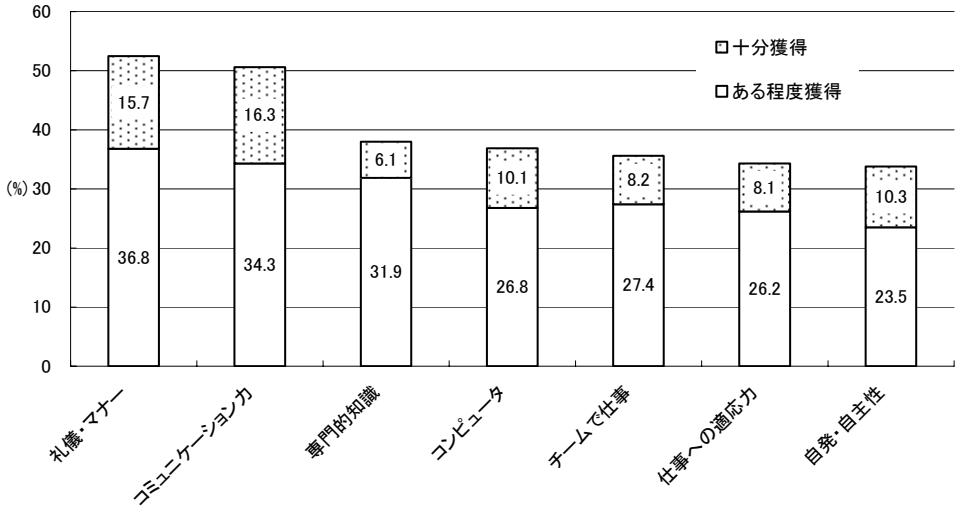


図 0-11　卒業時点で獲得していた能力



ーション能力」で，過半数が「ある程度獲得」「十分獲得」と答えている。同じ設問を，職場で要求される能力の水準についても行っているため，職場での必要性とその水準が高ければ，在学中の達成度評価は低くなる傾向にあるのかもしれないが，その他の「専門的な知識や技能」

図 0-12　在学中をふりかえって

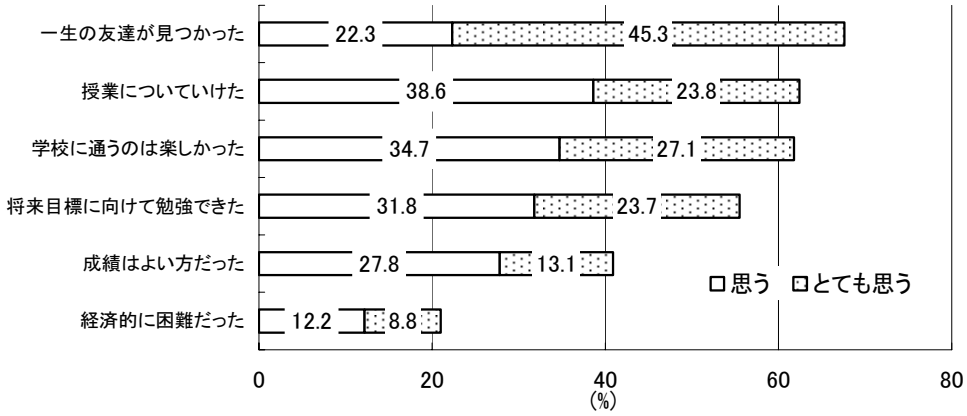
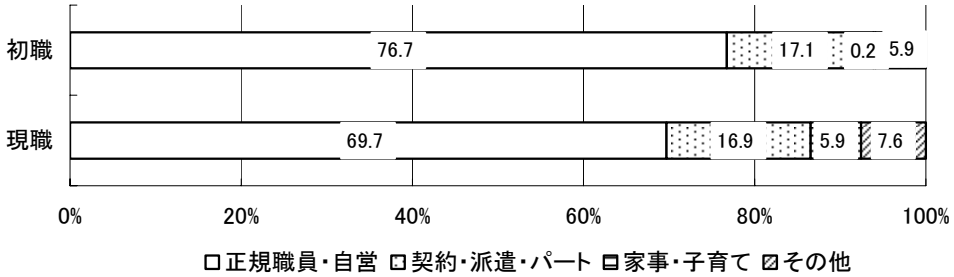


図 0-13　卒業直後と現在の状況



「コンピュータを使いこなす技能」を始めとする項目に対しては，何れも肯定的な評価が 4 割以下となっている。

在学中の経験全般についての評価は，「長くつきあえる友達が見つかった」「授業にはついていけた」「学校に通うのが楽しかった」という点については 6 割以上が肯定的に評価しており，「将来の目標に向かって勉強することができた」についても，過半数が肯定的な評価をくだしている（図 0-12）。

卒業直後の状況と現在の仕事

卒業直後の進路は，約 8 割が正規職員・自営に就き，約 2 割が契約・派遣・パートという構成になっている。また，現在においても前者が約 7 割，後者が約 2 割という構成である（図 0-13）。ただし，この数字は卒業年の相違を考慮していない。卒業後の年数が最も経過している 2000 年卒者の場合，正規職員・自営は 62%に減少し，家事・子育てが 14%に増加している。

図 0-14　在学中に取得した資格や獲得した知識・技能の有用性

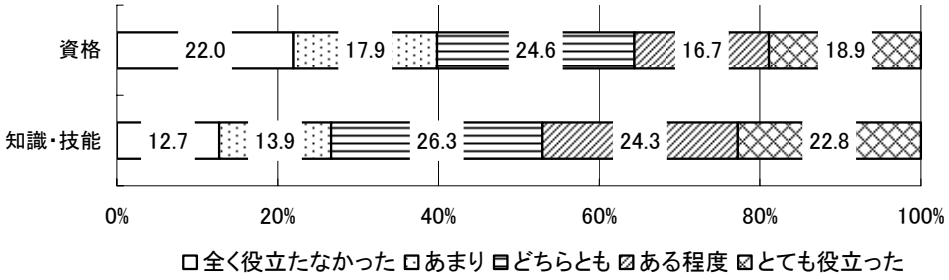
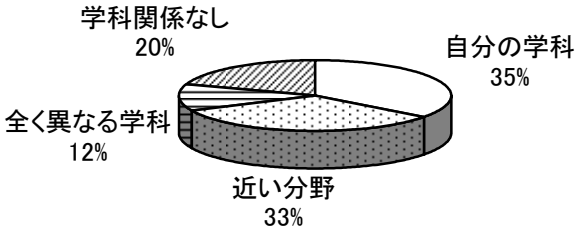


図 0-15　現在の仕事にもっともふさわしい専門分野



なお，3 人に 1 人は転職を経験しているが，初職における就職先の企業規模をみると，最も多いのは従業員規模が 99 人以下の企業で 44%が就職している。次いで 100-999 人の企業の 38%で，1,000 人以上の大企業就職者は 18%である。また初職の年収をみると，200-299 万円が 57%と最も多く，300-399 万円が 23%，199 万円以下が 17%と続き，400 万円以上は 3%である。また，最近の卒業生ほど初職の年収は低くなる傾向にあり，雇用条件が悪化している。

現在の仕事を行っていく上で，在学中に獲得した知識・技能や資格はどの程度役立っているのか。知識・技能については 47%が，資格については 36%が，「とても役立つ」「ある程度役立つ」と肯定的に評価している。他方で，「全く役立っていない」「あまり役立っていない」と否定的な評価をした者も，知識・技能については 26%，資格については 40%に達する（図 0-14）。

このように，学んだ内容の仕事に対する実質的な効用は必ずしも高くないが，学んだ学科と仕事の関係については，7 割は「自分の学科」あるいは「近い分野」がもっともふさわしいと回答している（図 0-15）。

最後に，現在の職場に対する満足度をみると，「今の会社・勤務先」には 4 割以上が満足しているものの，「専門学校卒業生の職場での評価」や「教育・訓練の機会」に対しては 2 割台の満足度にとどまり，「毎月の賃金」に対しては満足度が最も低くなっている（図 0-16）。出身学科

図 0-16　職場の満足度

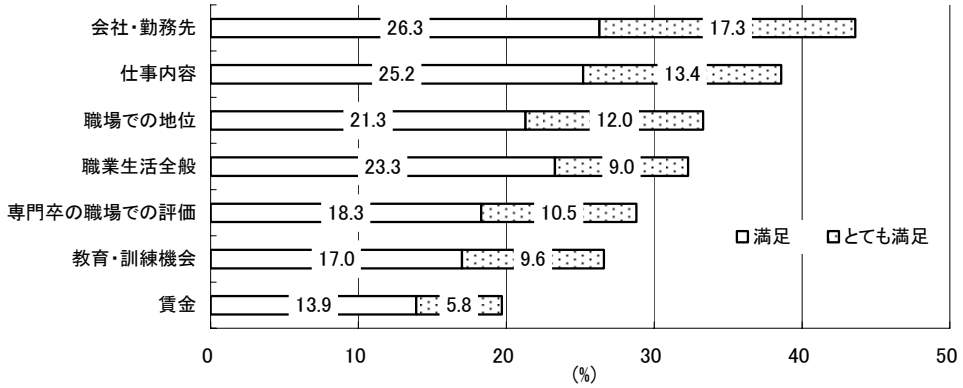
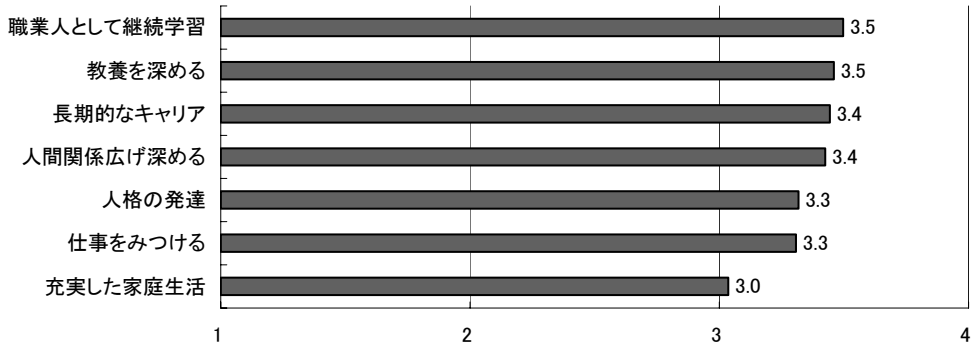


図 0-17　専門学校教育で役立っていること（５段階評価）



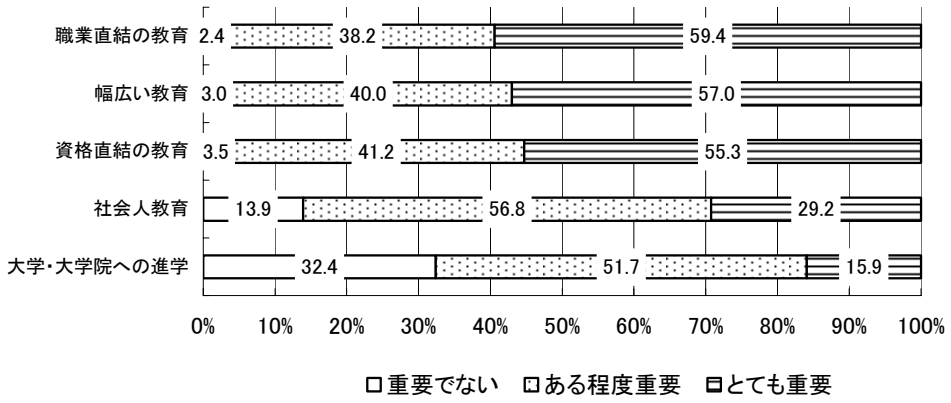
と仕事が対応していることもあり，仕事内容等に対する不満は少ないのかもしれないが，初職の年収のところでも触れたように，処遇面については課題が少なくなさそうである。

専門学校教育の評価

現在の生活における専門学校で学んだことの評価をみると，最も役立っていると評価しているのは「職業人としての学習を続けていく上で」である。ただし，その他の項目に対する評価との相違はそれほど大きいわけではなく，何れの項目に対しても平均値は 3 点をこえている（図 0-17）。

最後に，今後の専門学校に対する期待をたずねたところ，「職業にすぐ役立つ教育を行う」「資格に直結した教育を行う」「職業人としての幅広い教育を行う」の何れに対しても 95%以上が

図 0-18　今後の専門学校教育について



「重要」「ある程度重要」と考えていて，「大学生や社会人に職業教育を行う」（86%）や「大学・大学院に進学する道をひらく」（68%）についても重要視されている（図 0-18）。

【参考文献】

岩木秀夫・耳塚寛明　1986「専修・各種学校入学者増加メカニズムの高校階層別分析」『国立教育研究所紀要』第 112 集。

政策科学研究所　2004『専門学校等における高度専門人材育成』平成 15 年度経済産業省委託調査。

塚原修一　2005「専門学校の新たな展開と役割」『日本労働研究雑誌』No.542，日本労働研究機構，70-80 頁。

筒井美紀　2007「専修・各種学校は競合的か」『月刊高校教育 9 月号』学事出版，32-35 頁。

濱中淳子　2007「高等教育における専修学校の役割：入口と出口からの検証①高校生の進学行動からみた専修学校」『IDE』No.492，IDE 大学協会，73-77 頁。

耳塚寛明　2000「進路選択の構造と変容」樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・苅谷剛彦編著『高校生文化と進路形成の変容』，学事出版，65-82 頁。

矢野眞和・濱中淳子　2006「なぜ，大学に進学しないのか」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第 79 集，東洋館出版社，85-104 頁。

吉本圭一　2003「専門学校の発展と高等教育の多様化」日本高等教育学会編『高等教育研究』第 6 集，玉川大学出版部，83-103 頁。

第１章　専門学校選択と進学後の学習行動

立石　慎治
（広島大学）

この章では，専門学校の「入り口」と「中身」，つまり高校在学時の学習行動や進路選択の状況を踏まえつつ，専門学校進学後の学習行動の状況を報告する。

１．本章の目的と分析の枠組み

本章の目的

本章の目的は，専門学校教育が専門学校生の学習行動に及ぼす影響を検討し，高等教育機関としての専門学校が果たしている役割と今後について議論することである。

序章で述べられているように，教育社会学の研究は専ら「入り口」へ着目し，専門学校を「受け皿説」，あるいは「就職有利説」の観点から位置づけてきた。繰り返しになるが，「受け皿説」とは，簡潔に述べると，専門学校を大学進学ができなかった者の受け皿と見る立場である。一方，「就職有利説」とは，大学よりも職業に直結した教育を受けるために学生が専門学校を選好していると見る立場である。言い換えると，専門学校進学に対する 2 つの見方は，専門学校進学を積極的に見る立場と消極的に見る立場を表している。

教育社会学研究が「入り口」に着目してきた一方で，高等教育研究は「中身」，すなわち入学後に対して関心を注いできた。高等教育機関の立場からすると，自校の教育を通して学生に影響をどれだけ及ぼしえたのかという点は，教育機会の提供と同様に重要である。必修カリキュラムや出欠管理を通じた「しつけ」の機能を専門学校が有しているという観点を吉本（2003）がマクロデータの分析結果から提示しており，ミクロデータによる更なる検証が望まれる。

したがって，本章では専門学校生の学生生活を検討する。とりわけ学習行動に焦点を当てる。また，専門学校に進学した層が進学以前にどのような層であったかという点もデータの許す範囲で考慮しつつ，分析を行う。学習行動に焦点を当てた理由は，上述の通り，教育機関であるという点を鑑みた結果のためであり，進学以前も考慮する理由は，学生に及ぼす影響に焦点が当てられる以上，学生に生じる変化が問われなければならないためである。

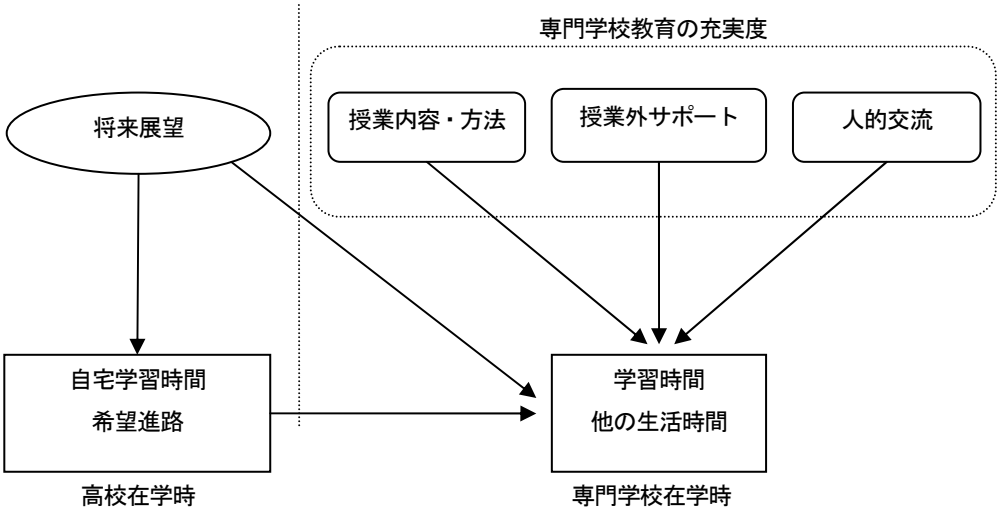
分析の枠組み

本章の分析枠組みを図 1-1 のように設定した。就職有利説に則れば，将来の職業展望が明確であり，それに必要な知識・技能等を獲得するべく進路選択や学習を行うと仮定できる。逆に，

将来展望が明確でない者は，進路選択や学習する動機付けが弱いと考えられる。このことは，「高校在学時の将来展望が高校での学習時間ならびに希望進路を規定している」という仮説に置き換えられる。そして，専門学校進学後では，在学中の諸活動に対して将来展望が引き続き影響すると予測される。その一方で，高校在学時の学習習慣は専門学校進学後の学習行動に影響するとも考えられる。つまり，「将来展望と高校で得た学習習慣は専門学校進学後の諸活動に影響を及ぼす」という仮説が成立する。しかし，専門学校在学時の諸活動が高校在学時の意思や習慣だけに規定されるとは考え難い。専門学校が提供している教育も影響を及ぼすはずである。したがって，「専門学校教育が専門学校在学時の学習行動を規定する」という仮説も設定する。

以上に従い，高校在学時の将来展望が高校での勉強や希望進路に及ぼす影響の検討は 2 節で，高校在学時の将来展望や自宅学習の習慣が専門学校での学生生活に及ぼす影響の検討は 3 節で行う。そして，4 節で専門学校教育の充実度を検討した後，分析枠組みのなかでも学習時間に焦点を当てて，専門学校教育が専門学校生の学習時間に及ぼす影響の全体的な構造を示す。

図 1-1　分析の枠組み



２．高校在学時における進路の展望と学習行動

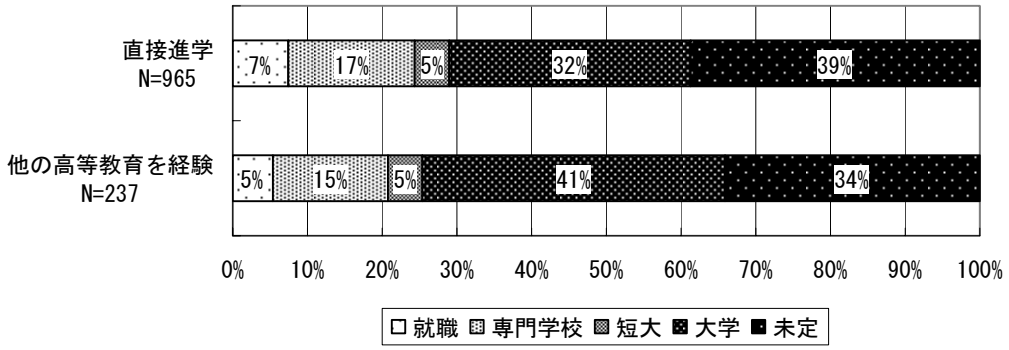
希望進路と学習時間

まず，高校在学時の希望進路がどうであったかを確認する。高校 1 年次と高校 3 年次の進路希望を図 1-2 に示した。直接専門学校に進学した者と，他の高等教育を経験した後に専門学校

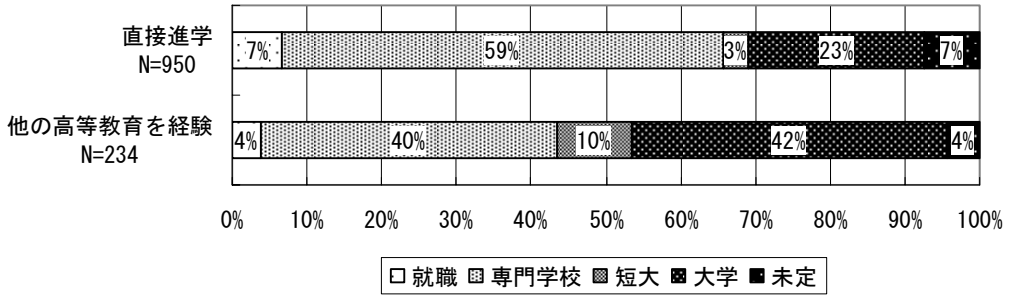
に進学した者を分けて提示している。高校１年次では，卒業直後に専門学校に進学した者でも，他の高等教育機関に進学した者でも，大学あるいは未定と回答した者が 70%を超えている。高校１年次の段階では，後の進路との関連はまだ見出せない。しかし，高校３年次の進路希望を見ると，専門学校に進学した者では専門学校と回答した者が，他の高等教育機関に進学した者では大学と回答した者が最も多い。

図 1-2　希望進路

高校１年次



高校３年次



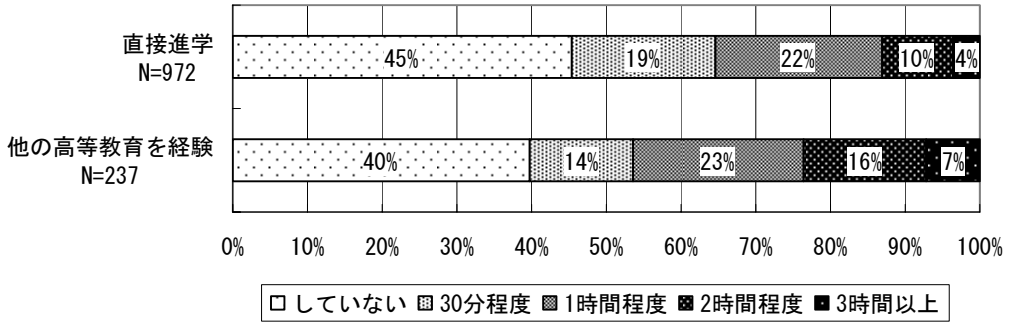
ここで重要なのは，次の２点である。１点目は，「就職有利説」と「受け皿説」あるいは，積極進学層と消極進学層は併存していることである。専門学校に直接進学した者の希望進路をより詳しく見ると，最も多い専門学校が希望進路だった者は，専門学校への進学を積極的に捉えていた層だと考えられる。専門学校進学に積極的な位置づけをしていた学生がいる一方で，専門学校以外の他の進路，特に大学を希望していた者がおよそ４人に１人の割合で存在している。これは，従来言われてきた「受け皿説」が該当する人々だと考えられる。

２ 点目は，他の高等教育機関に進学した者のなかにも，専門学校への進学を希望していた者

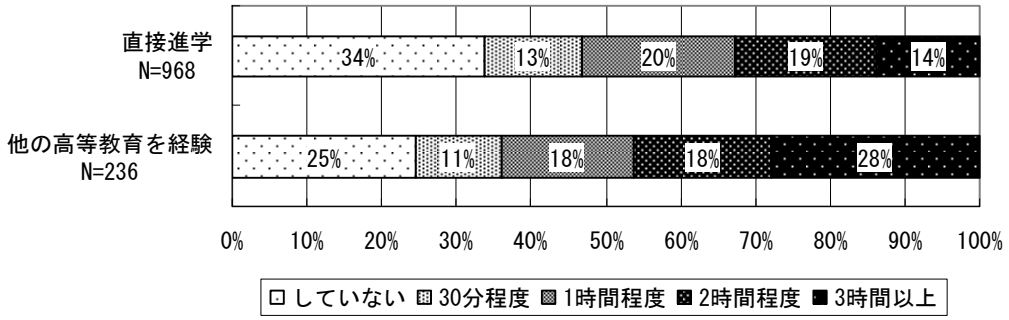
が含まれていることである。他の高等教育機関に進学した者の高校３年次の進路希望は大学と回答した者が多いが，これは当然の結果である。しかしながら，専門学校に進学したかったと回答している者が同じ程度いるのは重要な点である。従来の「受け皿説」では，専門学校は大学の代わりとして位置づけられていたが，現実には，専門学校進学の代わりに大学等の，他の高等教育機関に進学するという逆の関係も成り立っている。そして，この調査データに含まれていることから明らかなように，高校の時点で専門学校進学を希望していながら実際には進学しなかった者が，結局，後に専門学校に進学している。家計や家族の反対などが原因として推測されるが，このことがどのような原因のもとに生じているのかは，今後の課題として提示するに留める。

図 1-3　自宅学習時間

高校１年次



高校３年次



次に，学習時間について確認する。高校１年次と高校３年次の学習時間を図 1-3 に示した。直接専門学校に進学した者と，他の高等教育を経験した後に専門学校に進学した者を分けて提示してある。

高校 1 年次では，卒業直後に専門学校に進学した者でも，他の高等教育機関に進学した者でも，まったく勉強していなかったと回答した者が 4 割を占めている。3 時間以上と回答した者は 1 割を下回る。高校 1 年次の段階では，希望進路と同様に，自宅学習時間と後の進路との関連はまだ見出せない。しかし，高校 3 年次の進路希望を見ると，専門学校に進学した者でも，他の高等教育機関に進学した者でも，自宅学習を行う者の比率は増えている。特に他の高等教育機関に進学した層では，3 時間以上と回答した者の比率がおよそ 3 割を占めており，専門学校に直接進学した層と比べて 2 倍となっている。専門学校に直接進学した者でも，まったくしなかったと回答している割合は減っている。

高校 1 年次と高校 3 年次の自宅学習時間は，統計的に有意な [1]正の関連を示している [2]。つまり，高校 1 年次で自宅学習時間が多ければ，高校 3 年次の自宅学習時間も多い傾向にある。したがって，専門学校に直接進学した層でも，他の高等教育機関に進学した層でも，自宅学習が習慣化している者とそうでない者とに分かれている。

将来展望による分化

それでは，将来展望という視点から，進路希望や高校での学習時間を検討する。

「将来やりたいことがあった」という軸と，「学びたい分野があった」という軸の，2 軸を用いて将来展望を整理する。現代の日本では，将来やりたいこと，あるいは学びたい分野が明確になっていることは学習のモチベーションとなると考えられている。キャリアガイダンスや職業体験には，将来やりたいこと，あるいは学びたい分野を明確にすることであり，その結果として普段の学習に対するモチベーションの上昇が期待されている。この期待通りであれば，将来展望によって進路希望や自宅学習時間の分化が見られるはずである。

そこで，「将来やりたいことがあった」と「学びたい分野があった」という 5 段階尺度の問いのそれぞれに「当てはまる」側（5 段階の 4 と 5）に回答したか，「当てはまらない」側（5 段階の 1～3）に回答したかで 4 つの類型を便宜的に設定した。「将来・分野明確層」，「分野明確層」，「将来明確層」，「将来・分野不明確層」の 4 類型である。

類型の分布を，表 1-1 に示した。もっとも多いのは将来・分野明確層の 40%であり，次に多いのは将来・分野不明確層の 38%となっている。どちらか片方だけが明確だという分野明確層や将来明確層はそれぞれ 14%，7%と少ない。したがって，高校生の将来展望は大きくは二極分化していると解釈してよいだろう。この類型を当てはめた上で，進路希望，自宅学習時間の順に再度確認していく。

表 1-1　将来展望類型の分布

	将来・分野明確層	分野明確層	将来明確層	将来・分野不明確層	合計
度数	393	141	72	376	982
%	40%	14%	7%	38%	100%

まずは進路希望から見ていく。類型ごとに，高校 1 年次と高校 3 年次の進路希望を図 1-4 に示した。直接専門学校に進学した者と，他の高等教育を経験した後に専門学校に進学した者とを分けて提示してある。

高校 1 年次の進路希望ははっきりとしていなかったと回答した者が 3 割から 5 割に分かれている。しかし，直接進学層でも，他の高等教育に進学した層でも，この時点では類型間に統計的に有意な差は見られない。そこで高校 3 年次の進路希望を見ると，専門学校への進学を希望していたと回答した者が，専門学校に直接進学している層で 5 割から 7 割，他の高等教育に進学した層でも 3 割から 7 割を占めるようになり，分化が生じてくる。他の高等教育機関に進学した層では，希望進路を大学と回答している者も多いが，これは整合的な結果である。一方で，専門学校へ直接進学した層で専門学校進学と答えた者の割合は，将来・分野明確層で 7 割，分野明確層と将来明確層で 5 割，将来・分野不明確層で 4 割であり，類型と希望進路の間には統計的に有意な関連がある（X2 乗検定）。以上の結果を踏まえると，専門学校に直接進学した層で将来展望を明確に抱いている者は，自身の展望に照らし合わせた上で専門学校進学を選んでいると解釈できる。

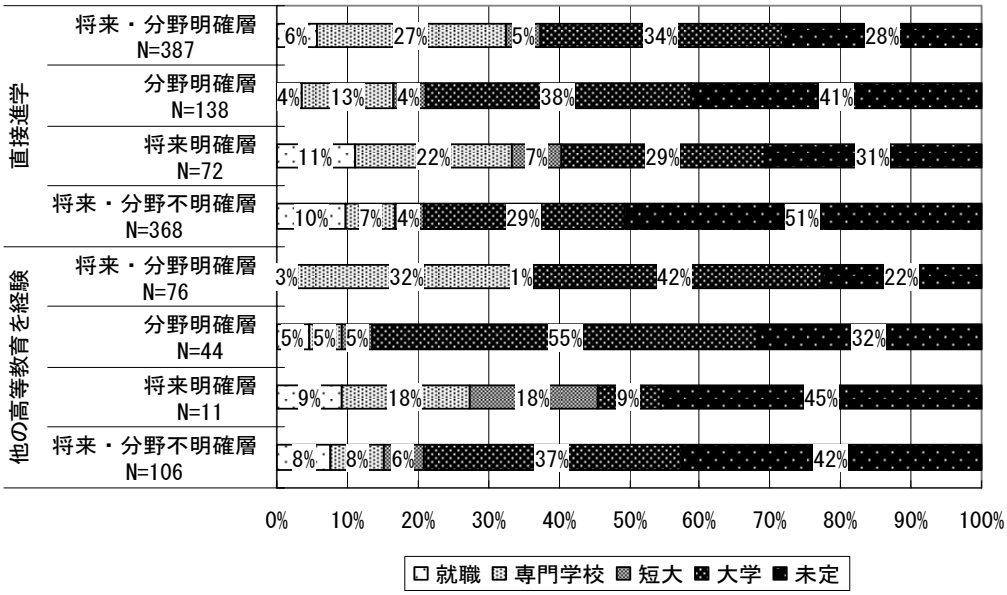
次に，自宅学習時間を見ていく。類型ごとに，高校 1 年次と高校 3 年次の自宅学習時間を図 1-5 に示した。また，以下では他の高等教育機関に在学した経験の有する者は分析から除いている。高校 1 年次の時点でも，高校 3 年次の時点でも，類型間で自宅学習時間が異なるということはなかった。類型間による自宅学習時間の差はなかったが，どの類型でも高校 1 年次と高校 3 年次の自宅学習時間は統計的に有意な関連を示した [3)]。学習時間については類型を問わずに習慣化していると解釈できるだろう。類型によって関連度合いに若干の強弱はあるものの，自身の将来展望によって，学習行動が左右されるということはないと解釈できる。

将来展望によって学習行動が左右されないことの原因を直接検討することは本章の課題ではないが，考えられるものをいくつか提示しておく。1 つは，高等教育機関が増えたために，進学のために学習する圧力が弱まっている傾向にあることが挙げられる。進学希望先が明確に絞られているのであれば別だが，進学先を選ばないのであれば，無選抜や実質的に選抜が機能していない高等教育機関があるために，かつてほど学習しなくても進学できる環境が成立しつつある。もう 1 つは，将来展望が明確であっても，実際に高校で学んでいる内容との関連が把握し難いために，行動にまで繋がりづらいことが挙げられる。ここに挙げられていない要因もあると考えられ，また，単一の要因だけでなく，それらが複合的に影響していると推測される。

しかし，高等教育機関としてより重要なのは，学習習慣がない者を受け入れなければならないことである。学習習慣ができている学生はともかく，学習習慣がない学生に対していかに教育を通して影響を及ぼすことができるか，という問いが課題となる。

図 1-4　高校在学時の進路希望

高校１年次



高校３年次

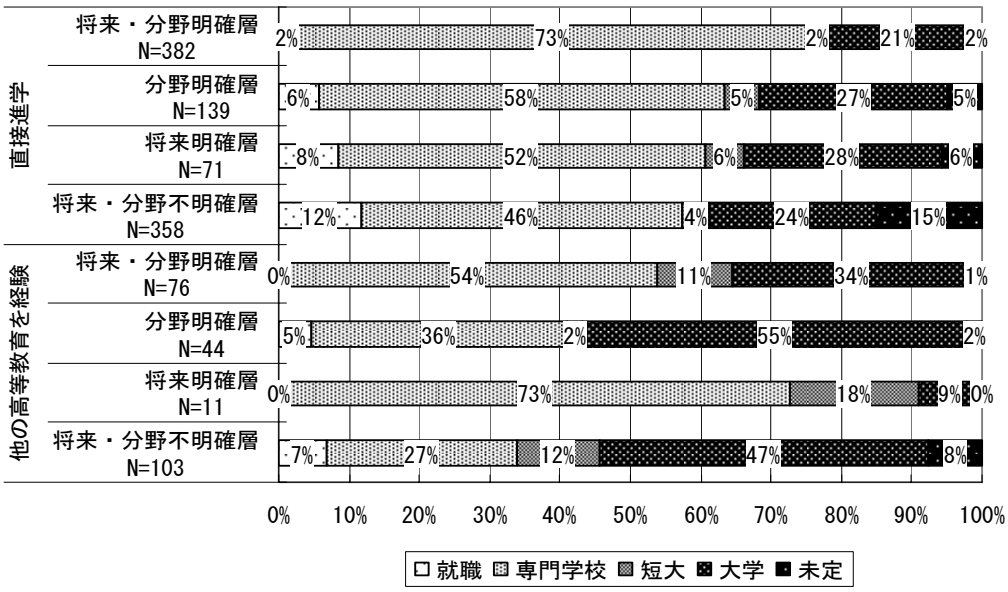
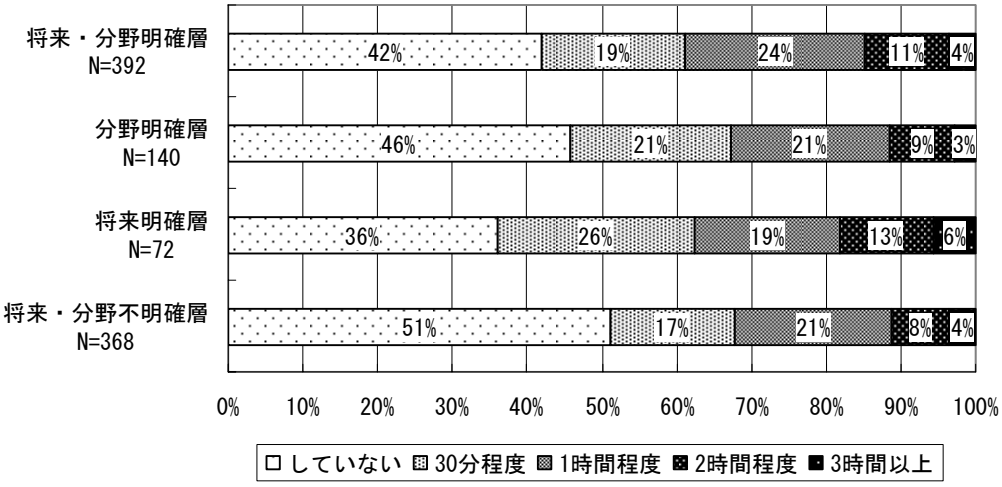
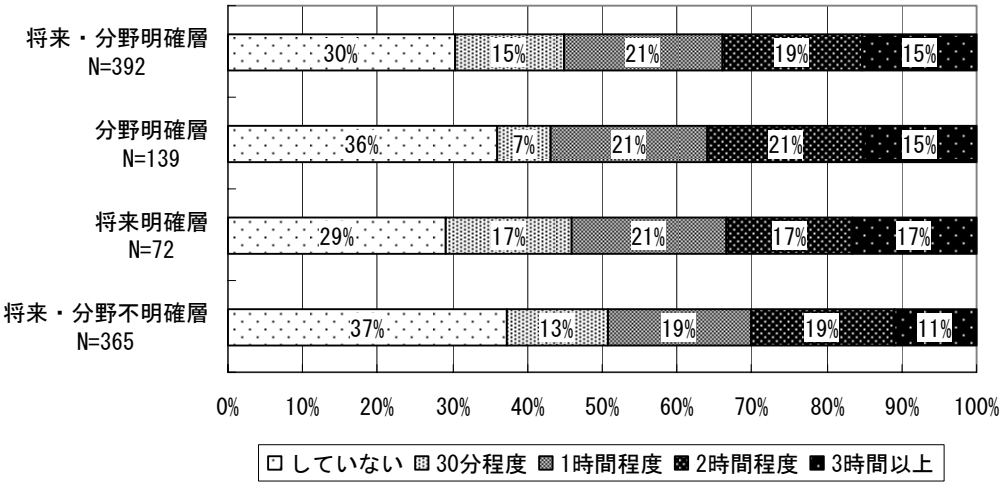


図 1-5　高校３年次の自宅学習時間

高校１年次



高校３年次



進路希望と学習時間のまとめ

本節では，進路希望ならびに学習時間について，将来展望を交えながら見てきた。

将来展望は進路希望と関連している。確かに，専門学校に直接進学した層でも，他の高等教育機関に進学した層でも，自身の希望とは異なる進路を選んだ者が含まれており，受け皿説が当てはまる余地はある。しかし，特に専門学校に直接進学した層では将来展望が明確な層ほど

専門学校への進学を選択しているようであり，就職有利説的な，あるいは積極的な意義付けをした集団のほうを多く見出すことができる。

ところが，将来展望は自宅学習時間には関係せず，自宅学習時間は学び習慣に従っていると推測される。自身の将来展望を明確にさせることで学習に対するモチベーションを上げるという策は，高校在学時の段階ではそれほど効果を持っているわけではなかった。そのため，専門学校に進学してきている者の中には，高校在学時には学習習慣を身につけることがなかった学生が含まれていた。

以上を踏まえると，就職がより現実味を帯びてくる専門学校において，将来展望を抱いて入ってきた学生が実際にどのような学習行動を行うのか，一方で，学習習慣が全くなかった学生が専門学校入学によって学習するようになったのかという点が検証課題となる。次節では，専門学校在学時の学生生活を分析する。

３．専門学校在学時の学生生活

前節では高校在学時の状況を確認したが，本節からは専門学校在学時の学生生活について検討する。特に学習行動を中心に概観する。その際，高校時の将来展望と，高校時の自宅学習時間の 2 点から検討する。

将来展望と学生生活：熱心度と生活時間

まずは全体の傾向を確認しておく。熱心度から見ていく。図 1-6 に専門学校生の諸活動に対する熱心度を示した。専門学校に在学していた時に熱心に行っていたのは，授業，就業体験，友達付き合い，アルバイトである。この 4 つの項目では，力を注いでいた側（4 ならびに 5）に回答している者の比率が 50%前後を占めている。なかでも，授業と友達付き合いの場合は 60%を超えており，特に専門学校生にとって重要であったことが推察される。対照的に，授業外での勉強や，課外活動については他の 4 項目ほどの熱心さは見られない。授業外での勉強に力を注いでいた者の比率は 30%を下回っている。課外活動に至っては，力を注いでいた者の比率は 10%を下回っている。

熱心度だけではなく，実際の生活時間の面からも専門学校生の学生生活を確認しておく。図 1-7 に専門学校生の 1 週間の生活時間を示した。専門学校在学時の生活時間は，授業が中心を占めている。専門学校生全体の 90%が 16 時間以上を授業出席に費やしている。対照的に，授業外での勉強はほとんど行われていない。予習復習をまったく行っていなかった者は 9%であり，10 時間を下回る者は全体の 72%を占めている。また，課外活動はほとんど行われていない。まったく行っていなかった者が 77%，5 時間を下回る者で 92%を占めている。アルバイトに費やす時間は，これまで見てきた授業や予習復習，課外活動とは異なり，16 時間以上と回答した者も 37%いる。以上を見ると，専門学校生の学生生活は，学校での授業の出席が大部分を占め，

図 1-6　専門学校在学時の諸活動に対する熱心度

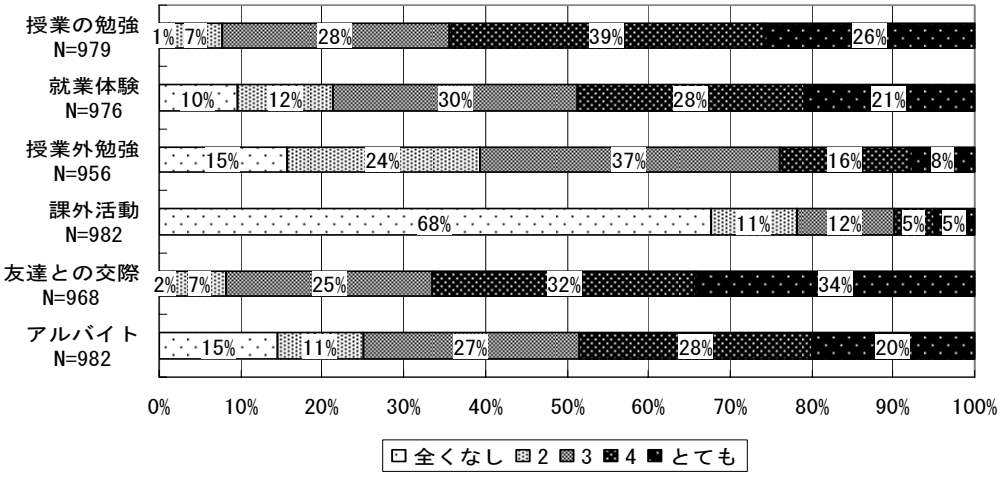
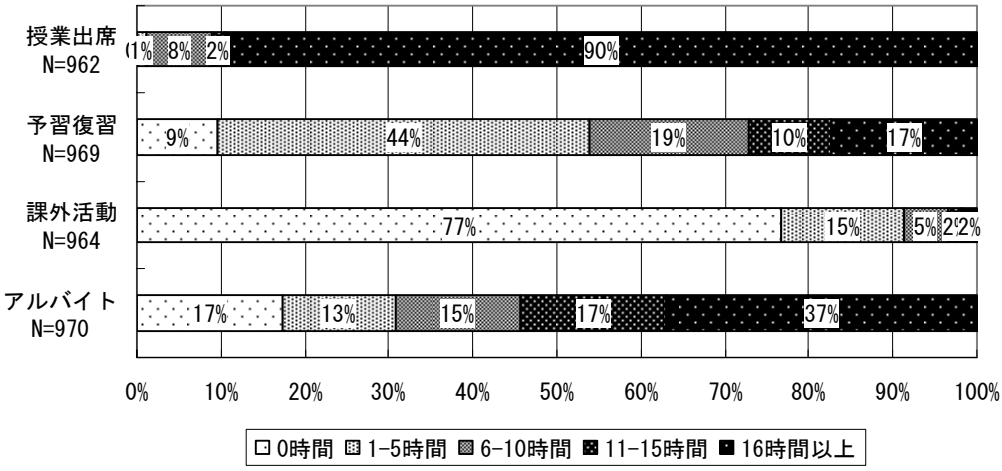


図 1-7　専門学校在学時の生活時間

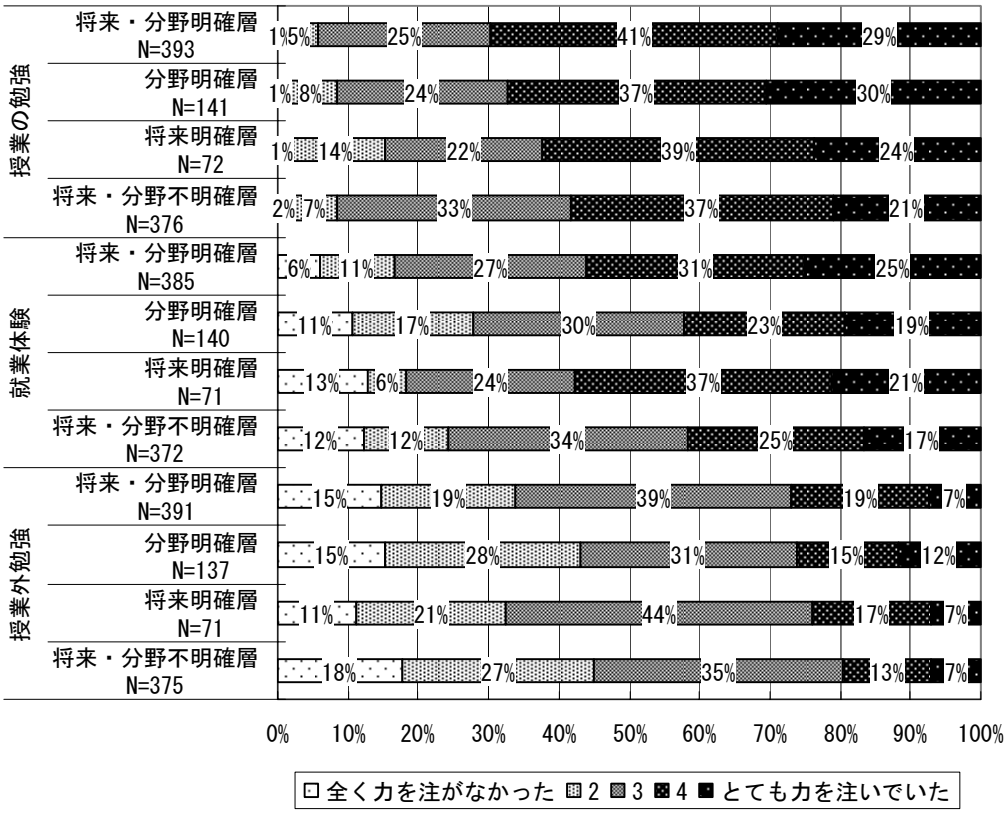


授業以外の時間はアルバイトと若干の予習復習に充てられている。

熱心度と生活時間を見たところ，専門学校生の学生生活は授業を中心に回っていた。授業外の学習や課外活動といった教室外の活動よりも，実際の教室における活動に時間が割かれていた。一方で，アルバイトについては熱心度，費やした時間のともにばらつきがあった。

以上から専門学校生の平均像が得られたが，それでは，高校時に比べて就職がより現実味を帯びてきていると考えられる専門学校在学時では，高校在学時に抱いた将来展望によって，学生生活に異なる点が見られるだろうか。そこで，将来展望と熱心度の関係を見ることにしよう。

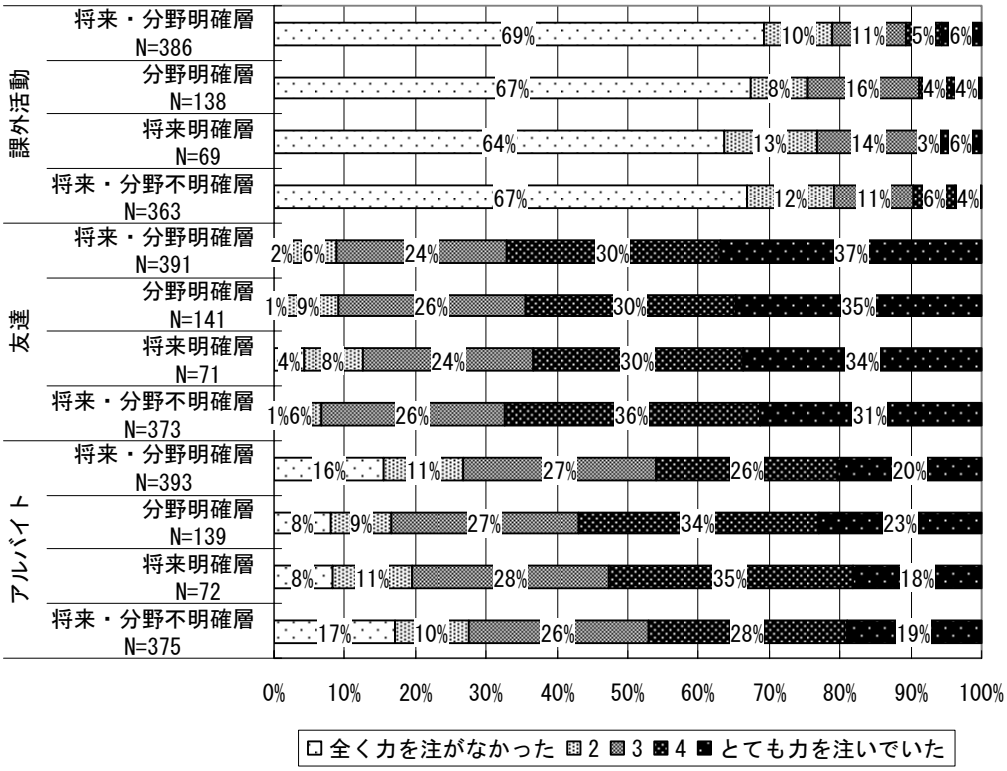
図 1-8　学生生活の熱心度：授業関連



まず，学生生活のなかでも，いわゆる正課に関連する熱心度を図 1-8 に示した。授業の勉強に関しては，将来展望の明確な者が勉強する傾向が見られた。将来・分野ともに明確な層と分野明確層に比べて，将来明確層は勉強していなかったと回答した者が多めである。力を注いでいたと回答した者が最も少なかったのは，両方明確でなかった層である。将来展望の類型間で統計的に有意な差がある。就業体験に関しては，将来展望の中でも将来やりたいことの有無と関連している。将来・分野明確層と将来明確層は就業体験に熱心だった傾向が見られる。分野明確層や両方不明確層は他に比べて注力していなかったと解釈できる。この点についても，将来展望の類型間で統計的に有意な差がある。授業外での勉強は，概して力を注いでいなかった。どの層でも，中程度と回答している者が多く，熱心に行っていなかった。この点については，将来展望の類型間で統計的に有意な差が見られなかった。

次に，学生生活のなかでも，正課外に関連する熱心度を図 1-9 に示した。課外活動，友人関係，アルバイトについては，どの項目についても将来展望の類型間で統計的に有意な差が見られなかった。後の将来展望に関する類型であるため，正課外の諸活動について分化が見られる

図 1-9　学生生活の熱心度：授業外関連



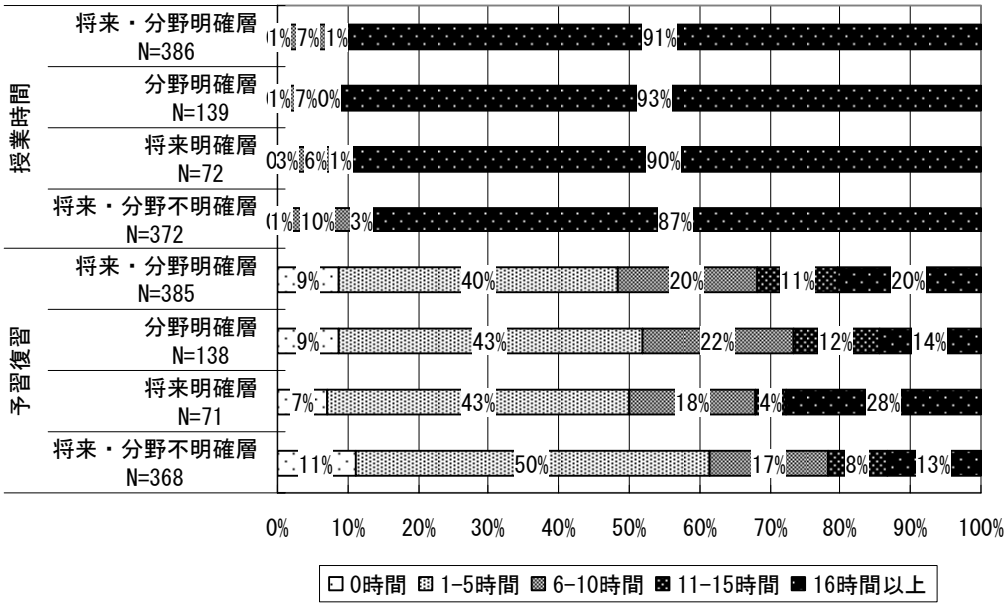
とは考えられず，整合的な結果だと解釈できる。課外活動はほとんど重視されていない。どの類型でも，友人関係，アルバイトは重視されている。

そこで，更に生活時間を見ていくことにしよう。図 1-10 に，授業関連の項目と授業外関連の項目を分けて，将来展望ごとに専門学校生の生活時間を示した。

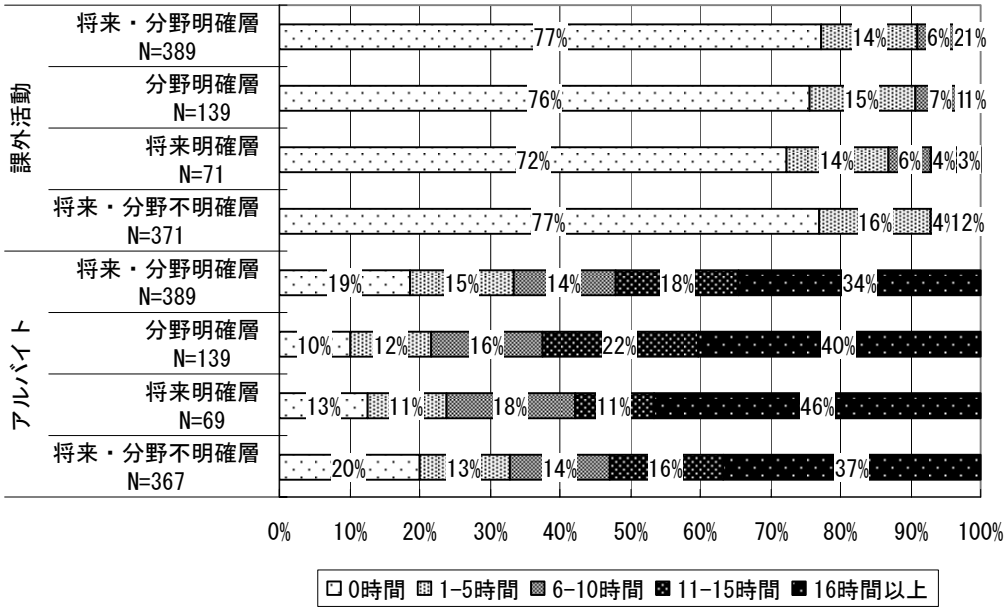
まずは授業に関連する生活時間から見る。やはり，授業の出席が生活の中心を占めている。授業時間については類型間で統計的に有意な差が見られたが，コースワークが定められているため，類型間に差があるといっても大きな差異が見られるというわけではない。総じて授業が生活の中心であることに変わりはない。むしろ注目されるのは，将来展望が規定していると考えられる予習復習に関して，統計的に有意な差は見られなかったことである。将来・分野明確層と将来明確層において，16 時間以上を費やしている者が 20%から 30%存在しているが，基本的にはどの類型においても，10 時間を下回っていた者が 70%前後を占めており，前に確認した全体的な傾向と変わりがない。次に，生活時間のなかでも授業外に関連する生活時間を見ると，授業外に関しては熱心度と同様に，生活時間についても類型間で統計的に有意な差は見られなかった。課外活動については，どの類型でもまったく行っていなかった者が 70%を超え，

図 1-10　将来展望と生活時間

授業関連



授業外関連



5 時間以下が 90%を占めている。アルバイトについても，全体的な傾向と同様に，費やす時間はばらついている。

予習復習時間が少なく，アルバイトが多いことについては，今回用いているデータから是非を判断することは難しい。学費等を捻出するためにアルバイトしているのかもしれない。カリキュラム上，予習復習を必要としないのかもしれない。ただし，確かに言えることは，アルバイト時間が多いと予習復習に時間を割くのは物理的にできないということである。授業時間が生活時間の多くを占めている以上，アルバイトが増えれば予習復習の時間を削らざるを得ない[4]。高度専門士の創設など，専門学校教育の高度化が進んだ以上，授業に留まらず予習復習を含むトータルな学習をどう提供していくかという点が今後問われるだろう。

学習時間の変化

次に，学習時間の変化も検討しておく。前項でも述べた通り，必修カリキュラム等によってコースワークが定められているため，授業への出席については高校時の学習習慣によって差異が生じる余地はほとんどないと考えられるが，予習復習に費やす時間は差が生じる余地がある。そこで，高校 3 年次の自宅学習時間別に専門学校での予習復習時間を図 1-11 に示した。

もっとも注目すべきなのは，専門学校進学後に予習復習をするようになった層が存在することである。高校 3 年次は自宅学習をしていないと回答した者の 80%が専門学校での予習復習に時間を費やしている。高校 3 年次に自宅学習を少しでも行っていた者に比べれば 80%という比率は低いが，専門学校進学後に予習復習をするようになったのは確かである。

学生生活のまとめ

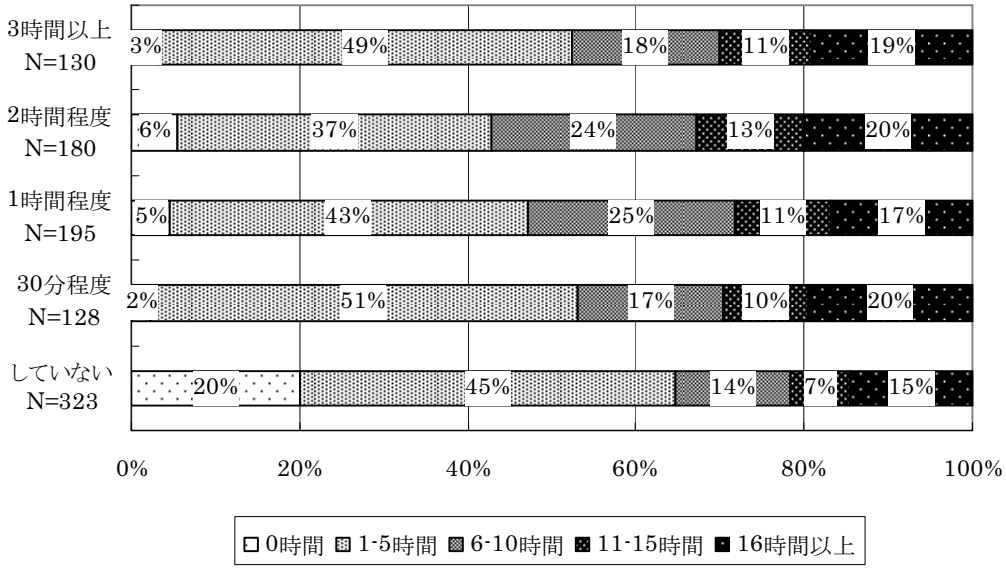
本節では，専門学校在学時の学習行動について，高校時の将来展望と高校時の自宅学習時間の 2 点から検討した。専門学校生の学生生活は，学校での授業の出席が大部分を占め，授業以外の時間はアルバイトと若干の予習復習に充てられている。将来展望は，授業への出席には影響していたが，正課外の諸活動に対しては影響がなかった。また，自宅学習の習慣がなかった者に予習復習を習慣づけてもいた。

専門学校生の学生生活が以上の状況にある一方で，提供されている専門学校教育がどのような状況にあるのか，それらが専門学校生にどう影響を及ぼすかという点を次節で検討する。

４．専門学校教育の有効性：充実度とその影響力

以上までで見てきたのは，専門学校生個人の意識や行動であったが，専門学校が提供している教育にも目を向ける必要がある。本節では，専門学校教育の実態と専門学校教育が個人の学習に及ぼす影響力を検討する。

図 1-11　専門学校での予習復習時間（高校 3 年次の自宅学習時間別）



専門学校教育の充実度

専門学校が行っている教育を表す代替指標として，充実度を用いる。確かに充実度は，校地面積や 1 クラスの人数･規模といった客観的な情報ではなく，個人の主観的な評価であるため，他の要因が影響する恐れを排除できない。しかし，今回は，利用できるデータについては最大限用いるという立場を取った。以上を踏まえ，表 1-2 に専門学校教育の充実度を示した。

全体の傾向を見ると，どの項目についても平均値は 3 以上を示しており，専門学校教育が充実していたことを示している。しかし，詳細を見ると，必ずしも専門学校教育が全面的に優れていたわけではない。

授業内容・方法に関する充実度を見ると，授業内容のなかでも専門知獲得については充実していたが，実学性，教養については相対的に充実していなかった。また，授業方法については授業方法の工夫や質問機会のどちらも授業内容の充実度と比べて相対的に充実していなかったことが見て取れる。授業内容・方法については，専門学校教育は専門学校生に対して充実した教育内容を提供できており，特に専門知の獲得に繋がるコンテンツの提供には成功している一方で，授業方法の工夫や質問機会といったメソッドについてはこれからの充実が期待される結果となっている。

授業外のサポートに関する充実度を見ると，就職指導に関しては充実していたが，その他のサポートは相対的に充実していなかった。なかでも図書館等施設に関する充実度がもっとも低い値を示していた。授業外のサポートについては，就職関連のサポートについては充実してい

表 1-2　専門学校教育の充実度：平均値と標準偏差

教育の充実度

	専門知獲得	実学性	教養	授業方法工夫	質問機会	就業体験機会
平均値	3.96	3.47	3.46	3.31	3.25	3.21
標準偏差	0.89	1.04	1.08	0.97	1.06	1.18

授業外サポートの充実度

	就職指導	資格取得支援	悩み相談	図書館等施設
平均値	3.71	3.67	3.46	3.25
標準偏差	1.12	1.06	1.19	1.23

人的交流の充実度

	授業外教員接触	学生同士交流
平均値	3.47	3.77
標準偏差	1.18	1.09

るが，就職以外の領域におけるサポートは依然として手薄である。人的サポートと併せて，物的サポートの充実も今後期待される結果となっている。

教員や学生同士の交流に関する充実度を見ると，教員との接触機会は学生同士の交流機会よりも充実していなかった。教員や学生同士の交流については，授業時間外で教員との時間を確保することが求められよう。

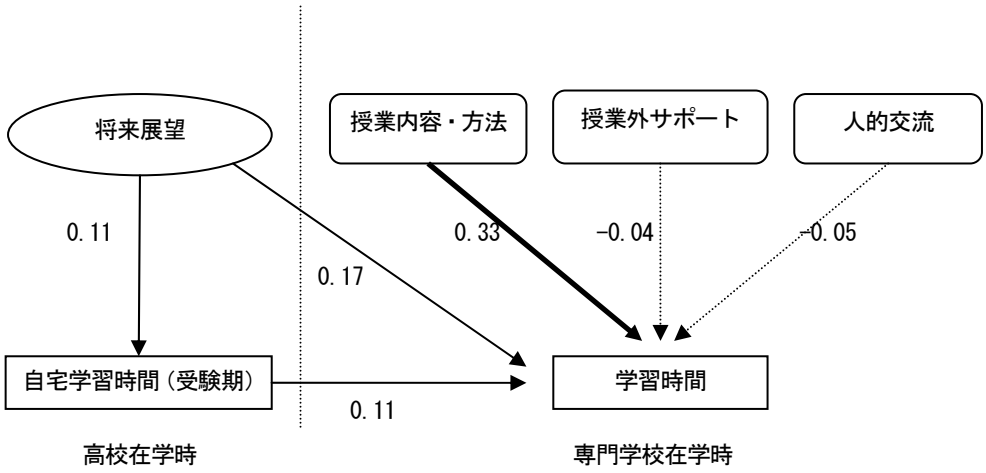
専門学校教育の有効性

前節までの結果を踏まえ，専門学校教育の有効性を検討する。本章の冒頭で述べたことに立ち返ると，専門学校はどこまで介入できるのかという点への着目が重要である。そこで，共分散構造分析を用いて，これまで検討してきた将来展望や学習時間等を同時に検討した上で，専門学校教育が専門学校での学習にもたらす影響を明らかにする。

図 1-12 に，専門学校での学習時間を規定するモデルの分析結果を示した。モデルの詳細については注に掲載している[5]。実線は統計的に有意な影響を表し，破線は統計的に有意ではなかった影響を示している。係数はすべて標準化してある。

まず高校在学時の要因に注目する。将来展望が高校時の自宅学習時間に及ぼす影響は 0.11 となっており，大きくはないが統計的に有意な結果となっている。その一方で，高校時の自宅学習時間から専門学校時の学習時間への影響も統計的に有意となっており，係数を見ると 0.11 である。将来展望が専門学校時の学習時間へと直接的に及ぼす影響は 0.17 となっている。将来展望から高校時の自宅学習時間を経由し専門学校時の学習時間へと間接的に及ぼす影響も 0.01（=0.11×0.11）あるため，将来展望が専門学校時の学習時間に総合的に及ぼす影響は 0.18 とな

図 1-12　専門学校での学習時間を規定するモデル



っている。したがって，将来展望は高校在学時点の学習に対してというよりも専門学校での学習に対してより影響を及ぼしている。また，高校時の将来展望は高校時の学習習慣に大きくはないが影響しており，その結果として高校時の学び習慣は，専門学校進学後の学習にも影響を及ぼすことが推測される。

次に，専門学校教育の充実度が及ぼす影響を検討する。授業内容・方法，授業外のサポートや人的交流の充実度が専門学校での学習時間へ及ぼす影響のうち，統計的に有意な影響は授業内容・方法の充実度のみであった。授業内容・方法の充実度は 0.33 と正の影響を及ぼしている。授業外のサポートや人的交流の充実度の 2 つについては，どちらも有意な影響ではなかった。そのうえ，両者の影響は −0.04 や −0.05 と小さく，また負の影響を及ぼしていた。したがって，授業内容・方法の充実が学習時間を延ばす結果となっている。

分析の結果は，専門学校教育の充実度が専門学校での学習時間にもっとも影響を及ぼしていることを示している。入学前の将来展望や学習時間が専門学校での学習時間に影響を及ぼしていないわけではないが，学生に学習させるという点に限って言えば，授業そのものの充実がより大きな意味を持っている。

５．まとめ

本章では，専門学校研究で従来着目されてきた「入り口」に，専門学校進学後の「中身」の考察を加え，専門学校教育の果たしている役割を探ってきた。

高校在学時の将来展望は希望進路については影響していたが，高校での学習時間については規定してはいなかった。高校での学習行動は，それ以前の学習習慣の形成や，いわゆる受験勉

強の必要性の影響が大きいのだろう。専門学校生の中には，専門学校を進学先として，大学進学の断念等によって消極的に選択した層と積極的に選択した層が併存している。専門学校はこうした多様な進学選択プロセスを経た者を受け入れている。そのため，そうした異なる層に対していかなる教育的インパクトを及ぼしているかが問われなければならない。

専門学校生の学生生活の実態からは，専門学校進学前の将来展望が進学後の学習行動に対して影響を及ぼしており，同時に高校在学時の学習習慣も専門学校進学後の学習行動に影響していることが明らかになった。この点のみを取り上げれば，将来展望が明確な者や，既に学習習慣が身についている者のみを受け入れるに超したことはないだろう。

しかし，専門学校は高校在学時に学習習慣がなかった者に対しても，予習復習の習慣を身につけさせるなどの役割を果たしていた。さらに，専門学校在学中の学習行動により影響していたのは，専門学校の提供する授業そのものであった。進学準備が十分でない層は，十分な層に比べて進学後の学習につまずくリスクが確かに大きい。しかし，前者が必ずしもマイノリティだとは言えなくなった現在，逆説的だが，進学準備が及ぼす影響は弱まる。進学準備が十分でない層が増えていくことは，進学後の学習の成否は教育提供側がいかに教育し，学習に導けるかにかかってくることを意味している。

その上で，「就職有利説」，「受け皿説」，「しつけ説」に立ち戻って専門学校の果たしている役割を考えると，以下のように提示することができるだろう。「受け皿説」的な学生や，特に「就職有利説」的な学生に対しては，専門知の獲得を中心とする職業教育を提供している一方で，高等教育進学率の上昇に伴い進学準備が十分に整っていない学生に対しても，学習習慣を身につけさせている。次章以降の，実際に職業社会に参入した後や評価に関する分析結果を踏まえた上で改めて判断する必要があることはいうまでもないが，本章の結果のみでも，現代の専門学校が多様な学生を受け入れつつ多面的な機能を果たしていることが想定されるのである。

このように，日本の高等教育システムにおいて専門学校が果たしている役割は決して小さくない。しかし，課題がないわけではない。例えば，専門知の獲得の充実度に比べれば，実学性や教養といった授業内容や授業の方法の充実度については，十分とはいえない面もある。「就職有利」的な期待を生み出す根本は，まさに職業的な専門知が獲得できるという点にあるのだろう。その点が専門学校の優位性の源泉であるのは間違いない。しかし，専門知以外のものを含む授業内容や，授業実践で用いられる方法から学生が学び取るものも決して少なくないだろう。また，それが長いキャリアのなかで何らかのかたちで発揮される可能性も否定できない。ここで「就職有利」の意味が問われることになる。「就職有利」が指すものは，あくまで専門知を身につけたエキスパートであるために就職に有利であるということなのか，それとも，エキスパートを越える意味や拡がりを持っているために就職に有利であるということなのか。たとえば大学は後者を志向しており，専門分野に根ざした知識や技能に加えて，汎用的な知識や技能を獲得させるかたちを模索している。当然のことながら，専門学校は職業教育の機関である。専門学校が職業教育という枠組みを堅持した上で，どちらの「就職有利」を志向するのか。このこ

とは専門学校にとって分水嶺になると考えられる。

【注】

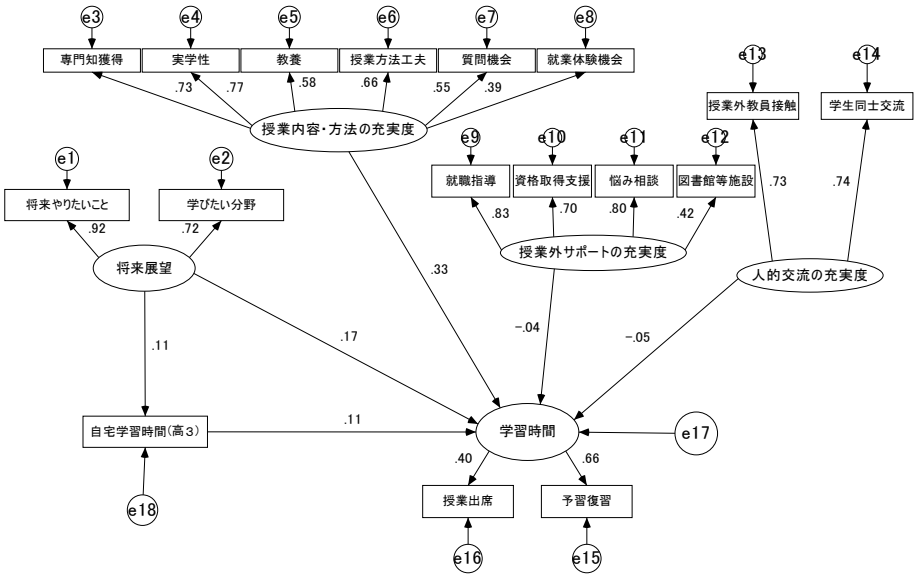
1) 統計的検定とは，関連性の有無を推測する技法である。5%水準で有意とは，もし 2 つの事柄の間に関連がないとしたら，今回示している関連度合いが発生する確率は 5%に満たず，実は関連していると考えるほうが妥当だ，ということを示している。例えば，将来展望と希望進路の間に関係がないとしたら，本調査のデータが示すような数値が出る確率は 5%以下であり，関係がないという仮定のほうが疑われる，ということである。本章の以後の統計的検定は特に断らない限りすべて 5%水準を採用している。また，次章以降では 10%有意や 1%有意も採用されているが，上記の説明における 5%の箇所を置き換えただけのことである。
2) ケンドールの順位相関係数は直接進学層で .553，他の高等教育を経験した層で .520 であり，どちらも 5%水準で統計的に有意である。
3) 各類型のケンドールの順位相関係数は付表 1-1 の通り。
4) 授業時間でコントロールした，アルバイトと予習復習時間の関係はすべて負の相関を示した。つまり，アルバイト時間が増えれば，予習復習時間は減る関係にある。その中で 5%有意であったのは, 授業に 11-15 時間出席している層と 16 時間以上出席している層で，それぞれ順位相関係数は-.416 と-.058 であった。
5) モデルのパス図は付図 1-1 の通り。標準化係数と非標準化係数の両方を示している。モデルの適合度を判定する各種の値は以下の通りとなっている。CMIN=1270.093, GFI= .851, AGFI= .800, CFI= .739, RMSEA= .108。したがって，モデルの当てはまりには疑問が残る結果となっている。本稿で用いたモデルは試行的なものであり，今後の改良が期待される。

付表 1-1　高校 1 年時と高校 3 年次の自宅学習時間の順位相関係数（類型別）

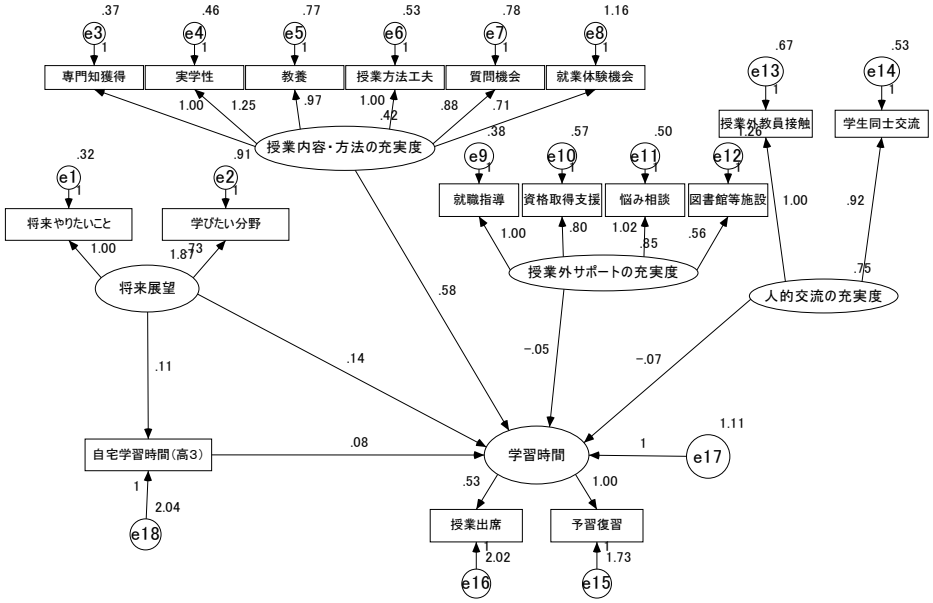
		値	漸近標準誤差(a)	近似 T 値(b)	近似有意確率
直接進学	将来・分野不明確層　N=365	0.53	0.04	13.10	0
	将来明確層　N=72	0.59	0.08	7.46	8.84E-14
	分野明確層　N=139	0.57	0.06	9.51	0
	将来・分野明確層　N=391	0.56	0.03	15.90	0
他の高等教育を経験	将来・分野不明確層　N=106	0.55	0.06	8.33	0
	将来明確層　N=11	0.44	0.29	1.31	0.19
	分野明確層　N=43	0.47	0.11	4.37	1.26E-05
	将来・分野明確層　N=76	0.50	0.09	5.66	1.50E-08

付図 1-1　専門学校での学習時間を規定するモデルのパス図

標準化係数



非標準化係数



【参考文献】

吉本圭一　2003「専門学校の発展と高等教育の多様化」『高等教育研究』第 6 集，83-103 頁。

第２章　専門学校卒業生の初期キャリア

李　　敏
(広島大学)

この章では，専門学校の「出口」つまり卒業生の就職に着目し，卒業後の初期キャリアの描写を試みる。

１．専門学校教育は就職に有利なのか

専門学校への進学が卒業時の就職に有利であるという「就職有利説」は，政府の公文書にも頻繁に登場しており，あたかも通説のようになっている。「就職有利説」の証拠としてよく用いられるのは，他の高等教育機関の新規学卒入職者と比較して，専門学校の高い就職率，そして「専門的・技術的職業」，「関係分野」に就職した者が多いことである。また，本調査でも確認されるように，大学などの他の高等教育機関を卒業した後，専門学校に進学し直す者が多いことも，専門学校の強さを物語る格好の材料となっている。

しかし，濱中が主張したように，こうした政府の統計データのみを取り扱う分析には，3 つの限界がある（濱中 2007b，p.71）。

第 1 は，「関係分野」や「専門的・技術的職業」といった分類は大まかすぎること。「職業分類」によると，「専門的・技術的職業」の中に，医者，弁護士，技術者といった高度な専門知識が必要とされる職業のみでなく，看護士や保育士，栄養士なども含まれている。一口に「専門的・技術的職業」と言っても，実際前者と後者の社会的威信は異なるし，必要な教育年数も，求められる知識レベルも全く異なるのである。

第 2 は，「関係分野」への就職が，必ずしも仕事に対する充実感と成長感をもたらすとは限らないこと。

第 3 は，長期的な視野での検討が欠けていること。入職時の就職率や就職職種などの指標のみならず，卒業生のその後のキャリアに対する分析も必要であるという主張である。

一方，大学などを卒業したにもかかわらず，あらためて専門学校に進学した学生がいることは，確かに彼らがより良い就職を目指して専門学校に進学したと解釈できるかもしれない。ところが，前章で明らかにしたように，他の高等教育を経験した専門学校生の中には，高 3 時点で専門学校を志望する者が 4 割も占めている。これは大学を志望する比率にほぼ匹敵している。そのため，そうした他の高等教育経験者の中に，高卒時に専門学校の進学を目指したものの，家族や学校など本人以外の要因から，大学進学を選択した者がいるかもしれない。そして，最

初の夢を諦めきれずに後にまた専門学校に進学した，という解釈もあり得るだろう。

このように，専門学校の「就職有利説」については，専門学校卒業生の実態を深く掘り下げることを通して，再検討する必要がある。専門学校卒業生の就職率が高いことは，恐らく間違いのない事実だろうが，卒業後何年か経過しても，その就職における優位性が依然として維持されているのだろうか。卒業時に「関係分野」に就職した専門学校卒業生は，その後のキャリアにおいても最初の職種を継続しているのだろうか。本章では，卒業生の初期キャリアの実態を追うことにする。

分析の際に特に留意するのは，専攻による卒業生のキャリアの相違である。濱中（前掲書）は学歴によって就職した「専門的・技術的職業」の社会的威信の違いがあることを指摘した。学歴間の相違のみならず，同じ専門学校においても，専攻分野によって卒業生のキャリアに違いが生じることも予測される。塚原（2005，p.80）によると，工業や商業実務の学科は大学・短大との競合によって，入学者が大学に吸収される可能性があるため，それに対応した専門学校教育の高度化が図られている。一方，資格教育分野の医療・衛生・社会福祉などの領域では，専門学校の優位性は今も維持している。したがって，新卒労働市場において，専門学校の優位性を確保する方策は学科によって異なると主張する。ただ，そのような新卒労働市場における学科別の優位性とは，入職時点だけのものかもしれない。この点に対する検討が，本研究の主な目的の一つである。

具体的には，専門学校卒業生の，①正規就職，非正規就職，進学・家事・子育てなどの進路，②転職経験，職種の継続性，③就職先の規模，④労働時間，⑤年収，といったキャリアの変更について，卒業直後と調査時点（卒業後 1 年目，3 年目，7 年目）という 2 時点の比較を通して考察を行う。

２．進路の変更

卒業時と現在の進路

表 2-1 は，卒業直後と現在という 2 時点の進路を示している[1)]。まず，初職の進路についてみてみる。全体として，正規雇用の比率は卒業生の 77%に達している。専攻別でみると，工業，教育・社会福祉，商業･実務専攻の正規雇用の比率が高い。それに対して，文化･教養，衛生，服飾専攻の卒業生は正規雇用の比率が低く，かわりに契約･派遣･パートで働く比率が他の専攻より高い。特に文化・教養専攻の卒業生では，卒業直後に正規で働く比率は半分にも満たない（49%）。

卒業時の進路を男女別にみると，検定で有意になったのは，教育･社会福祉専攻のみであった。したがって，以下の記述は推測の域を出ないことを予め断っておく。女子卒業生の正規雇用の比率が高いのは，工業，教育･社会福祉，商業･実務専攻である。服飾･家政，教育･社会福祉，

表 2-1　卒業生の進路

卒業直後の進路

		工業			衛生			服飾・家政			教育・社会福祉			商業・実務			文化・教養			合計
		女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	
正規職員・自営	合計（人）	20	138	158	51	24	75	92	14	106	116	57	173	206	101	307	73	18	91	913
	職種の比	95.2%	87.3%	88.3%	63.0%	68.6%	64.7%	67.2%	51.9%	64.6%	92.8%	82.6%	89.2%	88.0%	89.4%	88.5%	52.9%	38.3%	49.2%	76.8%
契約・派遣・パート	合計（人）	1	14	15	24	8	32	30	9	39	4	9	13	25	12	37	46	20	66	203
	職種の比	4.8%	8.9%	8.4%	29.6%	22.9%	27.6%	21.9%	33.3%	23.8%	3.2%	13.0%	6.7%	10.7%	10.6%	10.7%	33.3%	42.6%	35.7%	17.1%
進学	合計（人）	–	3	3	4	1	5	3	–	3	1	–	1	1	–	1	14	5	19	32
	職種の比		1.9%	1.7%	4.9%	2.9%	4.3%	2.2%		1.8%	0.8%		0.5%	0.4%		0.3%	10.1%	10.6%	10.3%	2.7%
子育て	合計（人）	–	–	–	1	–	1	2	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3
	職種の比				1.20%		0.90%	1.50%		1.20%										0.30%
その他	合計（人）	–	3	3	1	2	3	10	4	14	4	3	7	2	–	2	5	4	9	38
	職種の比		1.9%	1.7%	1.2%	5.7%	2.6%	7.3%	14.8%	8.5%	3.2%	4.3%	3.6%	0.9%		0.6%	3.6%	8.5%	4.9%	3.2%
合計（人）	合計（人）	21	158	179	81	35	116	137	27	164	125	69	194	234	113	347	138	47	185	1189
	職種の比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

現在の進路

		工業			衛生			服飾・家政			教育・社会福祉			商業・実務			文化・教養			合計
		女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	
正規職員・自営	合計人）	19	143	162	40	27	67	71	20	91	93	56	149	174	95	269	56	29	85	825
	職種の比	90.5%	89.9%	90.0%	50.0%	81.8%	59.3%	52.2%	74.1%	55.8%	73.8%	81.2%	76.4%	74.7%	84.1%	77.7%	41.5%	60.4%	46.4%	69.7%
契約・派遣・パート	合計	1	11	12	20	4	24	39	6	45	10	8	18	29	10	39	47	12	59	198
	職種の比	4.8%	6.9%	6.7%	25.0%	12.1%	21.2%	28.7%	22.2%	27.6%	7.9%	11.6%	9.2%	12.4%	8.8%	11.3%	34.8%	25.0%	32.2%	16.7%
進学	合計	–	3	3	2	–	2	4	–	4	1	1	2	1	1	2	16	1	17	30
	職種の比		1.9%	1.7%	2.5%		1.8%	2.9%		2.5%	0.8%	1.4%	1.0%	0.4%	0.9%	0.6%	11.9%	2.1%	9.3%	2.5%
家事・子育て	合計	1	–	1	15	–	15	9	–	9	15	–	15	22	–	22	8	–	8	71
	職種の比	4.8%		0.6%	18.8%		13.3%	6.6%		5.5%	11.9%		7.7%	9.4%		6.4%	5.9%		4.4%	6.0%
その他	合計	–	2	2	3	2	5	13	1	14	7	4	11	7	7	14	8	6	14	60
	職種の比		1.3%	1.1%	3.8%	6.1%	4.4%	9.6%	3.7%	8.6%	5.6%	5.8%	5.6%	3.0%	6.2%	4.0%	5.9%	12.5%	7.7%	5.1%
合計（人）	合計	21	159	180	80	33	113	136	27	163	126	69	195	233	113	346	135	48	183	1184
	職種の比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

文化･教養専攻では，男性卒業生の正規雇用の比率が低く，派遣･パートの仕事に従事する比率が女性より高い。

現職の進路状況についても，全体として初職と同じ傾向を示しているが，性別及び専攻によって，若干異なる趨勢が読み取れる。男女別で見ると，男性は正規雇用の比率が増加しているのに対し，全ての専攻で女性卒業生の正規雇用率は低下している。女性は正規雇用，契約･派遣･パートから家事・子育てへシフトする傾向がある。また，工業専攻を除いて，初職で男性の正規雇用率が女性より下回った専攻は，現職ではその正規雇用率がおしなべて女性のそれを上回るに至っている。

卒業生の進路変更（全体）

表 2-1 では，卒業時と現在という 2 時点におけるそれぞれの進路の状況をみた。実際に進路の変更がいかに行われているのかという変更のルートを示したのが，図 2-1 である。ここでの分析では，「正規職員・自営」を「正規雇用」とし，「契約・派遣・パート」を「非正規雇用」として，さらに「進学」，「家事･子育て」を「その他」に括り，卒業直後のそれぞれの進路が，調査時点において，いかに変化したのかを分析する。なお紙幅の関係で「その他」の進路変更については省略する。

まず全体の状況を見てみる。ここでは，卒業時に正規雇用であった学生が現職でも正規雇用を維持している比率を「正規雇用残留率」と呼び，卒業時に非正規雇用であった学生が正規雇用に転じた比率を「非正規雇用脱出率」と呼ぶことにする。

図 2-1　卒業生の進路変更（全体）

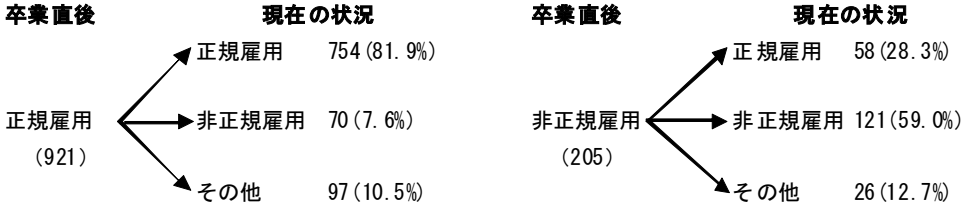
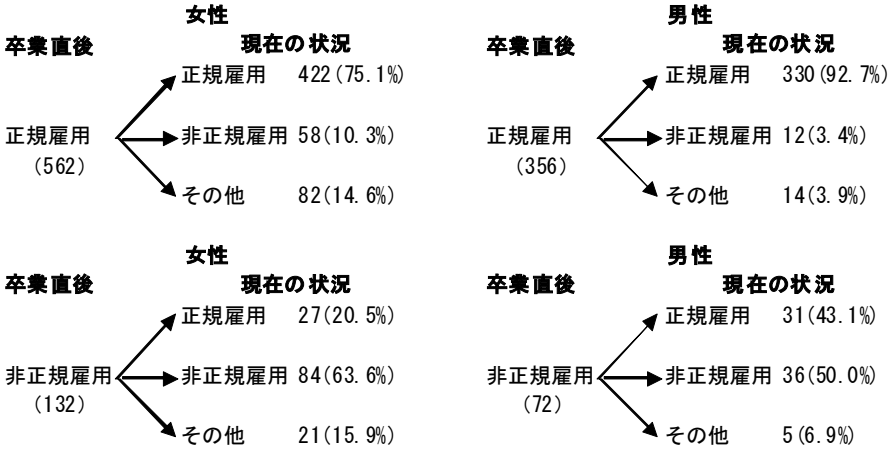


図 2-2　卒業生の進路変更（男女別）

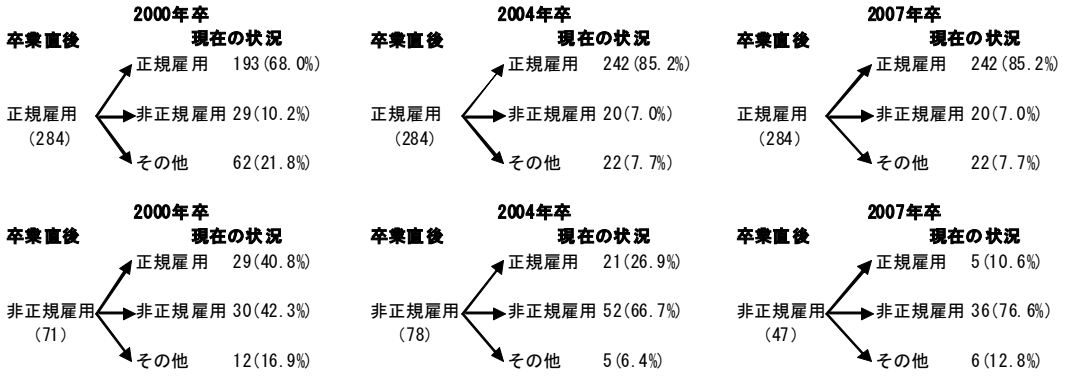


卒業直後に正規雇用であった卒業生の 82%が，現在においても正規雇用として働いている。非正規雇用に転じた卒業生は 1 割未満（8%）である。一方，非正規雇用から正規雇用へ転換した比率は 28%という低い水準である。卒業時に非正規で働いていた 6 割近く（59%）は，その後の時間が経過しても，依然として非正規労働を余儀なくされている。このことは，初職が非正規雇用である場合，非正規雇用から脱出することが困難であり，初職の状況が将来の職業生活にも影響していることを意味している。

男女別卒業生の進路変更

一方，男女別で考察すると，両者の間にかなり異なる進路変更のルートが確認された（図 2-2）。男性の正規雇用残留率は 93%という高い水準に達しているのに対し，女性のそれは 75%である。これは恐らく表 2-1 で見たように，結婚，出産を機に正規の仕事を辞めた女子卒業生が多いた

図 2-3　卒業年別の進路変更



めだと考えられる。また卒業時に非正規で働いた男子学生の 43%が正規雇用の職業に転換しているが，女子の場合はその比率がわずか 2 割強（21%）でしかない。

卒業年別にみた進路変更

図 2-3 は，卒業生の進路変更を卒業年別にみたものである。卒業年が早い者ほど，正規雇用残留率が低くなる傾向がみられる一方，非正規雇用脱出率が高くなる趨勢も確認される。これは，卒業後の時間が経つにつれて，卒業生のキャリア変更がかなり活発に行われていることを意味している。ただし，卒業年別と男女別と併せて考察すると，検定が有意であるのは，卒業時に正規雇用の女子学生と非正規雇用の男子学生の進路変更のみである。図の提示は省略するが，結果のみを紹介すると，2000 年卒の女子学生の正規残留率は 54%であり，平均の 68%より 14%も低い。逆に非正規雇用の男子学生の非正規脱出率は平均の 41%より 27%高い 68%に達している。つまり，図 2-3 でみたように，卒業年が早い者ほど進路の変更が活発になるとはいえ，男性と女性の間では全く異なる変化の軌跡を辿っている。男性が正規雇用に転じるチャンスが開かれているのに対して，女性のほうは逆に非正規雇用に転落する可能性が高い。

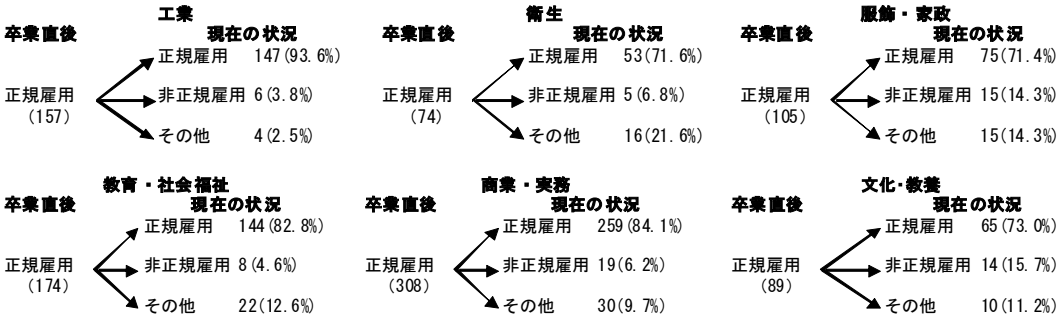
専攻別にみた進路変更

各専攻分野の状況をみてみると，工業専攻の卒業生の正規雇用残留率が最も高い（94%）。それに対して衛生，服飾･家政，文化・教養専攻の卒業生の場合は，3 割近くが非正規雇用やその他の進路に転じている（図 2-4）。衛生，服飾・家政，文化・教養専攻の卒業生は卒業直後，正規就職率がそもそも平均よりも低かったことと併せて考えてみれば（表 2-1），これらの専攻の卒業生の雇用形態は，相対的に不安定であると言えるだろう。

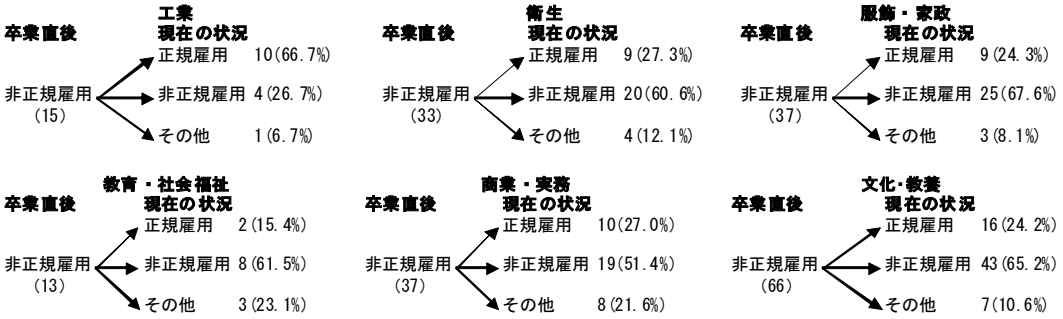
卒業後に非正規雇用であった卒業生の進路変更については，検定では 10%で有意となっている。簡単にその結果をみてみると，全体の非正規雇用脱出率が 3 割未満であるなか，工業専攻

図 2-4　専攻別の進路変更

卒業後正規雇用



卒業後非正規雇用



の卒業生の場合は，卒業直後に非正規雇用であった者のうち 67%が正規雇用に転じている。これに対して，教育・社会福祉専攻の卒業生では，非正規雇用の脱出率はわずか 15%でしかない。

以上のように，専門学校卒業生は，全体的にいうと，卒業直後の就職率が高いと言えるが，専攻別，男女別，そして卒業後の進路変更という角度から考察すると，必ずしも一概には言えないということが今回の調査データによって示されている。それでは，卒業直後に就職した卒業生のキャリアはどのように変更しているのか。次節からは，この問題に焦点をあてて考察を行う。

３．職種の変更

表 2-2 は卒業生の転職経験を表したものである。転職率が高いのは衛生，文化・教養，及び服飾･家政専攻の卒業生である。表 2-1 で見たように，こうした専攻の卒業生は，卒業時，正規雇用として働く比率が最も低かった。卒業生の非正規雇用の比率が高いために，その後も職場を転々とする可能性が高いことも容易に想像できるだろう。このことはまた表 2-3 でも確認

表 2-2　転職経験

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
転職経験なし	56.7%	37.0%	48.7%	62.2%	70.8%	44.6%	56.9%
転職経験あり	43.3%	63.0%	51.3%	37.8%	29.2%	55.4%	43.1%
合計（人）	171	108	154	180	325	168	1,106

表 2-3　経験した企業数

専門分野	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
衛生	108	1	11	2.4	1.8
文化・教養	168	1	21	2.4	2.1
服飾・家政	154	1	7	2.0	1.3
工業	171	1	8	1.7	1.0
教育・社会福祉	180	1	5	1.6	0.9
商業・実務	325	1	8	1.5	1.0

表 2-4　仕事内容の変更（現職）

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
初職と同じ	75.6%	71.3%	64.1%	89.6%	81.8%	62.5%	75.9%
初職と異なる	24.4%	28.7%	35.9%	10.4%	18.2%	37.5%	24.1%
合計（人）	168	101	142	163	318	144	1,036

される。卒業生が経験した企業数の平均をみると，上位 3 位を占めたのは衛生，文化・教養及び服飾・家政専攻の卒業生である（表 2-3）。

卒業後の仕事内容の変更状況（表 2-4）をみると，転職率の高い衛生，服飾・家政，文化・教養専攻の卒業生のほうが，現職で初職と異なる仕事に従事する比率が高い。特に文化・教養専攻の卒業生の仕事内容の変更率は，4 割近く（38%）に達している。これらの専攻の卒業生は非正規雇用の者も多かった。専門分野と初職・現職との関係は以下で触れるが，非正規雇用で転職率も高い場合には，初職と同じ仕事を継続する比率も低くなると想定される。

卒業生の初職における職種をみると，専門分野と職種との結びつきが相対的に強い「職種特化型」に属する工業，衛生，教育・社会福祉専攻の卒業生は，初職において専攻分野と関連した職種に就職した比率が高い（表 2-5）。他方で専門分野と職種との結びつきが相対的に弱い「職種汎用型」に属する服飾・家政，商業・実務，文化・教養専攻の卒業生は，比較的多様な分野に就職する傾向が見られる。しかし，全体で 24%の卒業生が現職では初職の職種と異なる仕事に就いていた（表 2-4）。では職種はどのように変わったのだろうか。職種変更組に絞って初職の職種をみると，その分布は卒業生全体の傾向とほぼ同様で，「職種特化型」専攻の卒業生は「関係分野」に就職している。ところが現職の状況になると，就職した職種が多岐にわたる傾向が全ての専攻で確認された。とりわけ，衛生専攻の卒業生では「関係分野」への就職が 2 割近く

表 2-5　職種の変更

初職の職種（全体）

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
事務	4.8%	4.3%	40.3%	1.1%	55.2%	35.6%	28.6%
技術	86.2%	1.1%	0.8%	−	18.2%	0.7%	20.0%
ファッション・出版・映像	1.2%	−	18.6%	−	0.3%	−	2.6%
サービス業	−	2.2%	29.5%	−	8.5%	17.8%	8.9%
栄養・福祉・保育	−	85.9%	0.8%	97.8%	3.0%	31.1%	30.0%
その他	7.8%	6.5%	10.1%	1.1%	14.8%	14.8%	9.9%
合計（人）	167	92	129	183	330	135	1,036

初職の職種（職種変更組）

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
事務	14.3%	5.9%	40.6%	7.7%	42.6%	22.9%	27.4%
技術	71.4%	−	−	−	16.7%	−	18.3%
ファッション・出版・映像	2.9%	−	25.0%	−	−	−	4.8%
サービス業	−	−	21.9%	−	13.0%	20.0%	11.3%
栄養・福祉・保育	−	88.2%	−	84.6%	1.9%	31.4%	20.4%
その他	11.4%	5.9%	12.5%	7.7%	25.9%	25.7%	17.7%
合計（人）	35	17	32	13	54	35	186

現職の職種（職種変更組）

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
事務	27.3%	50.0%	35.7%	30.0%	46.5%	31.7%	37.2%
技術	39.4%	4.5%	14.3%	−	14.0%	9.8%	15.7%
ファッション・出版・映像	3.0%	−	19.0%	−	2.3%	4.9%	6.3%
サービス業	9.1%	−	7.1%	10.0%	2.3%	−	4.2%
栄養・福祉・保育	6.1%	22.7%	2.4%	50.0%	7.0%	31.7%	15.2%
その他	15.2%	22.7%	21.4%	10.0%	27.9%	22.0%	21.5%
合計（人）	33	22	42	10	43	41	191

まで後退している。そして職種を変更した卒業生の中では，「事務職」に変わった比率が相当高い。4 人に 1 人という転職比率を高いと見るか低いと見るかによって解釈は異なってくるだろう。しかし、転職者に着目すると，専門学校の強みの象徴ともいえる「関係分野」への就職は，初職の段階では確保されているといえるが，その後のキャリアの中では必ずしも継続されていないことが今回の調査でわかった。その理由を考えるためにも，次節では労働条件について考察する。

表 2-6　就職先の従業員規模

初職の就職先従業員規模

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
29人以下	28.1%	36.6%	37.6%	16.5%	13.1%	23.1%	22.6%
30-99人	14.0%	20.4%	23.3%	47.8%	12.5%	13.4%	21.1%
100-299人	15.8%	21.5%	16.5%	25.3%	20.8%	19.4%	20.1%
300-999人	20.5%	9.7%	11.3%	6.6%	25.3%	23.9%	17.9%
1,000人以上	21.6%	11.8%	11.3%	3.8%	28.3%	20.1%	18.3%
合計（人）	171	93	133	182	336	134	1,049

現職の就職先従業員規模

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
29人以下	32.7%	40.2%	35.7%	22.0%	17.0%	30.7%	27.2%
30-99人	9.7%	24.7%	22.4%	40.3%	15.7%	17.6%	20.6%
100-299人	15.8%	18.6%	12.6%	25.2%	17.0%	17.0%	17.6%
300-999人	15.8%	6.2%	9.8%	6.9%	23.9%	15.0%	15.0%
1,000人以上	26.1%	10.3%	19.6%	5.7%	26.5%	19.6%	19.6%
合計（人）	165	97	143	159	306	153	1,023

４．卒業生の労働条件

就職先の従業員規模

表 2-6 は，初職と現職の就職先の従業員規模を表している。初職の際に，工業専攻の卒業生は，大企業と小企業の両方に就職する割合が平均より高い。商業・実務専攻，及び文化・教養専攻の卒業生は，大企業に就職する比率が大きく，これはおそらく事務職に就く卒業生が多くいるためだと考えられる。一方，服飾・家政専攻の卒業生は小企業，教育・社会福祉専攻の卒業生は中小企業に就職する人が多い傾向にある。

現職の就職先企業の従業員規模の分布に関しても，初職と似たような傾向が見られる。ただ，初職と比べ，卒業生が大企業と小企業に就職した比率がいずれも高くなっている。これは現職において，就職先企業の規模の二極分化がさらに進んだことを意味している。各専攻の状況を見てみると，工業，教育･社会福祉専攻の卒業生が大企業と小企業の両方に流入する傾向がある。一方衛生，商業・実務，文化・教養専攻の卒業生は小企業へ流入する傾向にある。大企業へ流入する傾向が強いのは服飾・家政専攻である。

卒業時の就職先規模が現在においてどのように変化したのかを示したものが表 2-7 である。全体的には，就職先の規模を維持する卒業生が 7 割程度（73%）である。専攻別でみると，初

表 2-7　就職先規模の変化

	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	合計
維持	67.7%	64.6%	59.1%	84.2%	80.0%	66.4%	72.9%
縮小	15.2%	20.3%	14.8%	7.2%	11.9%	16.8%	13.4%
増加	17.1%	15.2%	26.1%	8.6%	8.1%	16.8%	13.7%
合計（人）	158	79	115	152	295	119	918

表　2-8　労働時間

単位:時間

専門分野	度数(人)		平均値		標準偏差	
	初職	現職	初職	現職	初職	現職
工業	165	161	50.7	49.6	15.9	16.5
衛生	91	94	49.9	44.5	21.3	20.3
服飾・家政	128	140	47.0	43.4	17.9	15.3
文化・教養	133	149	45.1	42.2	13.3	15.6
商業・実務	324	290	42.2	41.6	13.9	13.4
教育・社会福祉	164	135	41.2	40.8	11.6	12.3

職と比べ，現職の就職先規模が増加した比率が平均より高いのは，工業，服飾・家政専攻の卒業生である。現職の就職先規模が縮小した比率が平均を上回るのは，衛生専攻の卒業生である。文化･教養専攻の卒業生の就職規模については，増加と縮小という両方の変化がある。なお表 2-7 は，初職と比較した現職の規模の増加，維持，減少を単純に示したものに過ぎない。表 2-6 の結果と総合して考えると，現職において就職先規模が増加，縮小したといっても，規模の変化自体はそれほど大きいものではない可能性も十分にあることに留意する必要がある。

労働時間

初職と比べて，労働時間はどのように変化しているのであろうか。表 2-8 は初職と現職のそれぞれの平均労働時間を専攻別で見たものである。いずれの専攻においても，現職の労働時間が初職のそれより短くなっている。また専攻別の労働時間の長さの順位も，初職と現職でほとんど変化が認められず，工業，衛生，服飾・家政の順に労働時間は長くなっている。

表 2-9 は初職と比べた際の現職の労働時間の増減情況を示している。全体から言えば，現職の労働時間が初職より増加した卒業生と短縮した卒業生の比率はほぼ同じで，いずれも 2 割程度いる。また 54%の卒業生では，労働時間には大きな変化が見られなかった。各専攻の状況を見てみると，労働時間が増加したという傾向の高いのは工業専攻の卒業生で，平均より 10 ポイント高い 32%に達している。これに対して，衛生専攻の卒業生においては，39%の卒業生の労働時間が初職より減少した。この背景には，衛生専攻の転職者の場合，初職の職種と異なる

表 2-9　労働時間の変化

	工業		衛生		服飾・家政		教育・社会福祉		商業・実務		文化・教養		合計	
	比率	現在の労働時間（時間）	比率	現在の労働時間（時間）	比率	現在の労働時間（時間）	比率	現在の労働時間（時間）	比率	現在の労働時間（時間）	比率	現在の労働時間（時間）	比率	現在の労働時間（時間）
労働時間増加	32.2%	57.7	20.0%	60.1	29.5%	52.1	12.5%	48.1	17.8%	48.4	25.7%	48.6	22.3%	52.4
労働時間維持	40.8%	48.3	41.3%	43.6	37.5%	41.4	76.6%	40.1	63.0%	41.4	47.8%	44.7	53.9%	42.6
労働時間減少	27.0%	43.3	38.7%	37.9	33.0%	39.5	10.9%	41.1	19.2%	38.4	26.5%	33.9	23.8%	39.0
合計（人）	152		75		112		128		281		113		861	

表 2-10　専攻別の年収

単位:万円

専門分野	度数（人）		平均値		標準偏差	
	初職	現職	初職	現職	初職	現職
工業	162	159	272.6	335.8	58.5	97.8
商業・実務	293	269	251.2	270.6	66.7	93.1
教育・社会福祉	151	127	250.7	266.9	84.3	97.7
文化・教養	128	144	228.1	249.7	60.1	89.7
衛生	92	91	224.7	234.4	77.4	105.6
服飾・家政	124	135	221.3	254.8	71.1	111.2

職種に就いた者が多かったこともあるのだろう。労働時間が増加と減少の両方を見せたのは，服飾･家政，及び文化・教養専攻の卒業生である。一方，教育・社会福祉専攻，商業・実務専攻の卒業生は，初職と同じ労働時間を維持している。

年収の変化

表 2-10 は専攻別卒業生の平均年収を示している。初職においても，現職においても，工業専攻の卒業生の平均年収は終始トップの座を占めている。しかもその増加の幅も大きい。商業・実務と教育・社会福祉専攻の卒業生も第 2 位と第 3 位の水準を維持している。服飾・家政専攻の卒業生は，現職の年収が初職より改善しており，初職の最下位から第 4 位に上昇している。一方，衛生専攻の卒業生の年収は終始下位の水準にとどまっている。

雇用形態と労働時間を併せて考慮すると，工業専攻の卒業生は年収が高いと同時に，労働時間も長い。これに対して衛生専攻の卒業生では，非正規雇用が多いものの，労働時間が長く，それに見合った年収は得ていない。今回分析した 6 つの分野の中では，労働条件に最も恵まれていない分野といえよう。一方，教育･社会福祉専攻の卒業生は，非正規雇用が多く労働時間も短いが，年収の面ではさほど低くはない。

卒業年別の平均年収をみると（表 2-11），卒業年が早いほど現職の年収が高くなることは予想と一致している。ただ，ここで留意しなければならないのは，卒業年が早い卒業生のほうが現職の年収の標準偏差が大きいことである。就職後の年数を経るにつれて，卒業生の年収は増加するが，卒業生の間の年収のばらつきも同時に拡大している。

表 2-11　卒業年別の年収

単位:万円

卒業年	度数（人）		平均値		標準偏差	
	初職	現職	初職	現職	初職	現職
2000年	315	314	261.3	318.5	72.6	124.0
2004年	316	318	247.1	263.0	76.3	83.5
2006年	277	256	223.4	226.5	58.7	62.7

表 2-12　専攻別の年収の変動

	工業		衛生		服飾・家政		教育・社会福祉		商業・実務		文化・教養		合計	
	比率	現在の年収（万円）	比率	現在の年収（万円）	比率	現在の年収（万円）	比率	現在の年収（万円）	比率	現在の年収（万円）	比率	現在の年収（万円）	比率	現在の年収（万円）
年収増加	67.8%	371.0	44.0%	289.8	59.1%	305.2	37.2%	314.6	38.7%	328.8	52.8%	293.2	48.8%	325.9
年収維持	27.5%	274.9	33.3%	242.3	30.9%	212.8	52.9%	250.0	49.2%	241.0	32.4%	229.6	39.7%	243.4
年収減少	4.7%	210.0	22.7%	146.7	10.0%	171.9	9.9%	214.8	12.1%	211.7	14.8%	167.0	11.5%	188.0
合計（人）	149		75		110		121		256		108		819	

表 2-12 は，年収の増加，維持或いは減少という年収の変動状況を専攻別にみたものである。まず、卒業生全体の 5 割（49%）近くが年収の増加が見られた。また年収の減少があったのは、卒業生全体の 12%である。専攻別にみると，工業，服飾･家政，文化・教養専攻の卒業生では，年収の上昇した者が多いことが確認できる。年収が同じ水準を維持しているのは，教育･社会福祉と商業･実務専攻である。これに対して，衛生専攻の卒業生では年収が低下した者が 23%に上り，ここでも雇用状況の改善が認められない。また、たとえ年収の増加があったとしても，各専攻の年収の水準にはかなりの相違があることを指摘しなければならない。例えば、同じく現職で年収の増加が見られた工業専攻と衛生専攻の卒業生の年収を比べれば、工業専攻の卒業生の平均年収は 371 万円であるのに対し、衛生専攻の卒業生の平均年収は 290 万円しかない。

５．まとめ

初期キャリアの軌跡

これまで，専攻別にみた専門学校卒業生の卒業後の初期キャリアを考察してきた。その軌跡を専攻別に改めて描いてみると，表 2-13 のようになる。

工業専攻の卒業生は，卒業時に正規雇用として働き，その後も正規雇用の維持率が極めて高い。転職や，技術職から他の職に変更した人もある程度いる。初職では，大企業と小企業の両方に就職する傾向にあり，現職では，より大きい規模の企業に転職する比率が各専攻の中で高い。労働時間に関しては，各専攻の中でもっとも長いが収入も高い。また，初職と比べて，労働時間と年収の増加が他よりも大きい。

工業専攻の卒業生のキャリアと対極にあるのは，衛生専攻の卒業生である。卒業生の正規就職率はそれほど高くなく，就職後に非正規雇用に転じる率が高い。そして，職を移動する過程

表 2-13　各専攻のキャリア変更の軌跡

		工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養
進路変更	正規雇用率	高－高	中－中	中－低	高－高	高－高	低－低
	正規雇用残留率	最高	低	低	高	高	低
	非正規雇用脱出率	高	中	低	最低	中低	低
キャリア変更	転職経験	中	最多	中	中低	最少	多
	職種変更	中	多	多	少	最小	中多
	就職先の従業員規模	大、小の両方	小	小	中低	大	中大
	就職先の従業員規模の変動	増加	縮小	増加	維持	維持	縮小と増加
	労働時間	長－長	長－長	中長－中長	最短-最短	短－短	中短-中短
	労働時間の変動	増加	減少	増加と減少	維持	維持	増加と減少
	所得	高－高	最低－最低	低－中	中高－中高	中高－中高	中低－中低
	所得の変動	増加	減少	増加	維持	維持	増加

で，当初は衛生関係の職に就いていても異なる職種に就くようになる。就職した企業の規模が各専攻の中でもともと小さいことに加えて，現職では初職と比べて規模が縮小した比率が高い。一方，年収が低いわりに労働時間は長い。非正規就職者の増加によって，平均労働時間は初職より若干減少したが，絶対的な労働時間はまだ長い。総じて，各専攻の中で卒業生の労働条件がもっとも厳しいといえよう。

服飾・家政専攻の卒業生は，初職における正規雇用率は各専攻の中で中レベルであったが，現職においてはその比率が低くなっている。正規雇用残留率と非正規雇用脱出率は，いずれも低い水準にある。非正規雇用の比率がやや高いことと関係があるためか，転職経験と職種変更が比較的多い。小企業への就職が多いが，現職では就職先企業の規模が大きくなった比率が平均より高い。労働時間は平均よりやや長い。労働時間に関しては，初職と比べて増加した場合と少々減少した場合の二つの傾向がある。平均年収は，初職と現職ともに低い。しかし，現職では年収が増加した者の比率は，平均より高い。

教育・社会福祉専攻の卒業生に関しては，初職と現職ともに正規雇用率が高い。正規雇用残留率も各専攻の中で高い水準にある。しかし，非正規雇用脱出率の低さも同時に見られる。つまり卒業生にとっては，初職で正規雇用されるかどうかが，その後のキャリアをかなり規定している。この専攻の卒業生は，入職時に関係専門に就職する比率が極めて高い。また転職と職種の変更は，他専攻と比べてそれほど活発ではない。中小企業への就職者が多く，労働時間は短いほうだが，平均よりは高い年収を得ている。就職先企業の規模，労働時間，年収に関しては，初職から現職にかけて変動が小さい。このデータに基づく限り，教育・社会福祉専攻の卒業生は相対的に安定した雇用を維持しているといえる。

商業・実務専攻の卒業生の初期キャリアは，教育・社会福祉系とかなり似通っている。高い正規雇用率，低い転職率，さらに事務系中心の仕事をするため，大企業に就職した者が多い。各専攻の中で，比較的高い年収を得ており，労働時間も短い。しかもそのキャリアは，かなり安定性の高いものである。

最後に文化・教養専攻の卒業生のキャリアを見ると，衛生専攻の卒業生の初期キャリアと比

較的類似している。つまり，正規雇用率，正規雇用残留率及び非正規残留率は，いずれも低い水準にある。転職の過程で職種の内容も頻繁に変わる。ただし事務系の職種が多いためか，就職先企業の規模は平均より大きい。労働時間は平均よりやや短いが，就職後の年数の経過に従い，増加と減少の両方の分化が見られる。前者は正規雇用者の，後者は非正規雇用者を反映したものと推測できる。年収は専門学校卒業生全体よりもやや低い水準であるが，現職において年収が初職より増加した傾向のある卒業生は平均より多い。

「就職有利説」再考

専門学校の「就職有利説」は，卒業生の高い就職率,「専門的・技術的職業」及び「関係分野」への就職の多さに依拠してきた。しかし，卒業直後の専門学校卒業生の就職特性は，その後のキャリアでどの程度継続しているのか。本章の分析を通して，以下のような結論が得られる。

第一に，ある程度のタイムスパンで専門学校卒業生の進路を考察してみると，性別と専攻間で卒業生の進路の分化が確認できた。性別で見ると、女性の正規雇用率，正規雇用残留率，非正規雇用脱出率は，いずれも男性のそれに及ばない。日本の女性の特徴は，他国と比べて，結婚，出産を機に退職して，子どもが進学した後再び職場に進出するという「M 字型」就職曲線に特徴があると言われてきた。ただし，職場復帰といいながら，正規の仕事につくことが極めて困難なのが現状と言わざるを得ない。その中で，女子の専門学校卒業生は，専門性を武器にして，結婚，出産した後も比較的仕事に復帰しやすいと言われている。しかし今回の調査データからみれば，男性と比べて女性の劣勢は一目瞭然である。女子の専門学校卒業生の正規残留率と非正規脱出率が低いのは，日本の雇用慣行，そして政府の子育て支援などの外部の社会環境からの影響が少なくない。これらの就職環境の整備が不可欠であろう。

専攻で見ると、たとえば工業，教育・社会福祉，商業・実務専攻のような正規雇用を維持する組と，衛生，服飾・家政などのように，正規雇用から他の進路に変更する者が多い組との分化が確認できた。こうした分化が生まれる背景には，専攻の特性に由来した部分があるほか，各分野における労働市場の需給関係，さらに卒業生自身の意識など，極めて複雑な要因が絡んでいると考えられる。

第二に, 離転職行動や就職先の企業規模, 労働時間及び年収などの初期キャリアに関しても，専攻それぞれの特徴を呈している。また，初職においては専門分野に関わる就職が多い「職種特化型」である工業，衛生，教育・社会福祉専攻の卒業生であっても，卒業後の年数が経過するに従い，専門分野に関わる職種からの離脱が生じている。この傾向は特に衛生専攻の卒業生で顕著であった。衛生専攻の卒業生の場合，労働条件に恵まれているとはいえず，それが他の分野の職種への移動のプッシュ要因になっていると推測される。このことは,「『関係分野』への就職が必ずしも仕事に対する充実感と成長感をもたらすわけには限らない」という濱中（前掲書）の指摘を裏付けるものでもある。

卒業，入職時点のみで見れば，専門学校の「就職有利説」はある程度実態に合っているかも

しれないが，長いタイムスパンでみれば，男性や女性，各専攻の中で進路とキャリアの分化が進んでいる。これまで主張されてきた専門学校の強みは，初期キャリアを形成する段階で，次第に色褪せてくる場合もある。もちろん，他の高等教育機関の卒業生と比べ，その「色褪せ」がどの程度なのかということについては，今後の検証課題である。

ただし，ここで指摘しておきたいのは，そのような分化は，専攻の特徴や専門学校の教育の問題というよりも，むしろ労働市場の需給関係や雇用慣習などの外部の要因の影響が少なくないということである。しかし，そうした初期キャリアの構造になっている以上，専門学校としても積極的な対応が望まれる。専門学校は実践的な職業教育，専門的な技術教育を中心に据えた教育機関である。ただし，卒業生の就職後の初期キャリアの分化に対応するためには，次章でも触れられるように，専門職業的な知識・技術を学生に伝授すると同時に，多様で柔軟な職業キャリアへの円滑な変更ができるように，汎用性のある能力を身につけさせることも大きな課題といえる。

【注】

1）本研究では，表 2-1 以外，統計的検定は全て 5%水準を採用している。

【参考文献】

塚原修一　2005「専門学校の新たな展開と役割」『日本労働研究雑誌』No.542，日本労働研究機構，70-80 頁。

濱中淳子　2007a「高等教育における専修学校の役割：入口と出口からの検証①高校生の進学行動からみた専修学校」『IDE』No.492，IDE 大学協会，73-77 頁。

濱中淳子　2007b「高等教育における専修学校の役割：入口と出口からの検証②卒業生の職業分布からみた専修学校の特質」『IDE』No.493，IDE 大学協会，70-75 頁。

濱中淳子　2007c「高等教育における専修学校の役割：入口と出口からの検証③専修学校卒業生の所得と働き方」『IDE』No.495，IDE 大学協会，67-72 頁。

矢野眞和・濱中淳子　2006「なぜ，大学に進学しないのか」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第 79 集，東洋館出版社，85-104 頁。

吉本圭一　2003「専門学校の発展と高等教育の多様化」日本高等教育学会編『高等教育研究』第 6 集，玉川大学出版部，83-103 頁。

第３章　専門学校教育に対する卒業生の評価

小方　直幸
（広島大学）

この章では，卒業後の職業キャリアを経た後に，専門学校卒業生が専門学校教育に対してどのような評価をくだしているかを報告する。

１．資格か学んだ知識・技能か

専門学校に対して一般的に抱かれているイメージは，職業に直結した資格の取得を通じた職業教育かもしれない。そこでまず，専門学校教育と職業との関係を，いくつかのディメンジョンに分けて概観しておきたい。具体的には，資格や専門分野と仕事という形式的な対応，ならびに在学中に実際に獲得した知識・技能と仕事という実質的な対応に関する卒業生の認識である。表 3-1 は，それぞれに対する評価を卒業後の年数による相違及び初職と現職別に分けてみた結果である[1)]。

表 3-1　資格に対する評価と学んだ知識・技能に対する評価

	初職			現職		
	卒後1年	卒後3年	卒後7年	卒後1年	卒後3年	卒後7年
資格の寄与	3.0	3.0	3.0	3.1	2.9	2.8 *
専門分野との対応	2.9	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8
知識・技能の寄与	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.1 **

**1%、*5%で有意

初職か現職かを問わずまず明らかなのは，在学中に獲得した知識・技能のほうが，在学中に取得した資格よりも高く評価されている点である。専門分野に対する評価は問いの構造が異なるため，他と比較できないが，ある程度高い評価を得ている。ただし評価の絶対値レベルで見れば，必ずしも高い評価とはいえない面もある。また，現職については卒業後の年数によって回答傾向が異なる。資格についても知識・技能についても，卒業後の年数，つまり職業経験年数を経た者ほど評価は下がっている。こうした卒業後の年数による評価の変動は，他の評価項目でも認められるため，次節以降でさらに議論したい。

以上は卒業生全体についての傾向であり，専門分野によっても評価は一様でない。ここでは煩雑になるため，初職についてのみ専門分野別の評価の相違を示した（表 3-2）。

表 3-2　専門分野別に見た資格に対する評価と学んだ知識・技能に対する評価

	初職					
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養
資格の寄与***	3.2	3.3	2.5	3.2	3.0	2.8
専門分野との対応*	3.3	3.1	2.9	3.4	2.7	2.6
知識・技能の寄与***	3.5	3.4	3.6	3.7	3.3	3.4

***0.1%、**1%、*5%で有意

専門分野を問わず，在学中に取得した資格よりも在学中に獲得した知識・技能を高く評価している点は，ここでも確認される。その上で専門分野による相違をみると，資格に対する評価は工業系，衛生系，教育・社会福祉系で高く，同様の傾向は専門分野に対する評価にも該当する。学んだ知識・技能に対する評価についても，教育・社会福祉系や工業系の評価が高く，専門分野と職種の対応が明確な職種特化型の特徴が出ている。ただし，服飾・家政系等でも評価が高くなっている点には留意が要る。

第 2 章でみたように，専門分野によって卒業後のキャリアはかなり異なっている。表 3-2 の結果は，その点も反映してのことだろう。その意味では，専門学校教育に対する評価も，専門分野別に詳細に検討する必要がある。ただし，序章でも述べたように，専門学校の卒業生に対する情報が十分に収集されておらず，分析の蓄積もほとんどないため，また今回用いるデータでは，例えば専門分野と卒業年の双方を加味した分析を行おうとした場合，サンプル数が少なくなる。そのため，以下の節では専門学校卒業生全体に関する評価の記述をまずは優先する。

２．在学中の獲得能力に対する評価

卒業時の獲得能力

図 3-1 は卒業時に獲得した能力に対する自己評価を示したものである(5 段階評価の平均値)。直接進学者と他の高等教育経験者を比較した場合，全般的に後者で評価が高い傾向にあり，これは他の高等教育の経験分が加味された結果といえる。ただし，評価の水準にそれほど大きな隔たりはない。即ち，最も評価が高いのは「礼儀・マナー」「コミュニケーション能力」に対してであり，逆に「リーダーシップを発揮できる力量」「起業の精神」「外国語の能力」に対する評価は低い。また,「専門的知識や技能」「チームの中で仕事を遂行する能力」「自発性，自主性」「仕事への適応力」といった項目に対する評価は相対的に高めである。

職場での要求能力とのギャップ

こうした獲得能力は，第一義的には制度としての専門学校あるいは各専門学校が設定する学習の到達水準によって評価されるべきものである。しかし，大学でもようやくアウトカム評価の議論が開始されたところで，専門学校についても，獲得能力の到達度が必ずしも明確になっているわけではない。そこで次善の策として獲得能力の評価の指針となるのは，卒業後に職場

図 3-1　卒業時に獲得した能力

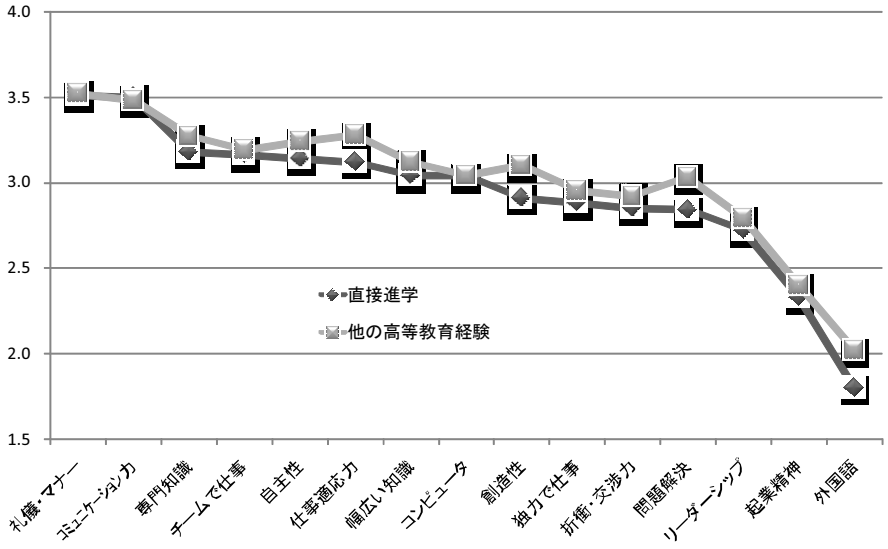
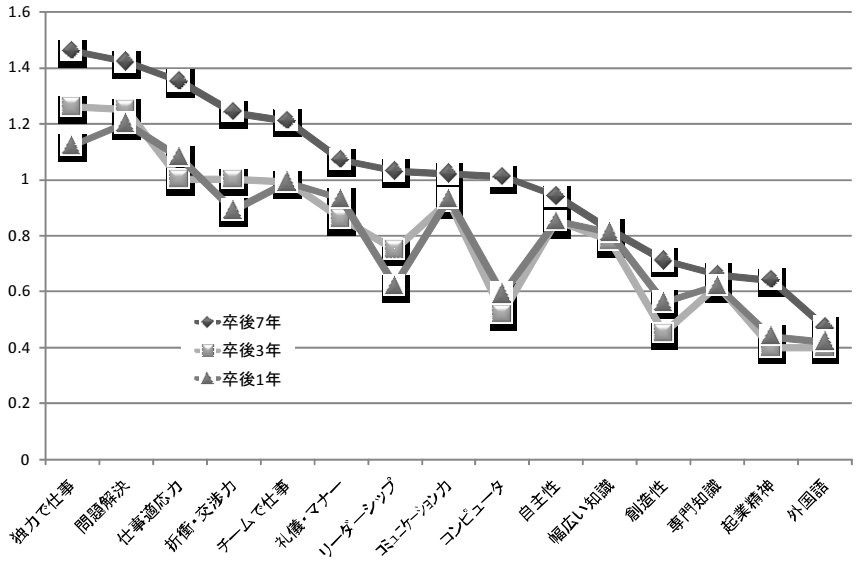


図 3-2　職場で必要な能力と卒業時の獲得能力のギャップ



で要求される能力との関係である。図 3-2 は，卒業時の獲得能力と職場で要求される能力の間にどの程度ギャップがあるかをみたものである [2)]。なお，職場の要求能力は，卒業年次つまり職業経験の年数に応じても変化すると考えられるため，卒業年次別に示している。

まず押さえておきたいことは，卒業後の年数を経ている者，特に職業経験の長い卒業後 7 年目の者で，職場の要求能力と卒業時の獲得能力とのギャップが大きくなっている点である。卒業後 3 年目と 1 年目の者の間には大きな相違はない。この点をめぐっては 2 つの解釈が可能である。1 つは，専門学校教育が職業教育的な機能を十分に果たせていないという解釈，もう 1 つは，職業経験を積み重ねる過程で要求能力が高まる職務に就いているので，ギャップが拡大するのは当然という解釈である。

卒業時の年齢が 20 代前半の者が多いという事実を踏まえると，専門学校教育が即戦力養成としての機能を果たしているとは考えにくい。そこで暫定的ではあるが，職場で経験を重ねる過程でより高度な能力を要求されるようになっており，卒業後の年数によるギャップの認識の拡大は, 必ずしも否定的に捉える必要はないという, 後者の解釈をここでは採用しておきたい。

その上でギャップの大きい項目に着目すると,「ひとりで仕事をこなせる力」「問題解決能力」「仕事への適応力」「人との交渉力，折衝能力」の順になっている。これらは，図 3-1 でみたように, 必ずしも卒業時点での評価が高くなかった能力である。他方で,「専門的な知識や技能」「起業の精神」「外国語の能力」については，ギャップが小さい。「外国語の能力」や「起業の精神」は卒業時点での評価も高くなかったが，職場でそれほど要求されていないため，不足感は少なくなっている。

職場の要求能力と卒業時の獲得能力とのギャップからみえてくることは，卒業時点での評価の高低が，必ずしも職場での要求に対応しているわけではない点である。また，こうしたギャップの存在が確認されたとして，そうした能力を全て専門学校在学中に獲得すべきと考える必要もない。職場で要求される能力の中には，仕事を経験するプロセスで身につけるものも少なくないからである。

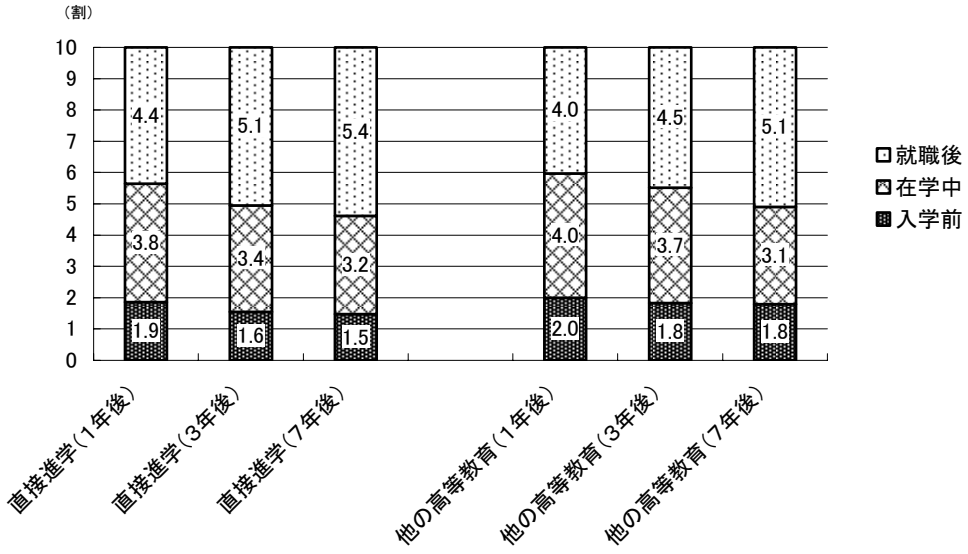
個々の専門学校においては，卒業生が職場で要求される能力をまず認識し，そのうちどの部分を在学中のプログラムで身につけさせていくか，また身につけさせることが可能かを吟味した上で，取捨選択が行われるべきだろう。さらに，ギャップの大きさは，より高度な業務に就いていることを示している可能性もある。専門学校在学中に獲得した能力を基盤として，より高度な業務に従事していれば，むしろギャップの拡大は望ましいといえる。ただし，この点を明らかにするには，卒業生のキャリアに関するより詳細な考察が必要であり，本書がカバーできる範囲を越えるものである。

能力の仕上がりイメージ

上述の議論では，現在の能力を形成する上で，専門学校教育がどの程度寄与しているのか，直感的にわかりにくい。そこで専門学校卒業生の能力がどのように積み上がっているかを別の視点からみたものが，図 3-3 である。

まず明らかなのは，直接進学者よりも他の高等教育経験者のほうが，入学前あるいは専門学校在学中に獲得した能力を高めに評価している点である。これは，他の高等教育機関の在学中

図 3-3　能力の積み上がりに対する評価



に身につけた能力が加味された結果であろう。また，卒業後の年数を経た者ほど，就職以前に獲得した能力を低く評価する傾向にある。これは，職場で要求される能力が高まる，ないし以前に学んだ知識の陳腐化が生じ，仕事の経験から学ぶものが増加するためだと解釈される。

さて，専門学校在学中の評価であるが，直接進学者にせよ他の高等教育経験者にせよ，専門学校入学以前よりも専門学校在学中に獲得した能力のほうを高く評価している。その結果，専門学校卒業時点で現在の能力の 5 割前後が仕上がっていると判断している。ただし裏を返せば，就職後に獲得した能力も 5 割前後に達するということでもある。この値を高いとみるか低いとみるかは，論者によって意見の分かれるところだろうが，専門学校での教育経験は，現在の能力形成に対して，一定の寄与をしているとみてよいだろう。

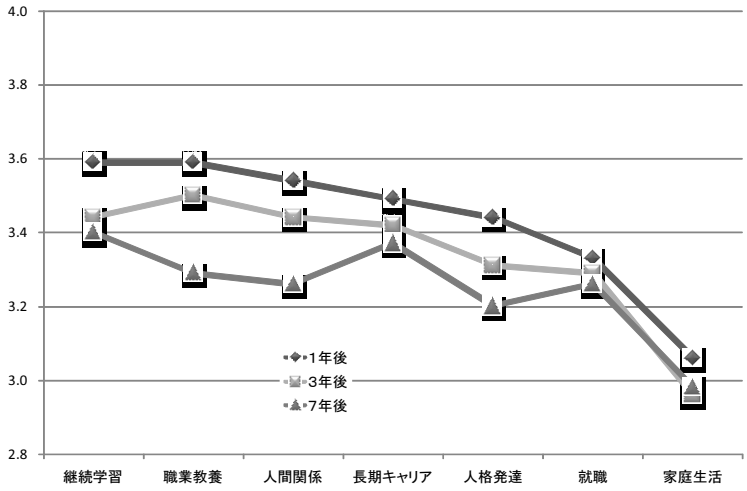
３．専門学校教育に対する評価の構造

しつけの実情ー学び直し効果仮説

第 1 章でみたように，専門学校への進学者のうち，少なからずの者は高校在学中の自宅での学習時間が短いものの，専門学校進学後には，ある程度授業外での予習や復習を行うようになっている。つまり専門学校は，学び直しの機会を高卒者に提供しているといえる。勉強時間の変化は客観的な指標で信頼性も高いが，以下では専門学校で学んだことに対する評価という，主観的な側面からもこの点を確認してみたい。

図 3-4　在学中の学習経験の効用

A. 直接進学者の場合



B. 他の高等教育経験者の場合

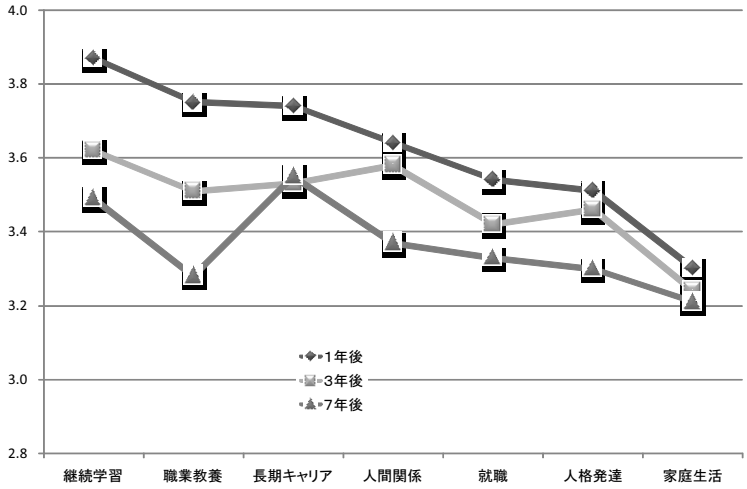


図 3-4 は，在学中に学んだことが役立っているかを，7 項目にわたって尋ねた結果（5 段階評価の平均値）である。まずここでも，直接進学者より他の高等教育経験者のほうが全般的に評価は高い。また，卒業後の年数を経た者ほど評価が低くなる点も，これまでみてきた他の設問に対する評価の傾向と一致している。

ただし，何れのケースにおいても，最も評価が高いのは「職業人として学習を継続していく上で」に対してである。これを第 1 章の結果と総合して考えるならば，専門学校は，入学時に学習する癖がついていない者に対して学習する癖を身につけさせ，それがさらに，卒業後に職

場で学習していく上での基盤にもなっている，と解釈できるだろう。

また「職業人として学習を継続していく上で」に次いで評価が高いのは，「教養（品位，一般常識，マナー）」であった。職業的な教養ともいえる側面でも，専門学校教育は一定の役割を果たしている。以下，直接進学者と他の高等教育経験者の間で多少順位の変動があるものの，「人間関係を広げたり深めたりする上で」「長期的な職業生活（キャリア）の基礎として」と続く。

評価の規定要因

最後に，第1章および第2章で触れられた項目も考慮しながら，上記の7項目を用いて，専門学校教育に対する評価がどのような構造に規定されているのかを紹介しておこう。表3-3は，入学前経験，在学中の経験，そして卒業後のキャリアの各領域が専門学校教育の評価をどのように規定しているかを，重回帰分析という手法を用いてみたものである[3)]。

まず入学前の経験については，高校在学中の将来展望が専門学校教育に対する評価を左右している。特に将来の職業も入学後に学んでみたい分野も明確でない，いわゆる曖昧進学者においては，「満足のいく仕事を見つける上で」「長期的な職業生活（キャリア）の基礎として」「職業人として学習を継続していく上で」の3項目に対する評価が低い。進学前の学習動機が重要なことを改めて示す結果である

しかし，入学前の経験で評価の多くが規定されるわけではない。むしろ，進学後にどのような経験をするかが，様々な面で重要な影響を及ぼしている。例えば教育プログラムの構造でいえば，「業界や職種に直結するように教育目標が設定されていた」「カリキュラム全体の中での授業間の関係や位置づけが明確だった」ことが，教育プログラムの実践でいえば，「授業内容・方法の充実」「授業外のサポートの充実」「教員や学生同士の交流」の何れもが，専門学校教育に対する評価を高める要因となっている。また卒業時の獲得能力の高さも，評価を高めることに繋がっている。さらに，生活時間としてアルバイトの時間が長いことが，評価を低くしている。専門学校がどういう教育プログラムを構想し，それを実践し，結果として学生に能力を獲得させるかが，評価を大きく左右しているのである。

卒業後のキャリアの領域はどうか。まず，雇用形態として非正規雇用であることは，「満足のいく仕事を見つける上で」「長期的な職業生活（キャリア）の基礎として」「職業人として学習を継続していく上で」に対する評価を低める要因となっている。現職の年収や労働時間，雇用先の規模の影響は明確でないが，職場での要求能力が高いほど，全ての項目に対する評価も高くなっている。前節で，卒業時の獲得能力と職場の要求能力のギャップがあることに対して，必ずしも否定的な見方をする必要はないと指摘したが，より高度な能力を要求される職場に就いていることの重要さを示す結果である。

表 3-3　評価の規定要因

	就職	長期キャリア	学習継続	人間関係	家庭生活	人格発達	職業教養
統制変数							
性別							
女性	−0.04	0.03	0.01	0.08 **	0.07 **	0.00	−0.01
男性	−	−	−	−	−	−	−
専門分野							
工業	0.01	0.08 **	0.03	0.03	0.01	−0.09 ***	−0.22 ****
衛生	0.05	0.03	0.01	−0.01	0.15 ****	0.03	−0.07 **
服飾・家政	0.03	0.07 **	0.08 **	0.04	0.07 *	0.00	−0.20 ****
教育・社会福祉	0.06 *	0.05	0.05	0.04	0.05	0.03	−0.06 **
商業・実務	−	−	−	−	−	−	−
文化・教養	0.00	−0.05	−0.04	0.76 **	0.01	0.00	−0.08 **
卒業年							
卒後7年	0.02	0.00	−0.03	−0.06 *	0.04	−0.01	−0.06 *
卒後3年	0.02	0.00	−0.03	−0.01	−0.01	0.00	−0.02
卒後1年	−	−	−	−	−	−	−
入学前経験							
高3学習時間	−0.03	0.02	0.45	0.02	0.03	0.01	0.03
将来展望							
将×分×	−0.07 **	−0.12 ****	−0.12 ****	0.01	0.02	0.02	−0.03
将×分○	−0.04	−0.06 *	−0.02	−0.02	−0.03	−0.01	−0.05 *
将○分×	−0.01	−0.06 *	−0.04	0.01	0.00	0.00	−0.01
将○分○	−	−	−	−	−	−	−
進学タイプ							
他の高等教育経験	0.01	0.02	0.03	0.02	0.04	0.00	−0.02
直接進学	−	−	−	−	−	−	−
在学中の経験							
生活時間							
予習・復習	0.04	−0.01	−0.01	0.00	−0.01	0.03	−0.04
アルバイト	−0.03	−0.06 **	−0.06 **	−0.01	0.01	−0.05 *	−0.05 *
教育プログラムの構造							
職業的教育目標	0.15 ****	0.14 ****	0.15 ****	0.08 **	−0.01	0.02	0.08 **
明確な到達度	0.04	0.06	0.01	−0.02	−0.01	−0.06	−0.05
体系性	0.04	0.06	0.08 **	0.08 **	0.13 ***	0.13 ***	0.12 ***
教育プログラムの実践							
内容・方法が充実	0.08 *	0.05	0.11 ***	0.08 *	0.09 **	0.21 ****	0.19 ****
サポートが充実	0.20 ****	0.18 ****	0.14 ****	0.10 ***	0.11 ***	0.10 ***	0.10 ***
人的交流が充実	−0.04	−0.01	0.00	0.22 ****	0.11 ***	0.11 ***	0.03
到達度							
ソフト能力	0.08 ***	0.05	0.06 *	0.20 ****	0.17 ****	0.14 ***	0.14 ****
ハード能力	0.05	0.09 ***	0.09 ***	−0.01	0.07 **	0.02	0.13 ****
卒業後のキャリア							
現在の状況							
正規雇用	−	−	−	−	−	−	−
非正規雇用	−0.09 ***	−0.09 ***	−0.08 ***	−0.02	0.01	−0.05	−0.05 *
その他	−0.03	−0.03	−0.03	0.02	0.04	0.02	0.03
現職の年収							
−199万円	−0.03	−0.02	0.01	−0.02	−0.02	−0.01	0.01
200−299万円	−	−	−	−	−	−	−
300−399万円	0.04	0.04	0.07 **	−0.03	−0.04	−0.03	−0.01
400万円−	0.02	0.00	−0.02	0.02	−0.02	−0.01	−0.03
現職の労働時間							
−39時間	0.02	0.03	0.02	0.00	0.01	0.10	0.02
40−49時間	−	−	−	−	−	−	−
50−59時間	−0.01	0.04	0.03	−0.02	0.02	0.03	0.03
60時間−	−0.02	−0.03	−0.03	−0.01	−0.01	−0.01	−0.01
現職の企業規模							
−29人	−0.02	−0.02	0.04	0.05	0.03	0.14	0.00
30−99人	−0.03	−0.01	0.04	0.04	−0.01	0.03	0.01
100−299人	−	−	−	−	−	−	−
300−999人	−0.06 *	−0.04	−0.03	0.00	−0.03	−0.04	0.01
1000人−	−0.04	−0.01	0.04	−0.03	−0.01	−0.03	0.01
職場の要求能力	0.19 ****	0.18 ****	0.17 ****	0.13 ****	0.07 **	0.11 ****	0.10 ****
R2乗	0.26	0.28	0.31	0.30	0.22	0.26	0.32
F値	10.82 ****	12.38 ****	13.65 ****	13.05 ****	8.83 ****	10.97 ****	14.67 ****

****0.1%、***1%、**5%、*10%で有意

４．まとめ

この章では，専門学校教育に対する卒業生の評価を様々な角度から紹介してきた。以下，これまでの結果を簡単に整理しておきたい。

まず，専門学校＝職業資格の付与というイメージが強いかもしれないが，卒業生は資格よりも学んだ知識・技能そのものを評価している。これは，職場において資格の果たす機能は限定的であることを示すものである[4]。他方で，現在の能力を 10 割とした場合，専門学校卒業時までに形成されたのは 5 割であった。つまり，資格の果たす機能だけでなく，専門学校教育が全体として果たす機能も，職業能力形成の一部に留まるのである。この事実からもわかるように，専門学校教育は即戦力教育なのではない。

しかし，その点を否定的に捉える必要は必ずしもない。卒業時に 5 割が仕上がっているということは，そのうち専門学校在学中に身につけた比率が高いこともあり，専門学校教育の役割を一定程度評価してよいと思われる。もちろん，就職後に獲得しなければいけない能力が少なからずあり，それは職場の要求能力と卒業時の獲得能力の間にギャップがあることからも明らかである。だが，即戦力教育ではないという前提に立てば，ギャップの存在も課題とばかり考える必要はない。卒業時点で一定の能力が担保されているのであれば，むしろギャップの存在は，卒業後のキャリアを積む過程で，より高度な能力を要求されるようになっていることの証しという見方も可能だからである。

では卒業時点での一定の能力とは何か。1 つの回答は，高校在学中に十分身につけたとはいえない，学ぶ姿勢の獲得だろう。それが，卒業後の職場における学習行動の土台も形成している。「時代遅れにならない技能とは，新しい技能を学ぶ技能なのだ」といったのはギボンズ[5]だが，職業も技能も変化が激しい時代には，新たな環境に適応していくために学ぶ姿勢が欠かせない。ただし 1 つの回答といったのは，高校教育でやり残した側面のみが専門学校教育の役割ではないはずだからである。それは他でもない，職業教育的な側面である。だがその内実は，今回の調査でも十分に解明されたとはいえない。

例えば職業教養的なマナーや常識の獲得に対する評価が高かったので，その点を挙げることも可能であろう。しかし，授業で扱われているのは，そうしたものだけではない。職業教育という際には，その職業を遂行していく上で必要な理論・体系的な知識のミニマムエッセンスがあるはずであり，そうした知識の獲得と連動して獲得されるスキルもまたあるはずである。今回の調査でも，ハードな能力に加えてソフトな能力の卒業時点での獲得が，専門学校教育に対する評価を高めており，職業教育的な内実を間接的に示すものといえる。しかし，変化の激しい時代には，ミニマムエッセンスを定義すること自体が困難化することもまた事実である。非大学型の職業教育を標榜する専門学校の職業教育的な側面のコアは何か。それを析出することは，今後の課題として残されている。

【注】

1)在学中に取得した資格及び在学中に獲得した知識・技能に対する評価は5段階評価の，専門分野の対応に対する評価は4段階評価の平均値。

2)職場での必要性（5 段階評価）から卒業時の獲得能力（5 段階評価）の値を引き，卒業年次別に全体の平均値を求めたもの。

3)将来展望については，表1-1の分類を用いている。教育プログラムの実践については，授業内容・方法を構成する6項目，授業外サポートを構成する4項目，教員や学生同士の交流を構成する 2 項目を，個別に因子分析（回転なし）を行い，それぞれ 1 つの因子に集約した。到達度については，卒業時の獲得能力を尋ねた 15 項目に因子分析（バリマックス回転）を行い，2つの因子を抽出した。「専門的な知識や技能」「幅広い知識・教養」「外国語の能力」「コンピュータを使いこなす技能」の 4 つをハードな能力とし，残りの 11 項目をソフトな能力として命名した。職場の要求能力については，15項目について因子分析（回転なし）を行い，第一因子のみを利用した。

4)資格取得の効用について，今回の調査では踏み込んだ考察が行えていないが，高卒時に獲得できなかった学習習慣の育成という点を踏まえるならば，以下のような効用を仮説的に提示することも可能である。即ち，資格取得から得られる職業専門的な知識等の効用は，それほど大きくないのかもしれないが，どういうプロセスで学習を進めていけば資格が取得できるのかという，いわば「目標に向けた学習の進め方、方策」といったものも，資格取得を通じて身につけている可能性もある。

5)マイケル・ギボンズ（小林信一監訳）1997『現代社会と知の創造』，丸善ライブラリー，136頁。

終章　結論と課題

小方　直幸
（広島大学）

１．問われる専門学校研究の位置づけ

序章でも述べたように，他者と比べてどういう学生が入学し，それが卒業後の経済社会的地位をどのように規定しているかを考えるのが教育社会学的なアプローチだとすれば，受け入れた学生を所与とみなして彼ら・彼女らに何を付与できるかを考えるのが高等教育論的アプローチといえる。前者はインプットーアウトカムモデルの色彩が，後者はプロセスーアウトカムモデルの色彩が強い。

機関の選抜性に基づく分析が行いやすい大学の領域では，教育社会学的なアプローチが依然として有効な場面も少なくない。しかし，入学選抜が機能しにくい非大学型高等教育機関の場合には，学校の階層性に依拠した分析は相対的に行いにくくなる。従来の専門学校を含む非大学型高等教育機関の研究が，教育社会学のテーマとして市民権を得にくかったのはそのためであり，数少ない研究が，他の学歴との関係の中で専門学校を位置づけようとしてきたのも，こうした事情を反映していたと思われる。

他方で，ユニバーサル化した高等教育システムの下では，学力の獲得が不十分で学習目標も明確でない層が増加する。こうした学生の多様化を背景に，入口重視から出口重視へということが指摘されることが多い。しかしそれは，実態を必ずしも反映した言説ではない。いつの時代にも出口は重要であり，その出口を左右していたのが入口であったから，入口の研究が重視されてきたのである。入口の影響が弱体化した今，出口を左右するのがプロセスにシフトしているため，プロセスの研究が重要になっている。高等教育の拡大とプロセスの重要性が高まることは，コインの裏表の関係にある。

そのため，専門学校研究で設定されてきた「受け皿」or「就職有利」といった問も，それを所与とする前に，「受け皿」や「就職有利」がそもそも何を意味しているのかを自覚，再考する必要がある。「受け皿」には，大学進学を断念した者だけでなく，進学圧力が増したために高等教育進学を断念していた者の受け入れという意味もある。「就職有利」にも，アカデミックな教育よりも職業教育が役立つというだけでなく，専門学校として職業教育をどこまで果たせているかという意味もある。改めて問われるべきは，専門学校研究の位置づけそのものなのである。

２．含意

しつけが機能するコンテキストと脆弱性

第１章では，高校在学中の経験が専門学校進学後の行動にどのように影響し，また専門学校の提供する教育が，在学中の行動にどこまでインパクトを及ぼし得るかを検証し，専門学校が提供する教育の重要性を明らかにした。学習習慣が身についており，将来展望が明確な学生を受け入れることができれば，確かに進学後のリスクは小さい。だがその指摘が，ユニバーサル化した高等教育システムの下で，どこまで現実味のあるものなのかは疑問である。

また，高校におけるキャリア教育の役割を過大視すべきではない。将来展望が専門学校進学後の学習を規定している面もあるが，その明確さが高校における学習を支えるというサイクルは限定的なものである。高校での学習を成立させていたのは，高等教育への進学における入学選抜の機能である。その機能は今や一部の高等教育機関のものとなっている。しかし，キャリア教育はそれに代わるものではない。将来展望を明確にすることで，例えば五教科を学ばせる学習動機が担保できるとは考えにくい。

このような疑問を提示するのは，専門学校で学び直しとしてのしつけを機能させているコンテキストは，一般科目ではなくて将来と直結した職業教育の提供にある，という立場を採用するからである。高校教育のコンテキストで機能するしつけを取り戻すには，五教科を学ぶことの意義をどこまで正当化できるかにかかっている。ただし，逆説的ながら，専門学校におけるしつけを成立させているのは，高校教育の不全が背景にあるからである。その意味で，しつけは決して専門学校独自の安定した役割とはいえない。

初期キャリア分析の有効性

第２章でみたように，一口に専門学校といっても，専攻によって卒業後の初期キャリアは大きく異なっている。初期キャリアの特徴を分ける一つの鍵は，正規雇用か否かという雇用形態である。非正規雇用から正規雇用に転じることは容易でない。もちろん，年収や労働時間も転職行動等に影響している。なお，たとえ転職しても，その後も同じ職種であれば，職種別労働市場が形成されていることを意味するが，労働条件が劣悪なために異動が頻発している可能性もある。また，雇用形態や労働条件を背景に，当初は学習内容と直結した仕事に就いていた者が，そのルートから退出することも生じている。加えて，専門学校教育に対する評価を左右していたのは，年収や労働時間といった量的な労働条件よりも，高い能力を要求される仕事であるか否かという質的な労働条件だった。

もちろん職業選択は，本人の意向と労働条件の関数で決まるものであり，後者を過大視することは避けなければならない。しかし，専門学校の取組とは別の力学で初期キャリアが形成され，それが結果として専門学校の評価に跳ね返るケースもある。初期キャリアは，学ぶ場と働く場の網の目の中で重層的に決まる。どちらか一方の視点だけから評価することはできない。

従来から，大卒者や短大卒者を対象とした研究で，初期キャリア分析の有効性が示されてきたが[1)]，専門学校卒者の場合にもそれが該当することが，改めて確認されたといえる。

職業教育の根幹の模索

第 3 章では，在学中の経験，そして初期キャリアの形成の経験を踏まえて，卒業生が専門学校教育をどのように評価しているかを考察した。職業能力の形成に果たす専門学校の役割は，高卒時点までの役割と比べて決して小さくない。ただしそれは，即戦力の教育ではなく，将来の基盤としての教育である。その一つのコアは，職場で継続して学ぶ力である。高卒時には獲得が十分でなく，在学中に身につけて，それが職場における学習の礎となっている。しかしその機能が脆弱性も持つことは，先に指摘した通りである。では専門学校教育の独自性は何処にあるのか。

例えば職業教養的なマナーの育成に対する評価も高かったが，それは果たして職業教育の根幹といえるのだろうか。また，柔軟な職業キャリアに対応するために，いわゆる汎用的なスキルの重要性を説くこともできる。汎用的なスキルをアカデミックな知識を通して身につけさせるのが大学で，職業的な知識を媒介として獲得させるのが専門学校であると。しかしこれは，あまりに単純化した図式であり，扱う知識の素材がたまたま大学と専門学校では違うだけということになりかねない。体系化された職業知識とそれを通して身につくスキルの内実については，職業現場の研究を積み重ねるなどして模索していく必要がある。

３．課題

今回の考察は，少数の専門学校を対象としており，調査結果にバイアスがある可能性も否定できず，一般化することは危険である。近い将来，本書の分析の妥当性の検証も含めて，大規模な全国レベルの卒業生調査が行われることが望まれる。また，卒業生の意見は重要だが，そこから得られた情報は，他の関係者つまり教育を実践する専門学校教員や，卒業生を受け入れる雇用者の視点からの意見とつきあわせて，再解釈される必要がある。はしがきにも書いたように，雇用者に対する調査は現在進行中であり，近い将来報告することができると考えている。

他方で，調査に参加した専門学校が，結果をどう受け止めるかということは，こうした調査を教育改善に接合していく意味で重要である。事例の一端は第Ⅱ部で紹介しているが，その際に有効な 1 つの手段は，他機関とのベンチマークであろう。教育のパフォーマンスについて，善し悪しの判断基準を各学校が独自に設定することは，必ずしも容易でないからである。そのためには，本書の分析は個人を単位としているが，機関を単位とした分析が必要となる。

なお，卒業生調査に限らず，調査を行うことの第一義的な意味は，事実を明らかにすることにある。ただ，明らかにされた事実が，教育実践としては対処できないものならば，それを現場に提示することの意義は薄れてしまう。本書では，事実の発見と実践への示唆の双方を射程

に収めようとしたが，どこまでうまくいったかはわからない。また，専門学校についての不勉強さから，高等教育における専門学校というコンテキストをどこまで織り込んで分析，解釈できたかについても，課題がないわけではない。今一度全体を読み直すと，専門学校に特有なことではなく，どの学歴の卒業生研究においても妥当する，よくいえば普遍的，悪く言えば文脈を無視した偏りのある考察になっているかもしれない。そのため，事実の析出に関しては研究者からの厳しい批判を，他方で教育実践への寄与に対する意義に関しては，現場の方からの厳しい批判を仰ぎ，今後の糧としたい。

【注】

1) 例えば，日本労働研究機構　2001『日欧の大学と職業－高等教育と職業に関する 12 カ国比較調査結果－』調査研究報告書 No.143，短大基準協会　2005『短大卒業生の進路・キャリア形成と短大評価』など。

第Ⅱ部

資料編

卒業生調査の活用事例

「専門学校教育と卒業生のキャリアに関する調査」を終えて

久保谷富美男
（神田外語学院）

この度の調査を終えて改めて感じたことは，調査結果をもって専門学校という括りで一律の評価結果を語ることはできないということである。当然のこととは言え，各分野において，ひいては各学校が独自に調査結果について分析し，それぞれの教育理念の下，自らが自らの教育及び教育施策の成果や課題として，ひとつの側面からその結果を踏まえて評価し，改善すべきものであるということは言うまでもない。

また一般的に調査とは，たとえて言えば“特定の場所で一瞬の川の流れを測るようなもの”であって，その結果だけをもって川上から川下までの全ての流れを語れるものでもない。従ってこの結果をもって一喜一憂すべきものではないが，このような調査を行う取組を通じて，専門学校教育に関する継続的な分析・検証・改善サイクルを確立することが重要であると考えている。

本校では，これまでも学生の満足度調査等を繰り返し実施し，教育改善に努めているが，この様な形で卒業生を対象とした教育内容とキャリアについての調査は初めての試みであった。しかもこの調査に関する会議のたびに，東京都専修学校各種学校協会の調整と小方直幸准教授（広島大学）のアドバイスをいただき，11 校の専門学校が協力して長期にわたりこのプロジェクト業務を遂行できたことは，専門学校教育の多面的な分析を行うという意味においても重要であったと考えている。

１．学校の概要

本校は，昭和 38 年（1963 年）国際化の嵐の中での社会的要請に応え，「セントラル米英語学院」として国際人養成を標榜し「ことばは世界をつなぐ平和の礎」を理念として設立された。その後，昭和 40 年（1965 年）に「神田外語学院」と校名を変更し，昭和 51 年には専修学校の専門課程として認可を受けた。現在は 2 年制専門課程（9 学科＋留学）と 1 年制専門課程（4 学科）が設置されている。2 年制専門課程で学ぶためには，高等学校卒業又はそれと同等以上の資格が必要で，卒業までの総授業時間数は 2016 時間である。規定の単位を修得した場合，卒業時には「専門士」の称号が授与される。1 年制専門課程は大学・短大・専門学校卒業，又はそれと同等以上の資格を入学基準としている。

２．卒業生調査への参加の経緯と狙い

本校ではこれまでも学生満足度調査や第三者評価プロジェクトなどを通じて，様々な取組を行い教育改善に努めてきた。しかし近年の新グローバル化にともない，地球規模的社会の移り変わりの速さ，企業体質の変化，社会から求められる学生能力等への対応を全学的レベルの課題として捉え，様々な角度からの分析データが必要との認識に至っていた。従って，今回の調査に参画することは理事長・学院長・事務局長レベルで決定し，理事長室が担当することとした。

本校は間もなく創立 50 年の節目を迎える。これまでの間，社会的ニーズは大きく変化するとともに，神田外語学院を取り巻く環境も大きく変わっているが，今日まで理念に基づき一貫した語学教育を継続してきた。これら歴史的経緯と環境変化を踏まえ，神田外語学院が新たな要請に即した語学教育を展開し，より発展していくためにもこの調査結果はひとつのメルクマールとなるものである。これからも様々な課題の分析・検証・改善サイクルを確立して．社会の要請に応えるべく努力を継続して行きたいと考えている。

３．調査からわかったこと

本校の調査結果についてまず総論から述べたい。2000 年，2004 年，2006 年の卒業生 559 名を対象として行ったこの調査の回収率は 17.5%（98 件）であった。一般的なアンケートの回収率と比較すればまずまずの回収率といえる。これに関しての特徴は，回収された 98 件のうち 44 件（45%）が 2004 年の卒業生で，2000 年卒業生 26 件（26.5%），2006 年卒業生 26 件（26.5%），不明 2 件であった。2004 年卒業生の回収率が中でも際立って高かった要因は，現時点では正確に分析解明されていない。アンケート調査の基本であるバイアスが掛からぬようランダムに抽出したはずだが，結果的に在住地域の偏り又は男女の偏りがあったこともその原因として考えられる。また，その年の社会的背景に何か要因があるものなのかについても考察してみたい。このことがまず初めに気づいた点である。

総論のもう一つは，専門学校として解決するには難しい宿命的な課題があることである。それは以下の調査結果（文化・教養分野）であり，他分野校もほぼ同じ傾向があった。

<u>在学中の経験について（５段階評価の４と５の合計）</u>

「本学在学中，以下の活動にどれくらい力を注いでいましたか」の結果をみると，「学校の授業外の勉強（35.5%）」，「サークル・クラブ活動（12.1%）」は，いずれも各学校において評価結果は低いものであった。これに関しては，専門学校の 2 年間で，且つハードな授業スケジュールでは止むを得ない結果かと考えている。しかしながら，本校では趣味も兼ねた勉強会や県人会を通して，この問題の対策としたいと考えている。

次に文化・教養分野（本校）に関する各論について，感じたことを掻い摘んで述べたい。

在学中の経験について

「本校の教育に関する印象は」の結果を見ると，「業界や職種に直結するように教育目標が設定されていた」は 63.4%であったのに対し，「卒業までに何をどこまで学べばよいかが明確にされていた」は 33.5%であった。この結果については，カリキュラムの問題よりも，シラバス（授業計画）をより詳細にし，明確なゴールを定める必要があるのではないかと考えている。

卒業後の進路について

「卒業後の最初の職場についてあてはまるもの」の中で，「仕事のやり方や必要な知識・技能について，先輩が教えてくれる訓練・研修を通して学ぶ機会があった」については，該当する 67.7%に対して，該当しないは 32.3%という結果であった。

現在の仕事について

「あなたの現在の状況について」では，正規職員（46.4%），契約・派遣（24.0%），パート・臨時（8.2%），大学・大学院（5.5%），その他（4.9%），家事・子育て（4.4%），短大・専門（3.8%），求職を継続（2.2%），職業訓練（0.5%）の順であった。

専門学校教育と仕事との関係について

「仕事を十分こなすため（一人前とみなされるため）には，専門学校卒業後，どのくらいの期間の経験が必要だと思いますか」では，3～5 年未満（23.7%），1～2 年未満（19.8%），2～3 年未満（13.0%），半年～1 年未満（11.9%），経験はいらない（10.7%），5～10 年未満（9.6%），半年未満（7.3%），10 年以上（4.0%）の順であった。

本校に入学するまでのこと

「本校への進学を決めた理由について」では，「学びたい分野があったから」が 82.8%と非常に高い評価を得た。他分野校も同様の結果となっており，専門学校志願者の特徴といえる。

あなたご自身について

「あなたの卒業した専門学校は成功していると思いますか」の中で，「職業にすぐ役立つ教育を行う」88.1%，「資格に直結した教育を行う」88.1%，「職業人としての幅広い教育を行う」82%，「大学・大学院に進学する道をひらく」62.1%，「大学生や社会人に職業教育を行う」68.9%という結果であった。前 3 者の結果についてはいずれも 80%を超える評価を得ることができた。

この他にも概ね満足のいく評価，想定内の課題を残した評価，自由記入では多数感謝の意を

表してくれたコメント，一方，僅かながらではあるが厳しい意見もあり，いずれも分析・検証・改善サイクルの糧となるものが多かった。本校ではそれぞれの結果について各専門部署のデータとして取り扱うこととしている。

４．教育改革および教育実践への活用に向けて

本校ではこうした調査結果を理事長・学院長・事務局長に報告し，部長会においても報告している。加えてこの結果をテーマ別に仕分けし，担当部署ごとに専門的に分析検証を行う予定である。また，内容によっては在学生の満足度調査結果と比較対照した分析も必要との認識に至っている。こうしたプロセスを経て，これら調査結果で明らかとなった課題等については，全学で取り組んでいる中期経営計画に反映させる予定である。このように今回の調査結果はひとつの指標として真摯に受け止め，分析・検証・改善サイクルの確立に努めて行きたい。

卒業生調査への参加の狙いと意義

高村　雅行
（文化服装学院）

１．学校の概要

本校は，1923 年日本初の服飾教育学校として設立以来，高田賢三，山本耀司，コシノヒロコ，津森千里，渡辺淳弥，岩谷俊和など，世界を舞台に活躍するファッションクリエーターを輩出し続けている専門学校である。

東京の新宿新都心にある地上 20 階，地下 2 階の校舎には，講義室，実習室のほか，研究室，コンピュータ室が配備され，実習室では産業界の現場に即した最新の設備を完備している。服飾専門課程，ファッション工科専門課程，ファッション流通専門課程，ファッション工芸専門課程の 4 つの専門課程からなり，服飾専門課程には夜間のコースも設置している。

2008 年 4 月には，初の直営校として広島に専門学校文化服装学院広島校を開校し，東京本校で培ってきたファッション教育のノウハウを生かし，新たに西日本のファッション教育の拠点校となることを目指している。

２．卒業生調査への参加の経緯と狙い

本学院では，これまでさまざまな教育改善に取り組んできた。しかし以前より指摘されてきた 18 歳人口の減少に伴い，入学者を確保することが難しくなってきたこと，また，いわゆる「ゆとり教育」の影響かどうかは定かではないが，入学する学生の質の問題などが生じてきている。大学 1 年を高校 4 年生，さらには中学 7 年生などと呼び，昔に比べると高等教育機関に進学する学生が徐々に幼稚化していることのたとえだと思われる。このような教育を取り巻く環境がかなり急激に変化しつつあることを鑑み，卒業後 1 年目，3 年目，7 年目というように卒業年に幅を持った過去の卒業生達が，在学当時どのようなことを考え，卒業後どんな道を選択し，過去を振り返ったときに現在どんなことを感じているかを知ること，なおかつ自校だけではなく，専門学校の他の分野のことも知ることができることは，今後の対策を考える上で，おおいに参考になると思い，この調査に参加することにした。

３．調査からわかったこと

「在学中のこと」から「卒業後の進路」,「現在の仕事」,「専門学校の教育と仕事の関係」など，設問は多岐にわたるので，そのひとつ一つについてコメントすることはできないが，今回の調査は専門学校の 8 分野すべての結果が出ているので，それぞれの項目での対比がわかって興味深い。例えば，次のような例が調査の結果から読み取れる。

在学中についての設問に関して

①ある分野では学校の勉強はそれほどでもないが，その分就業体験に熱心に取り組んでいる。服飾・家政分野では，「勉強にはとても力を注いでいる」「授業の内外でよく勉強している」という結果がでているが，これは課題がとても多いということと無関係ではないと思われる。

②「学校が楽しい」「学校生活の充実度・満足度」は，服飾・家政，工業，文化・教養分野で高くなっている。服飾分野に限っていえば，ファッションという分野では，理論的というより感覚的なかかわり方が大きいことが影響していると思われる。

卒業後の進路の設問に関して

③「最初の仕事の年収が高い」では工業分野が圧倒的だが，服飾・家政，文化・教養分野は低いグループに属している。これは，業界の規模による差であると考えられる。

④「就職（仕事）の経験年数が，収入の増加につながる率が高い分野」に工業に次いで服飾・家政分野があげられているのが若干意外な感じがしている。

など，個々の項目を調べていくと上記のようなことが見えてくる。また,「ご意見をご自由に記入してください」という欄では，鋭い指摘も少なからずあった。その中でも，カリキュラムや教育内容などについては，今後学校側でも検討しなくてはいけないような意見も散見され，これらの意見の中には，肯けるものもあり，また社会の側から見るとそう見えるのか，という意外な意見もあった。

４．今後について

現在，本学院では「未来検討会議ワーキンググループ 2008」という組織を立ちあげている。これは，平成 17 年（2005 年）に初めて行なった教育改革のための会議の 2008 年版ということになるが，本学院に所属するすべての教職員から自由な記述で，自分のかかわりのある職務だけではなく，カリキュラムや学生募集，学生問題，就職に関すること，留学生問題など，あらゆることに関して忌憚のない意見を求めて，書面で提出してもらった。

すべての教職員の中から，それぞれのグループを代表するワーキンググループを選出し，上

記の組織を立ち上げ，現在月 1 回位の割合で会議を行っている。問題の中には，短期的に解決できる問題だけではなく，中・長期的に時間をかけて解決策を模索しなくてはいけないものももちろんある。今回の調査結果もその中に含めて，今後の検討課題に加えて行きたいと考えている。

卒業生キャリア調査について

関口　正雄・伊藤　忠男
（東京スポーツ・レクリエーション専門学校）

１．学校概要

1995 年（平成 7 年）設立。学校法人滋慶学園の学校のひとつである東京福祉専門学校（1989 年設立）健康福祉学科スポーツ系コースから発展的に独立した。健康スポーツへの関心の高まりを背景に，スポーツ，レクリエーション業界で活躍できる人材の育成を目指している。

２．調査への参加について

専門学校の卒業生は，卒後どれくらいで戦力化するのか。その戦力化した時点で，専門学校で学んだことはどう活かされているのか。本来こうした問いかけと探求は専門学校にとって重要なはずである。確かに資格実績も就職実績も専門学校の教育成果である。しかし最終的に真価が問われるのは，卒業生たちがそれぞれの職業分野において活躍し，卒業生も業界側もその活躍を専門学校の教育の故であるとするかどうかという点においてである。

本校も含め専門学校は，卒業生のキャリア状況と専門学校教育への関連についての調査を本格的に行うことはなかった。今回の調査は，専門学校が本来自ら取り組むべき行動を改めて認識させるもので, この機会に同法人内の東京医薬専門学校, 東京福祉専門学校に参加を促した。本校としても主体的に取り組み，調査の趣旨を学園グループ各校にも周知して関心を惹起し，調査結果の分析から得られる教訓もまた共有していくことを幹部間で確認した。

３．調査結果について

上に述べた理由から，本調査への関心は，卒後それぞれの時点で卒業生たちが職場でどのような能力，知識を求められているのか，専門学校時の教育は，その諸能力，知識などをどの程度カバーできているのか，という点にあった。それは，まさに本調査の中にある以下の問いである。「問 21　次のような知識・技能・態度を専門学校卒業時点でどの程度身につけていましたか。また現在（またはいちばん最近）の職場で，それらはどの程度必要とされていますか，いましたか」

以下は，東京スポーツ・レクリエーション専門学校スポーツトレーナー科（回答者 44 名），

東京福祉専門学校介護福祉科（同 94 名）および社会福祉科（同 70 名），計卒業生 208 名の回答結果であり，数字は，「職場での必要性」では，5「とても必要」～1「全く必要ない」，「在学中みにつけたか」については，5「十分みにつけた」～1「全くみにつけていない」のそれぞれ 5 段階の評価のうち，5 および 4 の肯定的評価の合計となっている。

	職場での必要性	在学中に身につけたか
①幅広い知識・教養	67.4%　B	27.3%　B
②外国語能力	20.9%　C	5.6%　C
③コンピュータ技能	52.3%　D	46.4%　D
④問題解決能力	80.0%　A	33.3%　A
⑤ひとりで仕事をこなせる力	76.8%　B	27.3%　B
⑥チームの中で仕事を遂行する能力	74.4%　B	35.2%　B
⑦仕事への適応力	81.4%　A	40.9%　A
⑧創造性	57.0%　B	27.5%　B
⑨自発性・自主性	76.7%　B	31.8%　B
⑩コミュニケーション能力	90.7%　A	56.8%　A
⑪リーダーシップを発揮できる力量	61.6%　B	27.3%　B
⑫人との交渉力，折衝能力	63.9%　B	26.2%　B
⑬礼儀・マナー	89.6%　A	59.0%　A
⑭起業精神	33.7%　C	15.9%　C

考　察

A 部分（④問題解決能力，⑦仕事への適応力，⑩コミュニケーション能力，⑬礼儀・マナー）は，職場での必要性が非常に高い。これに対して，コミュニケーション能力，礼儀・マナー，仕事への適応力は高い割合で身についた，と感じているが，問題解決能力は身についていない，と感じる割合が多く，学校カリキュラムの見直しも視野に入れた検討をすべきではないか。

B 部分（①幅広い知識・教養，⑤ひとりで仕事をこなせる力，⑥チームの中で仕事を遂行する能力，⑧創造性，⑨自発性・自主性，⑪リーダーシップを発揮できる力量，⑫人との交渉力，折衝能力）は，職場での必要性が高いが，すべての項目において，在学中に必要とされる能力が身についていなかった，と感じる割合が多く，今後の学校カリキュラムの検討が必要とされる。

C 部分（②外国語能力，⑭起業精神）は，職場の必要性も在学中に身についたと感じる割合も低い。

D 部分（③コンピュータ技能）は職場での必要性を感じる割合と，職場で身についたと感じ

る割合の差が少ない。つまり学校カリキュラムが業界ニーズをしっかりと捉えているのではないか，と推測できる。

４．調査結果を受けて

上記の結果は，本校が属する滋慶学園グループ（教育理念と学校運営方法を共有する複数の法人と 40 数校の学校からなる）の幹部があつまる会議において披露された。出席者は，この結果に衝撃を受けた。学園グループは，教育理念のひとつに「人間教育」を掲げ，導入教育時には，自己啓発的なプログラムを，その後も現場力教育カリキュラムとして仕事の場面での人間力育成に力を入れてきた。また「国際教育」というもうひとつの理念から，英語教育にも熱心で，各校に 2 名のネイティブ教員を米国，豪州から選抜・招聘し，通年にわたって英会話中心の教育を実施している。

これに対し，今回の調査結果は，①職場での人間力関連諸能力の必要性を卒業生がわれわれの予測を超えて強く感じていること，②コミュニケーション能力などある程度在学中に身につけてもらっている能力（グループ内では，テキストを作りコミュニケーション能力検定を設置して，開発に努めている）もあるが，総じて在学中の教育では十分ではないと思われること，③力を入れている英会話教育に対し，職場での必要性も在学中の獲得度も低いと卒業生が感じていること，などの点で驚きと反省をもたらした。

グループの教育開発を担当する滋慶教育科学研究所を中心に，早速改善の動きに着手することになった。現在進行中の活動は，①職場において必要とされる諸能力について，同研究所生涯教育部会が継続的な調査を卒業生と企業に対し実施する，②これまで，導入教育，通常教育，就職指導などの場面でそのつど取り組んできた人間教育のプログラムを見直し，卒後 5 年後での必要人材要件をゴールに，卒後教育や卒後の個別支援までを視野に導入教育から一貫した人間教育プログラムを 1 年かけて作成することとし，研究所内の開発体制を再構築し，新たに人間教育委員会を設置し，このプログラム開発にあたること，③英語教育については，職場での必要性が低いことに対応し，グループでの教育についてコスト面からのバランスを検討すること，その他として，教育効果についても教育手法を中心に検討すること等となっている。

今回の調査は，とかく資格や就職という内向きの成果に固執するあまり，現場の人材像から乖離してしまう専門学校の傾向性に改めて目を向ける機会となった。本校と学園グループにとっても，これまでの人間教育の取り組みをやや自画自賛してきた面を反省し，より開かれたより本格的な人間教育の開発に，改めて着手できたことを多としたい。

基礎集計表

問１　本学に在学中、あなたは以下の活動にどれくらい力を注いでいましたか。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
学校の授業に関する勉強										
(N)	182	118	167	196	351	186	384	394	363	1200
全くなし	1.1%	2.5%	0.6%	1.0%	0.6%	0.5%	1.0%	0.3%	0.8%	0.9%
2	4.9%	14.4%	6.0%	8.7%	4.3%	5.4%	6.5%	5.6%	6.6%	6.5%
3	26.4%	28.8%	22.8%	42.9%	25.1%	25.3%	28.4%	30.5%	25.3%	28.3%
4	44.0%	32.2%	32.3%	31.1%	37.0%	44.6%	38.8%	35.5%	36.9%	37.2%
とても	23.6%	22.0%	38.3%	16.3%	33.0%	24.2%	25.3%	28.2%	30.3%	27.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学校での就業体験										
(N)	182	118	164	195	341	184	383	389	356	1184
全くなし	9.3%	5.9%	12.8%	1.0%	10.9%	15.8%	12.3%	8.5%	8.1%	9.5%
2	12.1%	5.1%	15.9%	8.2%	10.0%	15.8%	11.0%	11.8%	11.0%	11.2%
3	26.4%	24.6%	34.1%	23.6%	37.5%	22.3%	30.0%	27.5%	30.1%	29.4%
4	31.3%	45.8%	19.5%	34.9%	24.0%	24.5%	27.9%	29.0%	28.4%	28.5%
とても	20.9%	18.6%	17.7%	32.3%	17.6%	21.7%	18.8%	23.1%	22.5%	21.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学校の授業外の勉強										
(N)	179	116	166	193	350	184	379	389	361	1188
全くなし	14.0%	17.2%	14.5%	14.5%	19.4%	9.2%	19.8%	13.1%	12.2%	15.3%
2	24.0%	24.1%	20.5%	32.6%	22.3%	16.8%	23.7%	22.1%	23.5%	23.3%
3	33.0%	41.4%	39.8%	35.2%	37.4%	38.6%	37.7%	35.5%	37.7%	37.3%
4	15.6%	11.2%	16.9%	13.5%	14.3%	25.5%	12.4%	18.8%	18.6%	16.2%
とても	13.4%	6.0%	8.4%	4.1%	6.6%	9.8%	6.3%	10.5%	8.0%	7.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
サークル・クラブ活動										
(N)	179	113	164	189	341	183	371	387	354	1169
全くなし	63.1%	76.1%	77.4%	63.0%	70.4%	65.0%	69.0%	71.1%	66.9%	68.8%
2	7.3%	9.7%	9.1%	12.7%	10.3%	13.1%	10.8%	11.1%	8.8%	10.4%
3	16.8%	12.4%	8.5%	13.2%	10.9%	9.8%	11.6%	9.3%	13.8%	11.8%
4	6.7%	0.0%	1.8%	6.3%	5.3%	5.5%	5.1%	4.1%	5.1%	4.7%
とても	6.1%	1.8%	3.0%	4.8%	3.2%	6.6%	3.5%	4.4%	5.4%	4.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
友達との交際										
(N)	180	116	165	195	350	185	379	391	362	1191
全くなし	1.1%	2.6%	0.0%	1.5%	2.6%	2.2%	1.8%	2.6%	0.6%	1.8%
2	7.8%	11.2%	7.9%	5.1%	6.0%	5.4%	6.6%	6.9%	6.9%	6.8%
3	22.2%	34.5%	30.3%	22.1%	25.7%	20.5%	29.8%	23.0%	22.4%	25.3%
4	28.9%	26.7%	26.1%	32.8%	32.9%	39.5%	30.6%	34.0%	31.5%	31.7%
とても	40.0%	25.0%	35.8%	38.5%	32.9%	32.4%	31.1%	33.5%	38.7%	34.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
アルバイト・仕事										
(N)	181	118	167	195	350	186	382	393	363	1197
全くなし	16.6%	16.1%	16.8%	14.4%	18.6%	7.0%	16.8%	15.3%	15.2%	15.3%
2	7.2%	7.6%	13.8%	9.7%	10.9%	16.1%	9.7%	11.7%	11.0%	11.0%
3	27.6%	22.0%	31.1%	27.7%	26.0%	22.6%	28.3%	28.2%	21.5%	26.3%
4	26.5%	28.0%	25.7%	27.7%	25.1%	32.3%	27.5%	25.7%	28.7%	27.2%
とても	22.1%	26.3%	12.6%	20.5%	19.4%	22.0%	17.8%	19.1%	23.7%	20.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問２　在学中（授業期間中）、１週間をどのように過ごしていましたか。平均的な過ごし方を思い出して、それぞれの活動時間を教えてください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
授業への出席										
(N)	179	118	166	193	342	180	376	387	358	1173
0時間	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1-5時間	0.6%	2.5%	0.6%	0.5%	2.3%	0.6%	1.1%	0.3%	2.2%	1.3%
6-10時間	7.8%	10.2%	9.6%	8.3%	7.3%	3.9%	8.8%	7.0%	7.8%	7.6%
11-15時間	0.0%	1.7%	1.8%	2.1%	2.0%	0.6%	1.1%	1.8%	1.7%	1.4%
16-20時間	5.0%	5.1%	1.8%	5.7%	5.6%	7.2%	5.3%	5.7%	3.9%	5.2%
21-25時間	14.0%	12.7%	7.2%	18.1%	12.3%	20.6%	16.2%	13.4%	11.5%	14.1%
26-30時間	25.7%	29.7%	29.5%	25.9%	23.7%	27.8%	25.3%	27.6%	27.9%	26.4%
31時間以上	46.9%	38.1%	49.4%	39.4%	46.8%	39.4%	42.3%	44.2%	45.0%	44.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問２　続き

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
授業や課題の準備や復習										
(N)	179	118	165	193	341	184	379	388	358	1180
0時間	14.0%	8.5%	1.8%	13.0%	10.6%	2.2%	10.8%	9.8%	5.0%	8.7%
1-5時間	44.7%	47.5%	21.8%	49.7%	47.2%	51.6%	45.9%	42.5%	43.9%	44.4%
6-10時間	15.1%	26.3%	12.7%	19.7%	20.8%	20.7%	20.8%	17.8%	20.1%	19.2%
11-15時間	10.1%	9.3%	15.8%	8.3%	8.8%	12.5%	6.9%	13.7%	10.1%	10.5%
16-20時間	7.3%	5.1%	12.7%	3.1%	5.9%	3.8%	5.0%	6.7%	6.7%	6.2%
21-25時間	3.9%	0.0%	13.3%	2.6%	3.2%	6.0%	4.5%	4.4%	5.6%	4.7%
26-30時間	3.9%	1.7%	4.8%	1.6%	0.9%	1.6%	2.9%	1.8%	2.5%	2.2%
31時間以上	1.1%	1.7%	17.0%	2.1%	2.6%	1.6%	3.2%	3.4%	6.1%	4.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
サークル・クラブ活動										
(N)	181	118	164	188	342	184	376	390	359	1177
0時間	72.4%	87.3%	82.9%	71.3%	81.3%	71.2%	77.9%	76.2%	78.6%	77.6%
1-5時間	16.0%	7.6%	12.8%	17.0%	14.3%	15.2%	14.4%	13.6%	14.2%	14.3%
6-10時間	6.1%	3.4%	3.0%	4.8%	2.3%	9.8%	4.5%	5.4%	3.9%	4.7%
11-15時間	1.7%	0.8%	0.6%	3.7%	1.2%	0.5%	1.1%	1.8%	2.2%	1.4%
16-20時間	2.2%	0.8%	0.6%	1.1%	0.3%	2.7%	1.1%	1.8%	0.8%	1.2%
21-25時間	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.3%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.3%
26-30時間	1.1%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
31時間以上	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.5%	0.3%	0.5%	0.0%	0.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
アルバイト・仕事										
(N)	181	118	166	193	341	184	379	391	361	1183
0時間	20.4%	19.5%	18.1%	18.1%	23.8%	8.2%	19.5%	18.4%	19.4%	18.7%
1-5時間	12.2%	11.9%	15.7%	16.6%	13.5%	13.0%	15.8%	12.8%	13.0%	13.9%
6-10時間	9.9%	13.6%	19.3%	10.4%	14.7%	14.1%	11.9%	16.6%	12.5%	13.7%
11-15時間	11.6%	16.9%	16.9%	16.6%	17.6%	25.5%	16.1%	16.9%	18.3%	17.6%
16-20時間	21.5%	14.4%	18.7%	13.5%	14.1%	20.7%	17.9%	18.7%	15.2%	16.8%
21-25時間	7.2%	3.4%	6.0%	9.3%	6.5%	10.3%	7.1%	6.6%	7.2%	7.3%
26-30時間	8.3%	9.3%	3.0%	6.7%	5.6%	4.9%	5.0%	5.4%	7.8%	6.1%
31時間以上	8.8%	11.0%	2.4%	8.8%	4.4%	3.3%	6.6%	4.6%	6.6%	6.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問３　本学で受けた教育について伺います。以下のことがらについて、あなたの印象に最もよくあてはまるものをそれぞれ１つ選んでください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
業界や職種に直結するように教育目標が設定されたいた										
(N)	181	118	167	194	344	185	383	393	361	1189
思わない	4.4%	3.4%	6.6%	3.1%	4.4%	3.8%	5.2%	2.3%	5.5%	4.3%
2	12.2%	11.0%	9.6%	8.2%	13.1%	9.7%	11.2%	11.2%	9.4%	10.9%
3	26.5%	32.2%	27.5%	29.4%	32.6%	21.1%	27.9%	30.0%	26.3%	28.6%
4	24.3%	31.4%	28.7%	32.0%	28.8%	33.0%	29.2%	29.5%	32.1%	29.5%
思う	32.6%	22.0%	27.5%	27.3%	21.2%	32.4%	26.4%	27.0%	26.6%	26.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
卒業までに何をどこまで学べばよいかが明確にされていた										
(N)	182	118	166	194	344	185	383	393	360	1189
思わない	4.4%	5.1%	12.0%	5.2%	4.1%	11.4%	6.8%	6.1%	7.2%	6.6%
2	14.8%	16.9%	16.9%	12.9%	18.9%	18.4%	14.4%	18.1%	17.2%	16.7%
3	28.6%	38.1%	32.5%	34.5%	28.8%	36.8%	33.9%	32.8%	30.0%	32.4%
4	30.2%	23.7%	21.7%	31.4%	28.8%	20.0%	25.8%	28.0%	27.2%	26.6%
思う	22.0%	16.1%	16.9%	16.0%	19.5%	13.5%	19.1%	15.0%	18.3%	17.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
カリキュラム全体の中での授業間の関係や位置づけが明確だった										
(N)	180	117	166	193	344	185	382	391	360	1185
思わない	4.4%	5.1%	7.8%	5.2%	4.4%	6.5%	5.8%	4.6%	5.8%	5.4%
2	10.6%	12.8%	12.0%	18.1%	16.9%	18.9%	14.4%	16.9%	15.0%	15.4%
3	38.3%	41.0%	33.7%	42.5%	36.0%	33.5%	40.3%	35.8%	36.4%	37.2%
4	27.8%	24.8%	30.7%	22.8%	30.5%	28.6%	26.2%	28.9%	27.5%	28.0%
思う	18.9%	16.2%	15.7%	11.4%	12.2%	12.4%	13.4%	13.8%	15.3%	14.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問４　本学での教育振り返ってみて、以下の項目は、どの程度充実していましたか、またどの程度満足していましたか。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
専門的知識や技術を身につける授業										
(N)	182	118	167	196	343	186	383	393	362	1192
全く充実せず	0.5%	0.0%	0.6%	0.5%	0.9%	1.1%	0.3%	1.3%	0.3%	0.7%
2	3.8%	4.2%	3.0%	6.6%	2.9%	5.4%	3.9%	4.8%	4.1%	4.2%
3	20.9%	23.7%	17.4%	26.0%	25.7%	22.0%	22.7%	22.6%	22.1%	23.1%
4	46.7%	40.7%	35.9%	42.9%	37.9%	44.1%	42.6%	39.2%	41.7%	41.0%
とても充実	28.0%	31.4%	43.1%	24.0%	32.7%	27.4%	30.5%	32.1%	31.8%	31.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
実践で役立つ実学性重視の授業										
(N)	180	118	167	196	344	186	382	393	362	1191
全く充実せず	4.4%	0.8%	4.8%	2.0%	3.8%	1.6%	4.5%	2.0%	3.0%	3.1%
2	22.8%	4.2%	11.4%	10.2%	14.0%	9.7%	12.3%	13.5%	11.9%	12.7%
3	30.6%	36.4%	35.3%	34.7%	36.0%	25.8%	35.6%	32.3%	30.9%	33.3%
4	29.4%	38.1%	28.7%	36.2%	28.2%	36.6%	30.9%	33.1%	32.9%	32.1%
とても充実	12.8%	20.3%	19.8%	16.8%	18.0%	26.3%	16.8%	19.1%	21.3%	18.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
社会人・職業人としての教養を身につける授業										
(N)	180	118	167	195	344	186	381	393	362	1190
全く充実せず	6.7%	2.5%	9.6%	2.1%	1.2%	4.3%	3.9%	4.1%	3.6%	3.9%
2	23.3%	15.3%	18.0%	11.3%	6.4%	13.4%	15.7%	13.2%	10.8%	13.4%
3	41.7%	39.8%	41.9%	36.9%	25.0%	29.6%	38.1%	33.8%	31.8%	34.0%
4	21.1%	26.3%	19.8%	30.3%	39.2%	27.4%	27.8%	28.2%	29.8%	29.2%
とても充実	7.2%	16.1%	10.8%	19.5%	28.2%	25.3%	14.4%	20.6%	24.0%	19.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
授業方法に工夫がある授業										
(N)	181	117	167	194	344	186	382	391	362	1189
全く充実せず	1.7%	0.0%	3.6%	5.7%	2.3%	2.7%	2.6%	3.3%	2.2%	2.8%
2	10.5%	16.2%	13.8%	19.6%	12.2%	14.0%	16.0%	11.8%	12.4%	14.0%
3	37.6%	46.2%	38.3%	44.8%	43.9%	30.1%	42.9%	38.9%	41.2%	40.4%
4	35.4%	26.5%	30.5%	22.2%	29.7%	39.2%	28.5%	31.2%	32.3%	30.6%
とても充実	14.9%	11.1%	13.8%	7.7%	11.9%	14.0%	9.9%	14.8%	11.9%	12.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学生から質問する機会が多い授業										
(N)	181	118	165	194	344	186	380	392	362	1188
全く充実せず	2.8%	5.9%	4.8%	10.8%	4.9%	5.4%	6.8%	4.6%	4.7%	5.7%
2	12.2%	13.6%	16.4%	22.2%	13.7%	10.2%	15.8%	13.3%	15.5%	14.6%
3	35.4%	50.8%	32.7%	40.2%	40.1%	40.9%	43.4%	39.5%	34.8%	39.6%
4	34.3%	20.3%	22.4%	23.2%	24.4%	28.5%	23.2%	27.6%	27.3%	25.7%
とても充実	15.5%	9.3%	23.6%	3.6%	16.9%	15.1%	10.8%	15.1%	17.7%	14.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
実習やインターンシップの機会										
(N)	181	118	165	194	337	184	380	391	355	1179
全く充実せず	5.0%	2.5%	12.1%	1.5%	13.9%	8.2%	11.3%	7.9%	4.5%	8.2%
2	17.1%	8.5%	21.2%	6.2%	23.1%	25.0%	18.9%	16.4%	19.2%	18.0%
3	40.3%	39.8%	31.5%	27.3%	36.5%	27.7%	33.2%	33.2%	34.9%	33.8%
4	26.0%	36.4%	17.0%	31.4%	15.1%	22.3%	22.4%	22.3%	25.4%	23.0%
とても充実	11.6%	12.7%	18.2%	33.5%	11.3%	16.8%	14.2%	20.2%	16.1%	17.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職・進路指導の体制										
(N)	182	117	167	193	342	183	382	389	359	1184
全く充実せず	2.7%	4.3%	7.8%	2.6%	1.2%	6.0%	5.8%	3.9%	1.9%	3.6%
2	8.8%	12.0%	19.8%	11.4%	4.4%	14.8%	14.1%	8.5%	8.9%	10.7%
3	28.0%	33.3%	29.9%	30.1%	15.2%	26.8%	29.3%	28.3%	19.2%	25.3%
4	33.0%	29.1%	27.5%	29.5%	34.5%	22.4%	28.3%	28.5%	32.0%	30.1%
とても充実	27.5%	21.4%	15.0%	26.4%	44.7%	30.1%	22.5%	30.8%	37.9%	30.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
資格の取得に役立つ情報やテクニックの提供										
(N)	182	117	166	194	343	185	382	392	360	1187
全く充実せず	1.1%	0.9%	7.2%	2.1%	1.2%	3.8%	2.9%	2.8%	1.9%	2.5%
2	6.6%	14.5%	19.9%	14.9%	4.7%	16.8%	13.1%	11.0%	10.3%	11.6%
3	24.7%	47.0%	36.1%	35.1%	20.7%	23.8%	33.2%	27.8%	25.8%	28.9%
4	37.4%	20.5%	20.5%	28.4%	37.0%	27.6%	27.7%	29.6%	33.3%	30.2%
とても充実	30.2%	17.1%	16.3%	19.6%	36.4%	28.1%	23.0%	28.8%	28.6%	26.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問４　続き

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
進路や悩みなどを気軽に相談できる体制										
(N)	181	115	167	194	343	184	381	389	360	1184
全く充実せず	2.8%	5.2%	13.2%	7.7%	3.8%	7.6%	6.0%	7.7%	5.3%	6.3%
2	11.0%	12.2%	18.6%	17.0%	8.2%	16.8%	17.6%	10.8%	10.6%	13.3%
3	28.7%	27.8%	32.3%	34.0%	31.2%	25.0%	33.3%	28.5%	28.9%	30.2%
4	32.0%	24.3%	16.2%	24.2%	25.1%	28.8%	22.3%	28.5%	23.9%	25.3%
とても充実	25.4%	30.4%	19.8%	17.0%	31.8%	21.7%	20.7%	24.4%	31.4%	25.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
図書館、ＬＬ、ＰＣなどの学習環境										
(N)	181	117	167	192	341	186	380	391	360	1184
全く充実せず	17.1%	7.7%	4.2%	14.6%	6.7%	4.3%	10.8%	7.4%	7.8%	9.0%
2	19.9%	21.4%	9.6%	23.4%	15.8%	12.9%	20.5%	16.9%	13.1%	16.9%
3	30.4%	39.3%	20.4%	39.6%	39.0%	25.8%	38.2%	30.9%	29.4%	33.1%
4	19.9%	21.4%	22.2%	12.0%	22.3%	23.1%	16.1%	21.0%	23.6%	20.3%
とても充実	12.7%	10.3%	43.7%	10.4%	16.1%	33.9%	14.5%	23.8%	26.1%	20.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
授業以外で教員と接触する機会										
(N)	178	116	166	193	339	185	375	388	360	1177
全く充実せず	6.7%	2.6%	9.0%	7.8%	4.1%	9.7%	8.0%	5.9%	4.4%	6.5%
2	7.3%	6.9%	15.7%	15.0%	12.1%	17.8%	16.3%	11.9%	10.3%	12.7%
3	24.2%	33.6%	29.5%	36.3%	34.5%	26.5%	34.4%	30.4%	27.5%	31.2%
4	27.0%	25.0%	24.7%	24.4%	23.0%	26.5%	20.3%	26.8%	28.6%	24.8%
とても充実	34.8%	31.9%	21.1%	16.6%	26.3%	19.5%	21.1%	25.0%	29.2%	24.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学生同士の交流の機会										
(N)	179	117	165	194	341	185	379	388	360	1181
全く充実せず	1.1%	3.4%	1.8%	5.7%	2.3%	3.2%	4.0%	2.1%	1.7%	2.9%
2	8.4%	7.7%	9.1%	7.7%	7.0%	9.2%	8.4%	6.7%	8.3%	8.0%
3	22.3%	35.9%	31.5%	31.4%	31.4%	30.8%	32.7%	27.6%	31.4%	30.4%
4	30.2%	20.5%	23.6%	23.7%	27.0%	29.7%	26.1%	29.9%	23.3%	26.2%
とても充実	38.0%	32.5%	33.9%	31.4%	32.3%	27.0%	28.8%	33.8%	35.3%	32.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
専門的知識や技術を身につける授業										
(N)	178	117	166	196	337	185	376	392	358	1179
全く満足せず	0.6%	1.7%	1.8%	1.5%	0.6%	1.6%	0.5%	1.5%	0.8%	1.2%
2	5.6%	5.1%	3.6%	10.7%	7.7%	5.9%	8.0%	6.9%	5.0%	6.8%
3	28.7%	29.1%	25.3%	29.6%	32.3%	29.2%	29.3%	28.8%	30.7%	29.5%
4	39.9%	35.9%	31.3%	39.8%	30.6%	38.9%	37.8%	34.4%	33.8%	35.5%
とても満足	25.3%	28.2%	38.0%	18.4%	28.8%	24.3%	24.5%	28.3%	29.6%	27.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
実践で役立つ実学性重視の授業										
(N)	177	117	165	196	338	185	375	392	358	1178
全く満足せず	5.6%	3.4%	4.8%	3.1%	4.4%	3.2%	4.5%	3.1%	4.7%	4.2%
2	20.9%	5.1%	15.2%	14.3%	14.2%	11.4%	13.1%	15.1%	14.0%	14.0%
3	32.8%	35.0%	38.8%	34.7%	36.4%	29.2%	36.8%	34.7%	31.0%	34.6%
4	27.7%	38.5%	21.8%	33.7%	30.2%	33.0%	30.9%	29.3%	31.6%	30.5%
とても満足	13.0%	17.9%	19.4%	14.3%	14.8%	23.2%	14.7%	17.9%	18.7%	16.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
社会人・職業人としての教養を身につける授業										
(N)	177	117	165	195	339	184	375	392	356	1177
全く満足せず	9.6%	4.3%	8.5%	4.1%	2.1%	4.9%	6.4%	4.3%	3.9%	5.1%
2	19.2%	12.0%	18.2%	11.8%	9.7%	11.4%	13.1%	14.0%	12.6%	13.2%
3	41.2%	45.3%	44.2%	39.0%	27.4%	31.5%	40.8%	35.2%	32.3%	36.2%
4	21.5%	21.4%	18.8%	24.6%	33.9%	27.2%	24.8%	24.5%	29.2%	26.1%
とても満足	8.5%	17.1%	10.3%	20.5%	26.8%	25.0%	14.9%	21.9%	21.9%	19.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
授業方法に工夫がある授業										
(N)	178	116	165	194	339	183	375	390	356	1175
全く満足せず	0.6%	3.4%	3.6%	7.7%	3.5%	3.3%	3.7%	4.6%	2.5%	3.7%
2	13.5%	12.9%	14.5%	18.0%	13.6%	13.7%	15.7%	13.1%	12.1%	14.4%
3	38.2%	47.4%	44.2%	45.9%	43.1%	39.3%	44.5%	39.0%	47.2%	42.8%
4	32.0%	21.6%	22.4%	19.1%	24.2%	31.7%	23.5%	26.2%	25.8%	25.2%
とても満足	15.7%	14.7%	15.2%	9.3%	15.6%	12.0%	12.5%	17.2%	12.4%	13.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問４　続き

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
学生から質問する機会が多い授業										
(N)	178	117	163	194	338	185	372	391	357	1175
全く満足せず	1.7%	6.0%	5.5%	8.2%	3.3%	4.3%	4.8%	3.8%	4.5%	4.6%
2	13.5%	8.5%	11.7%	22.7%	15.1%	9.7%	15.3%	13.6%	13.2%	14.1%
3	39.9%	54.7%	39.3%	42.8%	42.6%	44.9%	45.4%	43.5%	41.5%	43.3%
4	27.5%	18.8%	19.0%	20.1%	20.7%	24.9%	20.7%	21.7%	23.0%	21.9%
とても満足	17.4%	12.0%	24.5%	6.2%	18.3%	16.2%	13.7%	17.4%	17.9%	16.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
実習やインターンシップの機会										
(N)	177	117	164	194	332	183	373	388	352	1167
全く満足せず	8.5%	4.3%	13.4%	2.6%	12.3%	9.8%	12.3%	8.5%	5.1%	9.1%
2	14.7%	6.8%	17.1%	7.2%	20.5%	19.7%	14.5%	15.5%	16.5%	15.4%
3	39.0%	46.2%	34.1%	34.5%	41.6%	34.4%	39.1%	36.9%	38.9%	38.3%
4	26.0%	29.1%	19.5%	27.8%	13.3%	19.7%	20.1%	19.6%	24.1%	21.1%
とても満足	11.9%	13.7%	15.9%	27.8%	12.3%	16.4%	13.9%	19.6%	15.3%	16.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職・進路指導の体制										
(N)	180	116	167	192	338	182	378	387	357	1175
全く満足せず	4.4%	6.9%	15.0%	3.6%	2.1%	8.8%	7.4%	7.8%	3.9%	6.0%
2	10.6%	16.4%	18.6%	15.6%	6.5%	15.9%	16.7%	10.1%	11.8%	12.8%
3	27.8%	28.4%	34.1%	31.8%	22.5%	31.3%	27.2%	33.1%	24.4%	28.4%
4	31.1%	25.9%	17.4%	24.0%	27.2%	14.3%	25.1%	21.2%	24.9%	23.7%
とても満足	26.1%	22.4%	15.0%	25.0%	41.7%	29.7%	23.5%	27.9%	35.0%	29.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
資格の取得に役立つ情報やテクニックの提供										
(N)	180	116	165	193	339	184	378	389	358	1177
全く満足せず	1.1%	3.4%	13.3%	4.1%	1.5%	7.6%	5.3%	5.9%	2.8%	4.7%
2	8.3%	15.5%	13.3%	14.5%	5.6%	12.0%	12.2%	7.7%	11.7%	10.5%
3	27.2%	46.6%	42.4%	38.3%	27.7%	31.5%	35.7%	35.0%	30.7%	33.9%
4	34.4%	19.0%	16.4%	21.8%	31.3%	25.0%	24.9%	25.2%	27.4%	25.9%
とても満足	28.9%	15.5%	14.5%	21.2%	33.9%	23.9%	22.0%	26.2%	27.4%	25.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進路や悩みなどを気軽に相談できる体制										
(N)	179	116	167	193	339	184	379	388	358	1178
全く満足せず	2.8%	5.2%	16.8%	9.3%	4.4%	12.0%	7.7%	10.3%	5.9%	8.0%
2	10.6%	14.7%	16.2%	14.5%	9.7%	12.5%	15.8%	10.8%	10.9%	12.5%
3	32.4%	31.0%	34.1%	41.5%	32.7%	32.1%	34.6%	34.0%	33.5%	34.0%
4	27.9%	19.0%	13.2%	15.5%	22.4%	21.2%	20.1%	21.4%	18.4%	20.3%
とても満足	26.3%	30.2%	19.8%	19.2%	30.7%	22.3%	21.9%	23.5%	31.3%	25.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
図書館、ＬＬ、ＰＣなどの学習環境										
(N)	179	116	166	191	336	185	374	388	358	1173
全く満足せず	16.8%	10.3%	5.4%	16.2%	8.3%	4.3%	11.2%	9.0%	8.4%	10.1%
2	15.6%	19.0%	11.4%	24.6%	15.8%	12.4%	21.9%	14.2%	13.4%	16.4%
3	36.9%	41.4%	20.5%	37.7%	40.2%	31.4%	36.6%	36.3%	32.4%	35.2%
4	17.3%	18.1%	21.7%	9.9%	20.2%	23.2%	15.8%	19.1%	20.7%	18.6%
とても満足	13.4%	11.2%	41.0%	11.5%	15.5%	28.6%	14.4%	21.4%	25.1%	19.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
授業以外で教員と接触する機会										
(N)	174	113	166	192	333	184	367	386	357	1162
全く満足せず	4.6%	5.3%	6.0%	8.9%	2.7%	7.6%	6.3%	5.2%	4.5%	5.5%
2	5.7%	7.1%	10.8%	14.6%	9.9%	13.0%	13.1%	8.3%	9.2%	10.4%
3	24.7%	28.3%	37.3%	37.5%	36.6%	34.2%	36.8%	35.2%	29.4%	33.9%
4	28.7%	20.4%	22.9%	21.4%	20.1%	23.9%	19.3%	24.6%	24.4%	22.6%
とても満足	36.2%	38.9%	22.9%	17.7%	30.6%	21.2%	24.5%	26.7%	32.5%	27.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学生同士の交流の機会										
(N)	174	115	165	193	336	184	372	386	357	1167
全く満足せず	1.1%	7.0%	3.0%	4.1%	3.0%	3.3%	4.3%	2.8%	2.5%	3.3%
2	5.7%	7.0%	8.5%	6.7%	6.3%	8.7%	8.1%	4.4%	8.4%	7.0%
3	21.3%	33.0%	32.1%	33.2%	31.8%	33.7%	32.0%	29.8%	30.8%	30.9%
4	27.6%	15.7%	23.0%	21.8%	24.4%	26.1%	23.1%	26.7%	20.7%	23.7%
とても満足	44.3%	37.4%	33.3%	34.2%	34.5%	28.3%	32.5%	36.3%	37.5%	35.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問５　在学中および卒業後に、以下に示すような資格を取得しましたか。あてはまるものを選んでください（○はいくつでも）。

A.在学中に取得した資格

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
本学を卒業すれば取得できる資格										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
取得してない	48.9%	7.6%	58.1%	8.2%	59.8%	48.9%	40.9%	46.4%	43.3%	42.6%
取得した	51.1%	92.4%	41.9%	91.8%	40.2%	51.1%	59.1%	53.6%	56.7%	57.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
上記以外で卒業した学科やコースの目指す職業につながる資格										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
取得してない	37.4%	92.4%	48.5%	65.8%	33.2%	40.3%	49.5%	47.2%	45.5%	48.3%
取得した	62.6%	7.6%	51.5%	34.2%	66.8%	59.7%	50.5%	52.8%	54.5%	51.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
B.卒業後に取得した資格										
本学を卒業すれば、受験資格が得られる資格										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
取得してない	48.9%	7.6%	58.1%	8.2%	59.8%	48.9%	40.9%	46.4%	43.3%	42.6%
取得した	51.1%	92.4%	41.9%	91.8%	40.2%	51.1%	59.1%	53.6%	56.7%	57.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
本学を卒業した後、実務経験を経て取得できる資格										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
取得してない	86.3%	95.8%	98.2%	88.8%	97.7%	95.2%	93.2%	95.2%	94.2%	94.0%
取得した	13.7%	4.2%	1.8%	11.2%	2.3%	4.8%	6.8%	4.8%	5.8%	6.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
本学を卒業した後、実務経験を経て受験資格が得られる資格										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
取得してない	87.4%	87.3%	98.8%	83.2%	99.4%	97.3%	91.7%	94.7%	95.3%	93.3%
取得した	12.6%	12.7%	1.2%	16.8%	0.6%	2.7%	8.3%	5.3%	4.7%	6.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
その他で、現在の仕事に直結する資格										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
取得してない	70.9%	93.2%	91.6%	88.3%	80.9%	74.7%	79.4%	81.2%	87.1%	82.3%
取得した	29.1%	6.8%	8.4%	11.7%	19.1%	25.3%	20.6%	18.8%	12.9%	17.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
その他で、現在の仕事とは関係ない資格										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
取得してない	82.4%	93.2%	85.6%	93.9%	84.4%	76.3%	80.5%	87.1%	90.1%	85.4%
取得した	17.6%	6.8%	14.4%	6.1%	15.6%	23.7%	19.5%	12.9%	9.9%	14.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問６　在学中の生活をふりかえって、以下のことはあなたにどのくらいあてはまっていましたか。それぞれ１つ選んでください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
学校に通うのが楽しかった										
(N)	182	118	166	195	346	185	384	393	361	1192
全く該当せず	1.6%	3.4%	0.6%	3.1%	2.9%	2.7%	2.1%	2.3%	1.9%	2.4%
2	12.1%	10.2%	8.4%	9.7%	8.7%	8.1%	9.6%	7.9%	8.9%	9.4%
3	17.0%	39.8%	19.9%	32.8%	29.2%	22.2%	25.0%	28.0%	24.4%	26.6%
4	37.9%	22.9%	39.2%	29.7%	36.7%	33.5%	34.9%	31.8%	38.8%	34.2%
とても該当	31.3%	23.7%	31.9%	24.6%	22.5%	33.5%	28.4%	30.0%	26.0%	27.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
授業にはついていけた										
(N)	182	117	167	194	346	184	383	391	362	1190
全く該当せず	0.5%	6.0%	1.2%	1.0%	0.9%	0.5%	1.0%	1.5%	1.4%	1.3%
2	9.3%	6.0%	9.6%	9.8%	8.1%	6.0%	5.5%	9.2%	8.3%	8.2%
3	23.6%	29.9%	22.8%	36.1%	32.7%	19.6%	30.5%	24.0%	29.3%	28.2%
4	37.9%	35.0%	38.3%	31.4%	40.5%	44.0%	36.6%	39.4%	39.2%	38.3%
とても該当	28.6%	23.1%	28.1%	21.6%	17.9%	29.9%	26.4%	25.8%	21.8%	23.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
将来の目標に向かって勉強することができた										
(N)	181	118	167	195	346	185	382	393	362	1192
全く該当せず	1.1%	5.9%	3.0%	2.6%	2.3%	3.2%	3.4%	2.0%	2.8%	2.8%
2	7.7%	11.0%	15.6%	8.7%	9.8%	10.8%	7.9%	13.5%	8.6%	10.4%
3	31.5%	28.0%	25.1%	32.8%	37.9%	23.2%	32.2%	27.5%	32.6%	31.0%
4	33.1%	30.5%	27.5%	33.3%	31.5%	34.1%	32.2%	32.1%	33.1%	31.8%
とても該当	26.5%	24.6%	28.7%	22.6%	18.5%	28.6%	24.3%	24.9%	22.9%	24.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問６　続き

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
成績はよい方だった										
(N)	180	118	167	194	346	184	381	393	361	1189
全く該当せず	10.0%	11.9%	4.2%	7.2%	5.8%	6.0%	5.2%	7.6%	6.9%	7.1%
2	13.9%	13.6%	21.0%	15.5%	14.7%	11.4%	14.2%	15.3%	15.5%	15.0%
3	33.3%	33.9%	35.9%	38.7%	41.6%	33.2%	41.7%	35.6%	32.7%	37.0%
4	28.9%	22.9%	26.3%	25.8%	26.9%	34.2%	26.8%	27.2%	29.9%	27.7%
とても該当	13.9%	17.8%	12.6%	12.9%	11.0%	15.2%	12.1%	14.2%	15.0%	13.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
長くつきあえる友達が見つかった										
(N)	182	118	167	194	346	186	384	394	361	1193
全く該当せず	4.9%	10.2%	4.2%	3.1%	7.5%	7.5%	8.9%	5.3%	3.6%	6.2%
2	9.3%	11.9%	9.6%	7.7%	8.1%	9.7%	10.4%	8.6%	8.0%	9.1%
3	16.5%	18.6%	16.2%	18.6%	18.2%	13.4%	18.0%	16.2%	17.2%	17.0%
4	25.8%	19.5%	16.2%	19.6%	24.9%	24.7%	21.1%	23.4%	21.6%	22.4%
とても該当	43.4%	39.8%	53.9%	51.0%	41.3%	44.6%	41.7%	46.4%	49.6%	45.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
授業料や生活費をまかなうことが困難だった										
(N)	181	118	166	195	346	183	382	391	362	1189
全く該当せず	26.0%	33.9%	24.7%	33.3%	33.8%	31.7%	34.3%	30.7%	27.9%	31.0%
2	23.8%	17.8%	16.3%	13.3%	15.9%	19.7%	16.5%	21.0%	16.3%	17.5%
3	31.5%	29.7%	31.3%	30.3%	32.4%	26.2%	34.0%	28.1%	28.2%	30.5%
4	11.6%	11.0%	14.5%	12.3%	11.3%	12.6%	8.1%	12.3%	15.7%	12.1%
とても該当	7.2%	7.6%	13.3%	10.8%	6.6%	9.8%	7.1%	7.9%	11.9%	8.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問７　本学卒業直後の進路について、次の中から１つ選んで○をつけてください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	179	117	164	195	344	185	378	390	360	1184
正規職員	86.6%	62.4%	59.8%	89.2%	89.5%	48.6%	74.6%	71.8%	79.2%	75.8%
自営・家業	1.7%	1.7%	4.9%	0.0%	0.0%	0.5%	1.1%	1.5%	1.1%	1.2%
契約・派遣	5.0%	14.5%	11.6%	2.1%	8.7%	22.2%	12.7%	11.3%	8.6%	10.1%
大学・大学院	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	7.6%	0.8%	0.8%	2.2%	1.4%
短大・専門	1.1%	4.3%	1.2%	0.5%	0.3%	2.7%	1.9%	1.3%	1.1%	1.4%
パート・臨時	3.4%	13.7%	12.2%	4.6%	0.9%	13.5%	6.6%	8.7%	4.4%	6.7%
職業訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
求職を継続	1.1%	1.7%	3.0%	1.5%	0.3%	1.1%	0.8%	1.3%	1.7%	1.3%
家事・子育て	0.0%	0.9%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.5%	0.0%	0.3%
その他	0.6%	0.9%	5.5%	2.1%	0.3%	3.8%	1.3%	2.8%	1.7%	1.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問８　問７で１、２、３、の何れかを選び、卒業直後に就職した方に伺います。最初の仕事の内容、事業所の従業員数、年収と労働時間はどのようなものでしたか。

A.最初の仕事の内容

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	167	92	131	183	326	137	337	333	319	1036
経理・会計	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	16.6%	0.0%	3.9%	4.8%	3.9%	5.3%
OAオペレータ	1.2%	0.0%	0.8%	0.0%	0.6%	1.5%	1.5%	0.6%	0.0%	0.7%
秘書	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	1.2%	0.3%	0.3%	0.5%
一般事務	0.0%	0.0%	1.5%	1.1%	18.4%	19.7%	6.8%	9.6%	9.1%	8.8%
営業事務	0.0%	2.2%	1.5%	0.0%	4.9%	7.3%	2.7%	2.4%	3.8%	2.9%
営業・販売	3.6%	2.2%	35.1%	0.0%	13.8%	6.6%	8.9%	9.0%	11.6%	10.4%
情報	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	16.3%	0.7%	5.3%	4.8%	6.0%	5.3%
建築・土木	13.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	2.1%	3.1%	2.3%
機械	7.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.8%	1.5%	0.6%	1.4%
電気・電子	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.0%	0.3%	0.3%
自動車・航空	61.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	11.9%	9.9%	7.2%	10.0%
ファッション	0.0%	0.0%	29.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	3.6%	4.7%	3.8%
その他技術	3.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.6%	0.0%	1.5%	0.0%	0.6%	0.8%
研究・企画	0.6%	3.3%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	1.8%	0.3%	1.3%
出版・マスコミ	1.2%	0.0%	3.8%	0.0%	0.3%	0.0%	1.2%	0.6%	0.6%	0.8%
デザイナー	0.0%	0.0%	13.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	2.1%	1.9%	1.7%
映像・音楽	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.1%

問８　A.最初の仕事の内容(続き)

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
旅行・観光	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	8.0%	17.5%	4.2%	8.7%	3.4%	5.1%
経営・管理	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
理容・美容	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
栄養・調理	0.0%	84.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	8.1%	6.9%	7.6%
医療技術	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	11.7%	2.4%	2.4%	2.1%	2.0%
福祉	0.0%	1.1%	0.0%	97.8%	0.6%	0.7%	16.9%	15.9%	18.5%	17.7%
教員・保育	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.9%	0.0%	0.0%	0.4%
トレーナー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	18.2%	2.4%	1.8%	4.1%	2.6%
その他	7.2%	3.3%	5.3%	1.1%	15.0%	14.6%	9.5%	9.9%	7.8%	9.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B.最初の仕事の従業員規模

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	171	93	133	182	331	134	342	340	319	1044
29人以下	28.1%	36.6%	37.6%	16.5%	13.3%	23.1%	19.9%	23.5%	25.4%	22.7%
30-99人	14.0%	20.4%	23.3%	47.8%	12.4%	13.4%	21.9%	20.3%	21.0%	21.1%
100-299人	15.8%	21.5%	16.5%	25.3%	20.8%	19.4%	22.8%	19.4%	16.9%	20.1%
300-999人	20.5%	9.7%	11.3%	6.6%	24.8%	23.9%	16.4%	19.1%	18.2%	17.7%
1,000人以上	21.6%	11.8%	11.3%	3.8%	28.7%	20.1%	19.0%	17.6%	18.5%	18.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C.最初の仕事の年収（万円）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	163	92	124	151	290	128	315	317	278	948
~199	6.7%	25.0%	27.4%	14.6%	13.4%	22.7%	12.1%	15.5%	23.4%	16.7%
200~299	47.2%	56.5%	58.1%	60.3%	56.9%	62.5%	51.7%	58.0%	61.5%	56.6%
300~399	42.9%	16.3%	11.3%	23.2%	25.2%	10.9%	30.8%	23.3%	14.4%	23.3%
400~	3.1%	2.2%	3.2%	2.0%	4.5%	3.9%	5.4%	3.2%	0.7%	3.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C.最初の仕事の週平均労働時間

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	165	91	128	164	319	134	323	328	307	1001
~39	6.7%	16.5%	22.7%	14.6%	21.9%	21.6%	13.3%	18.9%	19.9%	17.8%
40~49	35.8%	38.5%	38.3%	67.1%	47.0%	45.5%	48.3%	43.3%	47.2%	46.4%
50~59	29.7%	17.6%	12.5%	11.6%	22.6%	18.7%	20.4%	19.8%	19.5%	19.7%
60~	27.9%	27.5%	26.6%	6.7%	8.5%	14.2%	18.0%	18.0%	13.4%	16.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問９　問７で４、５、のいずれかを選び、卒業直後に進学した方に伺います。進学の時期、進学先と専攻、修了の状況について、それぞれあてはまるものを選んでください。

A.期間

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
開始時期（西暦）										
(N)	5	6	4	5	3	17	14	9	17	40
1997	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	5.0%
1998	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	7.1%	0.0%	5.9%	5.0%
2000	40.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	23.5%	50.0%	0.0%	0.0%	17.5%
2001	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	14.3%	0.0%	0.0%	5.0%
2002	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	7.1%	0.0%	0.0%	2.5%
2003	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	7.1%	11.1%	0.0%	5.0%
2004	20.0%	0.0%	75.0%	40.0%	0.0%	11.8%	0.0%	66.7%	11.8%	20.0%
2005	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	2.5%
2006	40.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	52.9%	0.0%	22.2%	64.7%	32.5%
2007	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	5.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問９　A.期間（続き）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
修了時期（西暦）										
(N)	5	6	4	5	3	16	14	8	17	39
1999	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	2.6%
2000	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	33.3%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%	7.7%
2001	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%	5.1%
2002	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	7.1%	0.0%	0.0%	2.6%
2003	0.0%	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%	6.3%	14.3%	0.0%	0.0%	7.7%
2004	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	33.3%	12.5%	14.3%	25.0%	0.0%	10.3%
2005	0.0%	16.7%	25.0%	20.0%	0.0%	6.3%	14.3%	25.0%	0.0%	10.3%
2006	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	5.1%
2007	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	6.3%	0.0%	12.5%	5.9%	5.1%
2008	40.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	43.8%	7.1%	25.0%	58.8%	33.3%
2009	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%	0.0%	12.5%	11.8%	7.7%
2010	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	2.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B.学校区分

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	6	6	5	5	6	19	16	12	18	47
専門・各種	83.3%	83.3%	80.0%	100.0%	100.0%	31.6%	68.8%	75.0%	55.6%	66.0%
短大	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	2.1%
大学	16.7%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	68.4%	18.8%	25.0%	44.4%	31.9%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C.学部・学科等

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	6	6	4	4	6	19	15	12	18	45
同じ領域	66.7%	16.7%	50.0%	50.0%	16.7%	21.1%	33.3%	25.0%	33.3%	31.1%
関連する領域	33.3%	50.0%	0.0%	25.0%	66.7%	36.8%	46.7%	33.3%	38.9%	37.8%
異なる領域	0.0%	33.3%	50.0%	25.0%	16.7%	42.1%	20.0%	41.7%	27.8%	31.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D.卒業・修了等

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	6	6	4	4	7	18	14	12	18	45
卒業	66.7%	50.0%	75.0%	100.0%	85.7%	44.4%	100.0%	66.7%	27.8%	62.2%
在学中	33.3%	50.0%	25.0%	0.0%	14.3%	55.6%	0.0%	33.3%	72.2%	37.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10　卒業後の最初の職場について、あてはまっていたものを選んでください（○はいくつでも）。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
自分の将来の目標となるような、専門学校を卒業して役職に就いている人が働いていた										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	63.2%	77.1%	76.0%	54.1%	83.2%	78.5%	69.3%	77.2%	73.3%	73.1%
該当する	36.8%	22.9%	24.0%	45.9%	16.8%	21.5%	30.7%	22.8%	26.7%	26.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
仕事のやり方や必要な知識・技能について、先輩が教えてくれたり訓練・研修を通して学ぶ機会があった										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	31.9%	50.8%	43.1%	38.3%	39.9%	32.3%	37.2%	39.3%	37.7%	38.7%
該当する	68.1%	49.2%	56.9%	61.7%	60.1%	67.7%	62.8%	60.7%	62.3%	61.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職場の中に、仕事のことについて相談できる友人や知人がいた										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	59.3%	62.7%	53.9%	40.8%	49.4%	47.3%	41.7%	55.1%	56.7%	51.1%
該当する	40.7%	37.3%	46.1%	59.2%	50.6%	52.7%	58.3%	44.9%	43.3%	48.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職場の外に、仕事のことについて相談できる友人や知人がいた										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	61.5%	61.9%	43.7%	50.0%	57.2%	55.4%	55.7%	54.8%	53.7%	55.0%
該当する	38.5%	38.1%	56.3%	50.0%	42.8%	44.6%	44.3%	45.2%	46.3%	45.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問11　卒業後の最初の仕事では、専門学校在学中に取得した資格はどのくらい役立っていましたか。在学中に獲得した知識・技能をどの程度使っていましたか。また、最初の仕事にもっともふさわしい専門分野（学科）はどのようなものでしたか。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
在学中に取得した資格										
(N)	175	109	140	193	337	175	368	373	336	1129
全く役立たない	18.9%	12.8%	33.6%	14.5%	14.5%	24.0%	21.2%	17.7%	17.9%	18.9%
2	16.0%	14.7%	17.9%	15.5%	21.4%	19.4%	16.0%	19.0%	17.9%	18.2%
3	18.9%	31.2%	26.4%	29.0%	29.1%	26.9%	25.0%	29.5%	26.5%	27.0%
4	18.9%	10.1%	12.9%	15.5%	23.4%	16.0%	16.8%	17.2%	20.5%	17.6%
とても役立つ	27.4%	31.2%	9.3%	25.4%	11.6%	13.7%	20.9%	16.6%	17.3%	18.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
在学中に獲得した知識・技能										
(N)	176	112	154	193	337	176	374	382	341	1148
全く使わない	5.7%	8.0%	11.7%	4.1%	7.4%	11.9%	10.2%	7.3%	5.3%	7.9%
2	19.9%	19.6%	9.7%	8.3%	15.4%	11.4%	13.9%	14.1%	13.8%	13.9%
3	19.3%	25.0%	20.8%	30.6%	31.5%	25.0%	27.8%	24.1%	27.3%	26.4%
4	29.0%	24.1%	27.9%	30.1%	30.6%	27.8%	23.5%	30.4%	32.8%	28.8%
とても使う	26.1%	23.2%	29.9%	26.9%	15.1%	23.9%	24.6%	24.1%	20.8%	22.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
もっともふさわしい専門分野（学科）										
(N)	175	110	154	189	337	172	372	381	335	1137
学科関係なし	6.9%	16.4%	19.5%	5.8%	22.3%	25.6%	15.9%	15.2%	18.5%	16.7%
全く異なる学科	6.9%	5.5%	3.2%	4.2%	12.8%	11.6%	8.3%	8.9%	8.1%	8.3%
近い分野	40.0%	30.0%	46.1%	33.9%	35.6%	40.7%	36.6%	37.3%	40.0%	37.6%
自分の学科	46.3%	48.2%	31.2%	56.1%	29.4%	22.1%	39.2%	38.6%	33.4%	37.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問12　あなたの現在の状況について、次の中から１つ選んで○をつけてください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	180	114	163	196	343	183	379	389	356	1179
正規職員	81.7%	52.6%	50.9%	76.0%	77.3%	46.4%	56.2%	67.6%	74.7%	66.9%
自営・家業	8.3%	6.1%	4.9%	0.5%	0.9%	0.0%	5.5%	2.1%	1.1%	2.9%
契約・派遣	6.1%	7.9%	14.7%	3.6%	6.4%	24.0%	9.8%	11.8%	9.6%	9.9%
大学・大学院	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.3%	5.5%	0.0%	1.0%	2.0%	1.0%
短大・専門	1.7%	1.8%	1.8%	1.0%	0.3%	3.8%	1.3%	1.5%	2.0%	1.5%
パート・臨時	0.6%	14.0%	12.9%	5.6%	4.1%	8.2%	6.6%	8.0%	6.2%	6.6%
職業訓練	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.3%	0.5%	0.5%	0.3%	0.0%	0.3%
求職を継続	1.1%	1.8%	1.8%	2.0%	2.0%	2.2%	2.9%	1.5%	1.4%	1.9%
家事・子育て	0.6%	13.2%	5.5%	7.7%	6.7%	4.4%	14.0%	3.1%	1.1%	6.0%
その他	0.0%	1.8%	6.7%	3.6%	1.7%	4.9%	3.2%	3.1%	2.0%	3.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問13　あなたの現在の仕の内容、事業所の従業員数、年収と労働時間について伺います。現在仕事をしていない場合は、「いちばん最後に就いていた仕事」についてお答えください。また、本学を卒業後、これまでいくつの企業・施設（自営を含む）で働きましたか。

A. 現在の仕事の内容

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	168	101	142	163	313	144	328	347	311	1031
初職と同じ	75.6%	71.3%	64.1%	89.6%	81.8%	62.5%	61.0%	76.9%	88.4%	75.8%
初職と異なる	24.4%	28.7%	35.9%	10.4%	18.2%	37.5%	39.0%	23.1%	11.6%	24.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
現在の仕事の内容と異なる場合										
(N)	33	22	48	13	53	61	114	80	36	230
経理・会計	0.0%	9.1%	2.1%	7.7%	17.0%	0.0%	7.9%	3.8%	2.8%	5.7%
OAオペレータ	3.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	2.8%	0.9%
秘書	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	1.3%	2.8%	0.9%
一般事務	3.0%	18.2%	12.5%	7.7%	15.1%	8.2%	10.5%	13.8%	8.3%	10.9%
営業事務	9.1%	4.5%	6.3%	7.7%	3.8%	6.6%	9.6%	3.8%	2.8%	6.1%
営業・販売	12.1%	13.6%	14.6%	0.0%	5.7%	9.8%	11.4%	12.5%	0.0%	10.0%
情報	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.9%	1.3%	0.0%	1.3%
建築・土木	12.1%	4.5%	6.3%	0.0%	1.9%	1.6%	5.3%	1.3%	5.6%	4.3%
機械	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	1.8%	1.3%	2.8%	2.2%
電気・電子	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	1.9%	1.6%	0.9%	2.5%	2.8%	1.7%
自動車・航空	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	1.3%
ファッション	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	2.8%	1.3%

問13　A.現在の仕事の内容（続き）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
その他技術	6.1%	0.0%	2.1%	0.0%	5.7%	3.3%	5.3%	2.5%	0.0%	3.5%
研究・企画	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	2.8%	1.3%
出版・マスコミ	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	1.9%	3.3%	2.6%	0.0%	5.6%	2.2%
デザイナー	3.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	3.8%	8.3%	3.0%
映像・音楽	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
旅行・観光	3.0%	0.0%	0.0%	7.7%	1.9%	0.0%	0.9%	2.5%	0.0%	1.3%
経営・管理	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.9%
理容・美容	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
栄養・調理	3.0%	22.7%	2.1%	15.4%	1.9%	3.3%	5.3%	6.3%	5.6%	5.2%
医療技術	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.2%	0.0%	3.8%	8.3%	2.2%
福祉	3.0%	0.0%	0.0%	38.5%	3.8%	3.3%	3.5%	5.0%	5.6%	4.3%
教育・保育	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	5.7%	3.3%	3.5%	2.5%	0.0%	2.6%
トレーナー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	19.7%	1.8%	7.5%	13.9%	5.7%
その他	15.2%	22.7%	18.8%	7.7%	28.3%	23.0%	21.9%	21.3%	16.7%	21.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B.現在の仕事の従業員規模

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	165	97	143	159	302	153	330	349	293	1019
29人以下	32.7%	40.2%	35.7%	22.0%	17.2%	30.7%	27.0%	26.9%	27.0%	27.3%
30-99人	9.7%	24.7%	22.4%	40.3%	15.6%	17.6%	19.1%	20.6%	23.5%	20.6%
100-299人	15.8%	18.6%	12.6%	25.2%	16.9%	17.0%	19.1%	16.6%	16.4%	17.6%
300-999人	15.8%	6.2%	9.8%	6.9%	23.5%	15.0%	14.2%	15.5%	14.3%	14.8%
1,000人以上	26.1%	10.3%	19.6%	5.7%	26.8%	19.6%	20.6%	20.3%	18.8%	19.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C.現在の仕事の年収（万円）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	159	91	136	127	267	144	314	319	257	924
~199	3.8%	30.8%	22.1%	10.2%	13.5%	23.6%	11.5%	15.0%	22.2%	15.9%
200~299	28.3%	39.6%	43.4%	52.8%	48.7%	48.6%	29.6%	45.5%	60.3%	44.0%
300~399	39.0%	20.9%	24.3%	30.7%	26.6%	18.1%	30.9%	32.3%	16.7%	27.1%
400~	28.9%	8.8%	10.3%	6.3%	11.2%	9.7%	28.0%	7.2%	0.8%	13.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C.現在の仕事の週平均労働時間

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	162	94	140	135	286	150	317	335	276	967
~39	9.9%	30.9%	26.4%	21.5%	24.8%	30.7%	21.1%	26.0%	22.8%	23.6%
40~49	52.1%	19.3%	42.2%	28.0%	88.0%	5.8%	40.0%	46.4%	13.6%	41.5%
50~59	30.2%	16.0%	15.0%	12.6%	19.6%	20.0%	19.6%	18.8%	19.6%	19.4%
60~	29.6%	24.5%	17.9%	6.7%	9.4%	12.0%	17.0%	17.0%	12.0%	15.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D.これまでに経験した職場の数（現在の勤務先も１社と数えます）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	171	108	155	180	321	169	368	370	318	1104
0	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.3%	0.6%	0.0%	0.5%	0.3%	0.3%
1	56.7%	37.0%	48.4%	62.2%	70.4%	44.4%	33.7%	59.7%	78.6%	56.6%
2	28.1%	32.4%	25.2%	23.9%	18.7%	20.1%	31.5%	24.1%	14.2%	23.5%
3	9.4%	13.9%	14.2%	10.6%	6.5%	17.8%	18.8%	10.0%	4.1%	11.1%
4	5.3%	5.6%	5.8%	2.2%	1.9%	6.5%	7.1%	3.0%	1.9%	4.1%
5	0.0%	5.6%	4.5%	1.1%	0.9%	4.1%	4.9%	1.6%	0.0%	2.3%
6~	0.6%	5.6%	1.3%	0.0%	1.2%	6.5%	4.1%	1.1%	0.9%	2.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問14　本学卒業後、しばらく期間をおいて、改めて教育訓練を受けたことがある方のみお答えください（問９でお答えいただいた卒業直後の進学を除きます）。その際に進学の時期、進学先と専攻、修了の状況について教えてください（複数ある場合には主なものを１つ選んでお答えください）。

A.期間

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
開始時期（西暦）										
(N)	3	2	6	8	13	18	30	12	6	50
2000	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	2.0%
2001	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	6.7%	0.0%	0.0%	4.0%
2002	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	15.4%	5.6%	13.3%	0.0%	0.0%	8.0%
2003	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	15.4%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	10.0%
2004	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	23.1%	11.1%	23.3%	0.0%	0.0%	14.0%
2005	33.3%	0.0%	0.0%	25.0%	7.7%	11.1%	10.0%	8.3%	16.7%	12.0%
2006	0.0%	0.0%	33.3%	12.5%	0.0%	27.8%	10.0%	41.7%	0.0%	16.0%
2007	33.3%	0.0%	50.0%	37.5%	30.8%	33.3%	16.7%	50.0%	83.3%	34.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
修了時期（西暦）										
(N)	2	2	4	4	12	16	28	5	4	40
2003	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	16.7%	6.3%	14.3%	0.0%	0.0%	10.0%
2004	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	8.3%	6.3%	14.3%	0.0%	0.0%	10.0%
2005	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	18.8%	25.0%	0.0%	0.0%	20.0%
2006	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	6.3%	3.6%	20.0%	0.0%	5.0%
2007	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	12.5%	21.4%	20.0%	25.0%	20.0%
2008	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	18.8%	10.7%	40.0%	0.0%	12.5%
2009	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	12.5%	10.7%	0.0%	0.0%	10.0%
2010	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	75.0%	10.0%
2011	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	2.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B.学校区分

	専門分野						卒業年			合計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	3	2	5	8	15	19	30	13	7	52
専門・各種	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	46.7%	63.2%	60.0%	53.8%	85.7%	61.5%
短大	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	5.3%	0.0%	7.7%	0.0%	3.8%
大学	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	13.3%	5.3%	3.3%	15.4%	14.3%	7.7%
その他	0.0%	50.0%	0.0%	37.5%	33.3%	26.3%	36.7%	23.1%	0.0%	26.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

C.学部・学科等

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	3	2	7	7	15	18	28	15	6	52
同じ領域	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%	11.1%	17.9%	6.7%	16.7%	13.5%
関連する領域	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	20.0%	72.2%	25.0%	60.0%	66.7%	36.5%
異なる領域	66.7%	100.0%	85.7%	71.4%	53.3%	16.7%	57.1%	33.3%	16.7%	50.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

D.卒業・修了等

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	3	2	8	7	14	18	28	15	6	52
卒業	33.3%	50.0%	37.5%	57.1%	50.0%	27.8%	53.6%	26.7%	16.7%	40.4%
中退・退学	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	7.1%	0.0%	0.0%	3.8%
終了	0.0%	50.0%	0.0%	14.3%	21.4%	16.7%	17.9%	20.0%	0.0%	15.4%
在学中	33.3%	0.0%	62.5%	28.6%	28.6%	50.0%	21.4%	53.3%	83.3%	40.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問15　現在（あるいはいちばん最近）の職場について、あてはまるものを選んでください（○はいくつでも）。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
自分の将来の目標となるような、専門学校を卒業して役職に就いている人が働いていた										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	68.7%	80.5%	79.0%	58.7%	81.8%	78.0%	72.4%	77.7%	76.3%	74.9%
該当する	31.3%	19.5%	21.0%	41.3%	18.2%	22.0%	27.6%	22.3%	23.7%	25.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
仕事のやり方や必要な知識・技能について、先輩が教えてくれたり訓練・研修を通して学ぶ機会があった										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	37.4%	61.0%	46.1%	45.9%	45.1%	44.6%	47.9%	42.9%	44.6%	45.7%
該当する	62.6%	39.0%	53.9%	54.1%	54.9%	55.4%	52.1%	57.1%	55.4%	54.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職場の中に、仕事のことについて相談できる友人や知人がいた										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	53.3%	57.6%	47.3%	45.4%	49.4%	41.9%	43.5%	45.7%	55.6%	48.7%
該当する	46.7%	42.4%	52.7%	54.6%	50.6%	58.1%	56.5%	54.3%	44.4%	51.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職場の外に、仕事のことについて相談できる友人や知人がいた										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	52.2%	57.6%	44.9%	51.0%	57.2%	54.3%	50.8%	54.1%	54.0%	53.3%
該当する	47.8%	42.4%	55.1%	49.0%	42.8%	45.7%	49.2%	45.9%	46.0%	46.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問16　現在（あるいはいちばん最近）の仕事では、専門学校在学中に取得した資格はどのくらい役立っていますか。在学中に獲得した知識・技能をどの程度使っていますか。また、現在の仕事にもっともふさわしい専門分野（学科）はどのようなものですか。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
在学中に取得した資格										
(N)	169	101	133	172	310	163	338	357	304	1048
全く役立たない	18.9%	25.7%	39.8%	12.8%	15.2%	30.1%	29.3%	20.4%	16.8%	21.9%
2	14.8%	7.9%	17.3%	20.3%	21.9%	17.8%	15.7%	17.9%	18.1%	17.9%
3	23.1%	21.8%	21.8%	24.4%	28.1%	23.9%	21.3%	27.7%	25.0%	24.6%
4	18.3%	13.9%	9.0%	14.5%	21.3%	16.0%	14.2%	15.7%	21.4%	16.6%
とても役立つ	24.9%	30.7%	12.0%	27.9%	13.5%	12.3%	19.5%	18.2%	18.8%	19.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
在学中に獲得した知識・技能										
(N)	170	102	144	172	309	165	346	362	306	1062
全く使わない	9.4%	17.6%	18.8%	5.2%	11.7%	17.6%	19.9%	11.0%	7.2%	12.7%
200.0%	19.4%	15.7%	11.1%	11.6%	13.6%	13.3%	12.1%	13.0%	16.3%	14.0%
300.0%	18.8%	22.5%	21.5%	30.2%	33.3%	21.8%	26.3%	27.9%	24.5%	26.1%
400.0%	28.8%	20.6%	18.8%	24.4%	25.6%	22.4%	18.2%	23.8%	30.4%	24.0%
とても使う	23.5%	23.5%	29.9%	28.5%	15.9%	24.8%	23.4%	24.3%	21.6%	23.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
もっともふさわしい専門分野（学科）										
(N)	170	101	143	168	307	162	342	361	303	1051
学科関係なし	11.2%	28.7%	21.0%	6.0%	21.8%	31.5%	22.8%	18.6%	17.8%	19.6%
全く異なる学科	8.8%	7.9%	11.2%	8.3%	16.3%	14.8%	14.9%	10.5%	10.6%	12.1%
近い分野	34.1%	24.8%	36.4%	31.5%	31.6%	35.2%	26.9%	34.3%	37.6%	32.5%
自分の学科	45.9%	38.6%	31.5%	54.2%	30.3%	18.5%	35.4%	36.6%	34.0%	35.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問17　現在（あるいはいちばん最近）の仕事の環境（職務、地位、収入など）を考えた場合、学歴は必要と思いますか。必要と回答した方は、必要と思う学歴を具体的に記入してください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
必要性										
(N)	171	103	149	173	322	169	354	369	315	1087
必要ない	28.1%	41.7%	32.9%	32.9%	41.9%	40.2%	32.5%	37.7%	39.4%	36.8%
ある程度必要	49.1%	43.7%	46.3%	49.7%	48.8%	47.9%	51.1%	49.1%	46.0%	48.0%
とても必要	22.8%	14.6%	20.8%	17.3%	9.3%	11.8%	16.4%	13.3%	14.6%	15.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
必要な学歴										
(N)	111	50	91	91	173	97	206	211	173	613
大学・大学院卒	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
専門・短大卒	34.2%	12.0%	28.6%	30.8%	21.4%	25.8%	23.8%	28.9%	24.3%	26.1%
短期高等教育以上	7.2%	6.0%	15.4%	15.4%	11.0%	12.4%	12.6%	11.4%	10.4%	11.4%
高卒	12.6%	22.0%	12.1%	14.3%	16.2%	13.4%	14.1%	14.2%	16.2%	14.7%
その他	6.3%	26.0%	18.7%	8.8%	5.8%	8.2%	9.2%	11.8%	10.4%	10.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問18　以下の項目について、どのくらい満足していますか。現在仕事をしていない場合は、「いちばん最後に就いていた仕事」についてお答えください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
職場での自分の地位										
(N)	170	105	153	185	329	174	363	374	331	1116
全く満足せず	12.4%	5.7%	11.8%	8.6%	9.1%	8.6%	10.2%	8.6%	10.3%	9.5%
2	14.1%	16.2%	9.8%	15.1%	12.8%	15.5%	10.5%	15.2%	14.8%	13.7%
3	46.5%	39.0%	39.9%	44.3%	43.5%	45.4%	41.9%	44.1%	46.2%	43.5%
4	20.0%	24.8%	24.2%	18.9%	22.8%	17.2%	24.0%	21.4%	17.2%	21.2%
とても満足	7.1%	14.3%	14.4%	13.0%	11.9%	13.2%	13.5%	10.7%	11.5%	12.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
毎月の賃金										
(N)	169	105	154	185	329	174	364	373	331	1116
全く満足せず	26.0%	16.2%	23.4%	35.7%	15.2%	20.7%	21.7%	24.9%	21.8%	22.3%
2	25.4%	33.3%	27.9%	29.2%	31.0%	30.5%	25.3%	32.4%	29.6%	29.6%
3	33.1%	27.6%	29.2%	21.1%	29.8%	28.7%	32.4%	25.7%	27.2%	28.4%
4	12.4%	14.3%	13.6%	10.3%	16.7%	13.8%	12.9%	11.8%	16.9%	13.9%
とても満足	3.0%	8.6%	5.8%	3.8%	7.3%	6.3%	7.7%	5.1%	4.5%	5.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
今の仕事内容										
(N)	169	105	153	184	328	174	364	370	331	1113
全く満足せず	5.3%	9.5%	8.5%	11.4%	8.5%	5.2%	7.4%	7.8%	10.0%	8.1%
2	16.6%	14.3%	21.6%	22.8%	19.5%	23.0%	17.0%	21.4%	22.1%	19.9%
3	32.0%	40.0%	33.3%	34.2%	32.9%	31.0%	32.4%	33.8%	32.6%	33.4%
4	30.2%	22.9%	24.2%	18.5%	26.2%	27.6%	27.7%	24.6%	22.7%	25.2%
とても満足	16.0%	13.3%	12.4%	13.0%	12.8%	13.2%	15.4%	12.4%	12.7%	13.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
今の会社・勤め先										
(N)	169	101	153	182	329	172	361	368	330	1106
全く満足せず	6.5%	8.9%	7.8%	11.0%	7.6%	6.4%	8.0%	9.0%	8.2%	8.0%
2	16.0%	15.8%	15.7%	18.1%	16.7%	17.4%	15.8%	16.8%	18.2%	16.7%
3	31.4%	35.6%	33.3%	34.1%	28.9%	30.8%	31.6%	32.9%	30.6%	31.6%
4	32.5%	21.8%	24.2%	20.3%	28.6%	26.2%	24.7%	27.7%	24.8%	26.2%
とても満足	13.6%	17.8%	19.0%	16.5%	18.2%	19.2%	19.9%	13.6%	18.2%	17.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
教育・訓練の機会										
(N)	168	105	152	182	328	170	361	366	331	1105
全く満足せず	11.9%	13.3%	15.1%	13.2%	11.3%	12.4%	15.2%	12.3%	10.9%	12.6%
2	22.6%	23.8%	19.1%	19.2%	20.4%	25.9%	20.2%	23.0%	22.4%	21.5%
3	34.5%	36.2%	36.8%	41.8%	43.9%	35.9%	36.8%	39.9%	39.0%	39.2%
4	25.6%	19.0%	16.4%	14.8%	14.9%	14.7%	16.3%	16.4%	19.0%	17.1%
とても満足	5.4%	7.6%	12.5%	11.0%	9.5%	11.2%	11.4%	8.5%	8.8%	9.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
専門学校卒業生の職場での評価										
(N)	168	103	148	182	320	169	352	363	328	1090
全く満足せず	11.9%	15.5%	11.5%	9.9%	8.8%	8.3%	11.6%	9.6%	8.8%	10.4%
2	13.1%	17.5%	13.5%	12.6%	11.6%	10.1%	13.4%	11.0%	11.6%	12.6%
3	44.6%	47.6%	43.9%	54.4%	49.7%	44.4%	46.9%	50.7%	47.9%	47.9%
4	23.8%	12.6%	16.2%	13.7%	16.3%	28.4%	17.0%	19.3%	19.5%	18.5%
とても満足	6.5%	6.8%	14.9%	9.3%	13.8%	8.9%	11.1%	9.4%	12.2%	10.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職業生活全般について										
(N)	168	105	151	185	328	173	361	370	330	1110
全く満足せず	5.4%	4.8%	7.9%	8.1%	4.6%	4.6%	4.2%	6.5%	6.7%	5.8%
2	12.5%	15.2%	16.6%	16.8%	15.9%	17.3%	14.4%	16.2%	17.3%	15.8%
3	47.6%	48.6%	41.7%	49.2%	45.1%	45.1%	46.5%	47.3%	44.2%	46.0%
4	28.0%	20.0%	23.2%	16.8%	24.1%	26.0%	22.2%	22.4%	25.5%	23.2%
とても満足	6.5%	11.4%	10.6%	9.2%	10.4%	6.9%	12.7%	7.6%	6.4%	9.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問19　現在（あるいはいちばん最近）の仕事を十分にこなすため（一人前とみなされるため）には、専門学校卒業後、どのくらいの期間の経験が必要だと思いますか。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	178	113	157	193	343	177	379	384	345	1161
経験いらない	3.9%	10.6%	8.9%	3.6%	6.4%	10.7%	8.4%	6.8%	5.5%	7.0%
半年未満	2.2%	9.7%	6.4%	7.3%	6.1%	7.3%	6.6%	6.0%	6.4%	6.3%
半-1年未満	5.6%	12.4%	8.3%	8.8%	11.4%	11.9%	8.2%	11.2%	10.4%	9.8%
1-2年未満	8.4%	16.8%	14.6%	17.1%	22.4%	19.8%	12.1%	18.0%	22.3%	17.4%
2-3年未満	19.7%	17.7%	24.2%	26.4%	20.1%	13.0%	23.7%	17.2%	18.6%	20.3%
3-5年未満	34.8%	15.9%	25.5%	26.9%	25.9%	23.7%	25.9%	28.1%	25.2%	26.1%
5-10年未満	18.0%	7.1%	5.7%	6.7%	5.5%	9.6%	9.8%	9.1%	6.1%	8.4%
10年以上	7.3%	9.7%	6.4%	3.1%	2.0%	4.0%	5.3%	3.6%	5.5%	4.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問20　現在（あるいはいちばん最近）の仕事であなたが活用している知識や技能、態度を考えた場合、1)専門学校に入学する前、2)専門学校在学中、そして3)専門学校卒業後に身につけた能力の割合は、それぞれどのくらいだと思いますか。全体で10割になるように答えてください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
専門学校入学前に身につけた能力（割）										
(N)	175	109	153	190	336	173	369	377	338	1136
0	25.1%	12.8%	21.6%	22.1%	17.0%	16.2%	22.8%	21.2%	13.6%	19.1%
1	36.6%	35.8%	37.9%	30.5%	32.1%	29.5%	33.3%	33.7%	33.1%	33.3%
2	28.0%	20.2%	21.6%	30.0%	28.9%	30.1%	26.0%	28.4%	26.9%	27.3%
3	6.9%	14.7%	9.2%	10.0%	11.6%	11.6%	10.3%	7.4%	13.6%	10.6%
4	2.3%	7.3%	5.9%	3.7%	4.5%	4.6%	4.3%	3.7%	5.6%	4.5%
5	0.6%	2.8%	2.6%	3.2%	3.6%	4.6%	1.4%	2.7%	4.7%	3.0%
6	0.6%	2.8%	0.7%	0.5%	0.9%	2.3%	1.1%	1.3%	1.2%	1.1%
7	0.6%	0.9%	0.7%	0.0%	1.2%	0.6%	0.5%	0.8%	0.9%	0.7%
8	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.3%	0.6%	0.3%	0.8%	0.3%	0.4%
9	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
専門学校在学中に身につけた能力（割）										
(N)	175	109	153	190	336	173	369	377	338	1136
0	2.9%	2.8%	5.9%	2.1%	3.3%	2.9%	4.6%	2.9%	1.2%	3.3%
1	13.1%	14.7%	10.5%	5.8%	5.7%	10.4%	13.6%	7.4%	6.8%	9.1%
2	19.4%	29.4%	10.5%	11.6%	16.1%	19.1%	17.6%	19.1%	13.6%	16.8%
3	29.1%	23.9%	26.8%	28.9%	26.8%	23.7%	27.6%	26.3%	25.1%	26.8%
4	16.6%	18.3%	20.9%	20.5%	20.8%	22.5%	19.2%	19.9%	22.5%	20.2%
5	10.3%	5.5%	11.1%	14.2%	14.6%	12.7%	7.6%	13.3%	16.3%	12.2%
6	4.0%	3.7%	5.2%	10.0%	5.1%	4.0%	4.1%	6.4%	6.5%	5.5%
7	1.7%	0.0%	4.6%	3.7%	3.0%	3.5%	2.4%	2.9%	3.8%	2.9%
8	1.7%	0.0%	2.6%	2.1%	2.4%	1.2%	2.4%	0.5%	2.1%	1.8%
9	0.6%	0.9%	1.3%	1.1%	1.5%	0.0%	0.8%	0.3%	1.8%	1.0%
10	0.6%	0.9%	0.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	0.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
専門学校卒業後に身につけた能力（割）										
(N)	175	109	153	190	336	173	369	377	338	1136
0	1.1%	4.6%	0.7%	1.1%	5.1%	1.2%	1.6%	2.7%	3.0%	2.6%
1	1.1%	1.8%	5.9%	4.7%	5.7%	5.2%	3.3%	2.7%	8.0%	4.4%
2	5.7%	2.8%	7.2%	10.0%	10.4%	8.7%	6.5%	8.0%	10.4%	8.2%
3	6.3%	11.9%	10.5%	10.5%	7.4%	13.3%	6.2%	10.1%	13.3%	9.5%
4	11.4%	13.8%	14.4%	14.7%	17.9%	13.9%	14.1%	14.6%	14.8%	14.9%
5	22.3%	24.8%	25.5%	33.2%	19.3%	20.2%	23.0%	21.2%	25.1%	23.6%
6	21.7%	16.5%	13.7%	11.6%	15.5%	17.3%	16.8%	20.2%	11.8%	15.9%
7	17.7%	11.0%	9.8%	5.3%	8.9%	8.7%	12.2%	11.1%	7.4%	9.9%
8	7.4%	8.3%	7.2%	4.2%	6.3%	8.1%	9.8%	5.6%	3.8%	6.7%
9	2.3%	1.8%	2.0%	2.6%	1.2%	2.3%	2.4%	2.1%	1.8%	1.9%
10	2.9%	2.8%	3.3%	2.1%	2.4%	1.2%	4.1%	1.9%	0.6%	2.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問21　次のような知識・技能・態度を専門学校卒業時点でどの程度みにつけていましたか。また現在（またはいちばん最近）の職場で、それらはどの程度必要とされていますか、いましたか。

A.卒業時に身につけていたか

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
専門的な知識や技能										
(N)	180	115	161	191	341	176	378	387	347	1164
全く獲得せず	2.8%	6.1%	3.7%	1.6%	7.9%	6.8%	5.6%	4.7%	3.5%	5.2%
2	16.7%	12.2%	6.8%	18.3%	13.8%	15.3%	15.6%	12.4%	13.3%	14.1%
3	40.6%	55.7%	39.1%	45.5%	38.4%	44.9%	41.8%	49.9%	38.6%	42.7%
4	31.1%	20.9%	41.0%	29.3%	34.9%	28.4%	31.2%	27.9%	37.2%	31.9%
十分獲得	8.9%	5.2%	9.3%	5.2%	5.0%	4.5%	5.8%	5.2%	7.5%	6.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
幅広い知識・教養										
(N)	178	115	159	190	340	175	372	387	346	1157
全く獲得せず	3.4%	1.7%	6.9%	2.6%	5.9%	2.3%	4.8%	3.1%	4.3%	4.1%
2	19.7%	18.3%	19.5%	22.6%	18.2%	11.4%	21.0%	17.6%	16.2%	18.3%
3	46.6%	59.1%	41.5%	51.1%	49.4%	55.4%	47.0%	53.0%	51.7%	50.0%
4	23.6%	17.4%	27.0%	18.4%	22.6%	25.1%	22.8%	21.4%	22.3%	22.6%
十分獲得	6.7%	3.5%	5.0%	5.3%	3.8%	5.7%	4.3%	4.9%	5.5%	4.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
外国語の能力										
(N)	177	113	161	191	339	176	374	387	343	1157
全く獲得せず	61.0%	54.0%	55.3%	42.4%	55.2%	27.8%	55.1%	47.0%	46.6%	49.7%
2	22.0%	18.6%	28.0%	33.0%	28.6%	19.9%	22.7%	26.1%	29.4%	25.9%
3	14.1%	21.2%	14.9%	18.8%	12.1%	26.1%	14.7%	18.1%	17.5%	16.9%
4	2.3%	5.3%	1.2%	4.7%	3.5%	18.2%	5.6%	7.5%	4.1%	5.6%
十分獲得	0.6%	0.9%	0.6%	1.0%	0.6%	8.0%	1.9%	1.3%	2.3%	1.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
コンピュータを使いこなす技能										
(N)	177	114	162	191	340	178	376	387	346	1162
全く獲得せず	11.9%	23.7%	19.8%	15.7%	7.4%	4.5%	20.5%	9.0%	6.6%	12.3%
2	19.2%	17.5%	26.5%	25.1%	13.2%	14.6%	19.1%	18.9%	17.1%	18.6%
3	28.8%	36.0%	29.0%	31.4%	34.4%	29.8%	30.6%	29.5%	35.8%	31.8%
4	27.1%	18.4%	18.5%	23.6%	31.2%	36.0%	21.0%	31.5%	29.2%	27.0%
十分獲得	13.0%	4.4%	6.2%	4.2%	13.8%	15.2%	8.8%	11.1%	11.3%	10.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
問題解決能力										
(N)	178	115	161	190	338	177	378	386	342	1159
全く獲得せず	6.7%	6.1%	6.8%	6.8%	10.9%	9.0%	9.5%	7.8%	7.6%	8.3%
2	28.7%	24.3%	23.6%	21.1%	20.4%	16.4%	23.5%	23.1%	19.6%	22.0%
3	46.1%	49.6%	48.4%	49.5%	48.8%	43.5%	50.3%	47.2%	45.0%	47.7%
4	14.6%	13.0%	16.8%	17.4%	17.5%	28.2%	13.2%	17.6%	23.7%	18.1%
十分獲得	3.9%	7.0%	4.3%	5.3%	2.4%	2.8%	3.4%	4.4%	4.1%	3.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ひとりで仕事をこなせる力										
(N)	180	115	161	191	340	178	380	386	346	1165
全く獲得せず	11.7%	7.8%	8.1%	11.5%	12.1%	7.3%	10.5%	11.1%	8.4%	10.2%
2	30.0%	19.1%	16.8%	27.7%	21.5%	16.3%	25.8%	20.7%	18.8%	22.1%
3	36.7%	48.7%	43.5%	36.6%	42.1%	46.1%	41.6%	43.8%	41.3%	41.8%
4	16.1%	19.1%	23.0%	18.3%	18.5%	24.2%	15.5%	18.1%	26.0%	19.7%
十分獲得	5.6%	5.2%	8.7%	5.8%	5.9%	6.2%	6.6%	6.2%	5.5%	6.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
チームの中で仕事を遂行する能力										
(N)	180	115	162	191	340	179	380	388	346	1167
全く獲得せず	6.7%	5.2%	4.3%	6.8%	8.5%	3.4%	6.1%	7.0%	4.9%	6.3%
2	17.8%	9.6%	15.4%	17.3%	15.9%	11.7%	18.7%	12.6%	13.9%	15.1%
3	40.6%	47.0%	45.1%	40.3%	44.1%	40.8%	45.5%	43.3%	41.0%	42.8%
4	28.3%	29.6%	27.2%	23.0%	25.3%	35.2%	23.2%	27.6%	31.8%	27.6%
十分獲得	6.7%	8.7%	8.0%	12.6%	6.2%	8.9%	6.6%	9.5%	8.4%	8.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
仕事への適応力										
(N)	179	115	161	191	341	178	379	386	347	1165
全く獲得せず	6.1%	4.3%	7.5%	4.7%	8.8%	3.9%	6.9%	5.2%	5.8%	6.4%
2	17.9%	11.3%	13.7%	17.3%	14.7%	14.6%	19.0%	12.7%	13.5%	15.1%
3	43.0%	48.7%	44.7%	44.5%	43.7%	41.0%	44.6%	45.1%	43.2%	43.9%
4	26.8%	27.0%	23.6%	21.5%	27.6%	32.0%	24.0%	27.2%	28.5%	26.5%
十分獲得	6.1%	8.7%	10.6%	12.0%	5.3%	8.4%	5.5%	9.8%	8.9%	8.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問21　A.卒業時に身につけていたか（続き）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
創造性										
(N)	179	114	162	190	339	177	377	386	346	1161
全く獲得せず	10.1%	7.0%	0.6%	5.3%	13.6%	11.3%	10.6%	7.5%	7.5%	8.9%
2	22.3%	14.9%	8.0%	21.1%	28.3%	18.6%	21.2%	18.7%	22.0%	20.6%
3	36.3%	53.5%	37.7%	49.5%	45.7%	42.9%	44.0%	47.4%	43.4%	44.1%
4	23.5%	21.1%	40.1%	17.9%	10.0%	19.2%	19.9%	19.2%	19.9%	20.1%
十分獲得	7.8%	3.5%	13.6%	6.3%	2.4%	7.9%	4.2%	7.3%	7.2%	6.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自発性・自主性										
(N)	179	114	162	191	340	179	377	388	347	1165
全く獲得せず	6.1%	2.6%	4.3%	7.3%	7.9%	4.5%	5.8%	5.4%	5.5%	6.0%
2	13.4%	21.1%	11.1%	20.9%	20.0%	11.7%	19.4%	14.9%	15.6%	16.7%
3	39.1%	43.9%	37.0%	39.3%	49.1%	45.3%	44.6%	44.6%	42.1%	43.2%
4	29.6%	24.6%	30.2%	18.8%	17.4%	28.5%	21.5%	24.2%	25.9%	23.7%
十分獲得	11.7%	7.9%	17.3%	13.6%	5.6%	10.1%	8.8%	10.8%	11.0%	10.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
コミュニケーション能力										
(N)	178	115	162	191	337	179	378	385	346	1162
全く獲得せず	0.6%	2.6%	2.5%	2.6%	3.6%	2.8%	3.2%	2.1%	2.3%	2.6%
2	9.6%	11.3%	12.3%	14.1%	13.1%	10.6%	13.5%	11.4%	9.8%	12.0%
3	37.6%	42.6%	36.4%	32.5%	35.6%	24.6%	39.4%	33.2%	31.5%	34.5%
4	37.6%	32.2%	31.5%	33.0%	32.9%	39.7%	29.1%	36.9%	38.4%	34.4%
十分獲得	14.6%	11.3%	17.3%	17.8%	14.8%	22.3%	14.8%	16.4%	17.9%	16.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
リーダーシップを発揮できる力量										
(N)	178	115	162	189	339	179	377	387	346	1162
全く獲得せず	11.2%	11.3%	16.0%	15.9%	17.1%	9.5%	15.1%	13.4%	12.1%	14.1%
2	21.3%	26.1%	19.1%	24.9%	25.7%	21.8%	26.5%	24.5%	18.2%	23.4%
3	44.9%	45.2%	41.4%	41.3%	41.6%	42.5%	42.2%	42.1%	45.1%	42.5%
4	15.7%	13.9%	17.3%	12.7%	11.5%	20.1%	11.7%	14.5%	18.8%	14.7%
十分獲得	6.7%	3.5%	6.2%	5.3%	4.1%	6.1%	4.5%	5.4%	5.8%	5.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人との交渉力・折衝能力										
(N)	178	114	162	189	337	179	377	384	345	1159
全く獲得せず	9.0%	3.5%	8.6%	10.1%	13.4%	8.9%	12.7%	9.6%	6.1%	9.8%
2	19.7%	23.7%	25.3%	24.9%	22.0%	23.5%	22.5%	25.3%	21.4%	23.0%
3	47.2%	54.4%	43.8%	41.8%	42.7%	39.7%	44.0%	43.2%	46.7%	44.1%
4	20.2%	14.9%	14.2%	18.5%	16.0%	21.2%	15.9%	17.4%	18.8%	17.5%
十分獲得	3.9%	3.5%	8.0%	4.8%	5.9%	6.7%	4.8%	4.4%	7.0%	5.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
礼儀・マナー										
(N)	180	114	162	191	339	179	378	388	346	1165
全く獲得せず	5.0%	1.8%	9.3%	3.1%	2.7%	0.6%	4.0%	3.1%	3.2%	3.6%
2	12.2%	10.5%	13.0%	12.0%	6.5%	8.4%	9.8%	8.0%	11.6%	9.9%
3	41.1%	36.0%	35.8%	38.7%	29.8%	25.1%	40.2%	32.2%	28.6%	33.7%
4	30.0%	39.5%	29.0%	27.7%	45.4%	42.5%	34.1%	39.4%	37.6%	36.8%
十分獲得	11.7%	12.3%	13.0%	18.3%	15.6%	23.5%	11.9%	17.3%	19.1%	16.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
起業の精神										
(N)	179	114	162	191	339	178	379	386	346	1163
全く獲得せず	26.8%	24.6%	33.3%	27.2%	35.1%	27.5%	33.2%	30.1%	27.2%	30.1%
2	23.5%	22.8%	24.1%	21.5%	18.3%	23.0%	21.9%	22.8%	20.5%	21.6%
3	35.8%	37.7%	30.2%	35.1%	36.3%	38.2%	35.4%	35.2%	34.4%	35.6%
4	8.9%	9.6%	9.3%	12.0%	8.6%	9.0%	7.1%	10.1%	12.7%	9.5%
十分獲得	5.0%	5.3%	3.1%	4.2%	1.8%	2.2%	2.4%	1.8%	5.2%	3.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問21　B.職場での必要性（続き）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
専門的な知識や技能										
(N)	178	113	159	190	339	176	375	384	344	1155
全く必要ない	4.5%	13.3%	10.7%	2.6%	6.2%	10.2%	9.1%	7.6%	5.2%	7.3%
2	7.9%	8.0%	6.9%	4.2%	11.2%	11.4%	5.6%	11.2%	8.1%	8.3%
3	12.9%	20.4%	23.9%	15.3%	24.5%	19.3%	21.9%	19.5%	18.9%	20.1%
4	20.2%	20.4%	19.5%	17.4%	23.0%	21.0%	20.8%	17.7%	22.4%	20.2%
とても必要	54.5%	38.1%	39.0%	60.5%	35.1%	38.1%	42.7%	44.0%	45.3%	44.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
幅広い知識・教養										
(N)	176	113	158	190	338	175	373	383	342	1150
全く必要ない	2.3%	6.2%	1.9%	3.2%	2.1%	4.0%	3.5%	2.6%	2.9%	3.0%
2	7.4%	9.7%	5.1%	4.7%	7.1%	4.0%	6.4%	6.8%	5.0%	6.3%
3	22.2%	27.4%	26.6%	24.2%	32.2%	27.4%	27.9%	27.4%	27.2%	27.4%
4	33.5%	23.0%	29.1%	24.2%	33.1%	27.4%	27.6%	29.2%	30.4%	29.3%
とても必要	34.7%	33.6%	37.3%	43.7%	25.4%	37.1%	34.6%	33.9%	34.5%	34.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
外国語の能力										
(N)	174	112	159	189	336	175	372	381	339	1145
全く必要ない	42.5%	45.5%	28.9%	56.6%	36.0%	21.7%	41.9%	33.9%	38.9%	38.2%
2	21.8%	18.8%	25.8%	25.9%	23.5%	29.7%	21.2%	29.9%	23.0%	24.5%
3	15.5%	17.9%	20.1%	10.6%	23.8%	14.9%	17.7%	16.8%	19.5%	17.9%
4	9.8%	8.9%	14.5%	4.8%	8.6%	16.0%	9.9%	11.0%	8.6%	10.1%
とても必要	10.3%	8.9%	10.7%	2.1%	8.0%	17.7%	9.1%	8.4%	10.0%	9.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
コンピュータを使いこなす技能										
(N)	175	112	161	191	338	174	375	380	344	1151
全く必要ない	6.9%	21.4%	9.9%	8.4%	3.8%	4.6%	8.3%	7.6%	8.1%	7.7%
2	10.9%	15.2%	11.2%	6.8%	5.6%	11.5%	7.5%	12.4%	7.6%	9.2%
3	18.3%	18.8%	21.1%	20.4%	17.5%	24.7%	19.7%	19.2%	19.2%	19.8%
4	30.3%	17.9%	24.8%	27.7%	27.5%	23.6%	25.9%	24.7%	26.2%	26.1%
とても必要	33.7%	26.8%	32.9%	36.6%	45.6%	35.6%	38.7%	36.1%	39.0%	37.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
問題解決能力										
(N)	176	113	160	190	335	174	376	381	339	1148
全く必要ない	0.0%	2.7%	0.0%	1.1%	1.2%	2.9%	0.8%	1.6%	1.8%	1.2%
2	3.4%	1.8%	1.9%	1.6%	3.3%	3.4%	2.1%	3.7%	2.4%	2.7%
3	16.5%	28.3%	21.9%	13.7%	23.3%	13.8%	19.4%	19.7%	19.2%	19.5%
4	28.4%	29.2%	27.5%	32.6%	31.3%	35.1%	31.1%	30.7%	30.1%	30.9%
とても必要	51.7%	38.1%	48.8%	51.1%	40.9%	44.8%	46.5%	44.4%	46.6%	45.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ひとりで仕事をこなせる力										
(N)	178	113	161	191	337	175	378	381	344	1155
全く必要ない	0.6%	1.8%	0.0%	1.0%	0.9%	0.6%	0.3%	1.3%	0.6%	0.8%
2	2.2%	2.7%	5.0%	4.7%	4.2%	2.3%	2.9%	3.9%	3.5%	3.6%
3	11.2%	17.7%	16.8%	17.3%	20.8%	18.3%	15.3%	17.1%	20.3%	17.5%
4	33.7%	34.5%	32.3%	31.4%	36.2%	32.6%	32.0%	34.9%	33.4%	33.8%
とても必要	52.2%	43.4%	46.0%	45.5%	38.0%	46.3%	49.5%	42.8%	42.2%	44.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
チームの中で仕事を遂行する能力										
(N)	177	112	160	191	338	174	376	382	342	1152
全く必要ない	2.3%	0.9%	0.6%	1.0%	1.2%	1.1%	0.8%	2.1%	0.6%	1.2%
2	2.3%	1.8%	3.1%	1.6%	4.1%	4.6%	3.2%	3.7%	2.0%	3.1%
3	13.0%	17.9%	12.5%	8.9%	20.7%	16.7%	14.6%	15.2%	17.0%	15.5%
4	37.3%	31.3%	28.8%	25.7%	35.2%	30.5%	31.1%	31.2%	33.9%	31.9%
とても必要	45.2%	48.2%	55.0%	62.8%	38.8%	47.1%	50.3%	47.9%	46.5%	48.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
仕事への適応力										
(N)	177	113	161	191	338	175	377	382	344	1155
全く必要ない	1.1%	0.9%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.3%	0.8%	0.3%	0.5%
2	2.3%	0.9%	0.0%	0.5%	0.9%	3.4%	0.5%	2.4%	1.5%	1.3%
3	13.0%	15.9%	15.5%	13.1%	18.6%	14.3%	13.8%	17.0%	14.5%	15.5%
4	31.1%	36.3%	27.3%	30.9%	36.7%	33.1%	32.9%	31.4%	36.0%	33.0%
とても必要	52.5%	46.0%	57.1%	55.0%	43.2%	49.1%	52.5%	48.4%	47.7%	49.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問21　B.職場での必要性（続き）

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
創造性										
(N)	176	112	160	190	338	175	376	380	343	1151
全く必要ない	4.5%	5.4%	5.0%	2.6%	7.4%	5.7%	5.9%	5.3%	5.2%	5.4%
2	10.8%	10.7%	11.3%	2.6%	15.7%	9.1%	9.6%	12.4%	10.2%	10.7%
3	25.6%	31.3%	26.9%	32.6%	41.7%	38.3%	31.6%	37.9%	33.8%	34.1%
4	24.4%	22.3%	22.5%	33.7%	23.1%	28.0%	27.9%	20.8%	27.7%	25.6%
とても必要	34.7%	30.4%	34.4%	28.4%	12.1%	18.9%	25.0%	23.7%	23.0%	24.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自発性・自主性										
(N)	178	113	161	190	337	176	377	382	343	1155
全く必要ない	2.2%	5.3%	0.6%	1.6%	2.1%	1.1%	2.1%	2.4%	1.5%	2.0%
2	2.8%	4.4%	3.7%	2.1%	5.3%	4.5%	4.0%	3.1%	5.2%	4.0%
3	20.2%	19.5%	18.6%	13.7%	28.5%	18.8%	21.5%	20.9%	20.7%	21.0%
4	32.6%	31.9%	30.4%	36.8%	35.0%	34.1%	34.5%	34.6%	31.5%	33.9%
とても必要	42.1%	38.9%	46.6%	45.8%	29.1%	41.5%	37.9%	39.0%	41.1%	39.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
コミュニケーション能力										
(N)	177	113	160	190	336	176	376	382	341	1152
全く必要ない	0.0%	0.9%	0.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%
2	2.3%	0.9%	2.5%	0.5%	1.2%	2.3%	1.9%	1.8%	0.6%	1.6%
3	16.4%	19.5%	5.6%	8.4%	12.8%	8.0%	14.4%	11.3%	9.1%	11.5%
4	31.6%	33.6%	18.8%	21.6%	26.2%	18.8%	23.9%	24.1%	25.8%	24.8%
とても必要	49.7%	45.1%	73.1%	68.9%	59.2%	71.0%	59.6%	62.3%	64.2%	61.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
リーダーシップを発揮できる力量										
(N)	177	113	161	190	337	176	377	383	343	1154
全く必要ない	4.0%	4.4%	5.0%	2.1%	6.5%	4.0%	4.2%	5.0%	5.0%	4.6%
2	7.9%	7.1%	11.8%	6.3%	12.5%	9.7%	9.0%	11.0%	9.0%	9.7%
3	36.2%	31.0%	26.7%	26.8%	40.1%	34.7%	30.8%	34.5%	36.7%	33.7%
4	31.1%	29.2%	31.1%	30.5%	26.4%	29.5%	27.9%	29.0%	29.7%	29.2%
とても必要	20.9%	28.3%	25.5%	34.2%	14.5%	22.2%	28.1%	20.6%	19.5%	22.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人との交渉力・折衝能力										
(N)	175	112	161	190	335	176	374	380	343	1149
全く必要ない	1.1%	4.5%	0.6%	1.6%	4.5%	1.1%	2.4%	2.6%	2.9%	2.4%
2	4.0%	7.1%	3.7%	8.9%	6.9%	7.4%	4.5%	9.5%	5.5%	6.4%
3	28.0%	28.6%	21.7%	23.7%	28.1%	23.9%	24.6%	24.7%	29.2%	25.8%
4	26.9%	25.9%	28.0%	27.9%	28.7%	26.7%	26.2%	29.5%	25.4%	27.6%
とても必要	40.0%	33.9%	46.0%	37.9%	31.9%	40.9%	42.2%	33.7%	37.0%	37.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
礼儀・マナー										
(N)	178	113	161	191	337	176	378	383	343	1156
全く必要ない	0.6%	1.8%	0.0%	1.0%	0.3%	0.0%	0.5%	0.5%	0.3%	0.5%
2	0.6%	0.9%	0.0%	2.6%	0.9%	1.7%	0.5%	1.6%	0.9%	1.1%
3	14.6%	17.7%	11.2%	8.4%	12.8%	6.8%	11.9%	12.5%	11.1%	11.7%
4	30.3%	25.7%	15.5%	25.1%	24.9%	21.6%	25.9%	22.2%	22.7%	24.0%
とても必要	53.9%	54.0%	73.3%	62.8%	61.1%	69.9%	61.1%	63.2%	65.0%	62.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
起業の精神										
(N)	176	113	161	191	335	176	376	382	342	1152
全く必要ない	18.8%	27.4%	22.4%	15.2%	25.7%	22.2%	23.9%	23.0%	20.2%	22.0%
2	16.5%	11.5%	20.5%	14.7%	18.2%	13.1%	13.3%	17.3%	17.3%	16.2%
3	34.7%	29.2%	28.6%	29.3%	31.9%	40.3%	31.6%	34.8%	29.5%	32.5%
4	13.6%	14.2%	12.4%	20.9%	13.4%	16.5%	14.1%	15.2%	16.4%	15.1%
とても必要	16.5%	17.7%	16.1%	19.9%	10.7%	8.0%	17.0%	9.7%	16.7%	14.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問22　専門学校で学んだことは、以下の点でどの程度役立っていますか。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
満足のいく仕事をみつける上で										
(N)	181	115	161	192	342	179	380	389	347	1170
全く役立たない	6.1%	6.1%	7.5%	3.6%	5.3%	6.7%	7.1%	4.4%	5.5%	5.7%
2	12.2%	15.7%	13.7%	13.5%	15.5%	16.8%	14.5%	16.5%	12.7%	14.6%
3	32.6%	41.7%	36.6%	37.0%	40.6%	37.4%	37.6%	39.3%	36.3%	37.9%
4	32.6%	20.9%	20.5%	27.6%	27.5%	21.8%	25.5%	22.6%	30.0%	25.8%
とても役立つ	16.6%	15.7%	21.7%	18.2%	11.1%	17.3%	15.3%	17.2%	15.6%	16.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
長期的な職業生活（キャリア）の基礎として										
(N)	181	115	162	192	342	179	380	389	347	1171
全く役立たない	4.4%	7.0%	3.7%	4.2%	4.1%	6.7%	6.1%	4.1%	3.2%	4.8%
2	9.9%	11.3%	14.8%	8.3%	12.0%	14.0%	12.1%	12.6%	10.4%	11.7%
3	29.3%	37.4%	29.6%	33.3%	42.7%	39.1%	35.5%	37.3%	35.7%	36.2%
4	30.9%	27.8%	24.1%	36.5%	26.9%	25.1%	28.4%	27.0%	30.5%	28.5%
とても役立つ	25.4%	16.5%	27.8%	17.7%	14.3%	15.1%	17.9%	19.0%	20.2%	18.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職業人として学友を継続していく上で										
(N)	181	115	162	192	342	179	380	389	347	1171
全く役立たない	3.9%	7.8%	2.5%	1.6%	3.2%	5.0%	4.5%	3.1%	2.6%	3.7%
2	11.0%	11.3%	9.3%	7.8%	11.4%	11.2%	10.8%	11.3%	8.4%	10.4%
3	30.9%	36.5%	34.6%	36.5%	40.4%	39.1%	40.5%	39.1%	31.7%	36.9%
4	33.1%	25.2%	25.3%	35.9%	31.0%	26.3%	26.8%	27.8%	36.3%	30.1%
とても役立つ	21.0%	19.1%	28.4%	18.2%	14.0%	18.4%	17.4%	18.8%	21.0%	19.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人間関係を広げたり深めたりする上で										
(N)	180	115	162	192	341	178	379	388	347	1168
全く役立たない	5.6%	7.0%	2.5%	4.2%	4.4%	2.2%	4.7%	3.9%	3.5%	4.2%
2	10.0%	11.3%	11.7%	9.9%	15.5%	9.0%	15.8%	11.6%	8.4%	11.8%
3	40.0%	37.4%	37.0%	41.7%	39.0%	37.6%	41.2%	37.4%	36.0%	39.0%
4	26.7%	25.2%	27.8%	28.1%	27.0%	28.1%	23.0%	28.1%	32.6%	27.2%
とても役立つ	17.8%	19.1%	21.0%	16.1%	14.1%	23.0%	15.3%	19.1%	19.6%	17.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
充実した家庭生活を送る上で										
(N)	180	114	162	192	342	178	379	388	346	1168
全く役立たない	8.9%	6.1%	8.0%	7.3%	8.8%	7.9%	8.4%	8.8%	6.6%	8.0%
2	19.4%	10.5%	13.6%	22.4%	18.4%	16.3%	18.5%	16.8%	15.3%	17.5%
3	50.0%	39.5%	44.4%	42.2%	48.5%	49.4%	45.1%	47.2%	48.3%	46.4%
4	18.9%	21.1%	22.2%	18.8%	17.0%	17.4%	18.2%	18.3%	19.9%	18.8%
とても役立つ	2.8%	22.8%	11.7%	9.4%	7.3%	9.0%	9.8%	9.0%	9.8%	9.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人格の発達の上で										
(N)	180	115	162	191	342	178	379	388	346	1168
全く役立たない	7.2%	5.2%	6.2%	3.1%	2.9%	4.5%	4.7%	4.9%	3.5%	4.5%
2	16.7%	9.6%	11.7%	10.5%	11.7%	10.1%	14.2%	9.8%	9.8%	11.8%
3	45.0%	39.1%	40.7%	45.0%	45.0%	41.0%	46.4%	43.8%	40.2%	43.2%
4	23.9%	29.6%	23.5%	29.3%	28.4%	30.3%	23.5%	29.4%	30.9%	27.6%
とても役立つ	7.2%	16.5%	17.9%	12.0%	12.0%	14.0%	11.1%	12.1%	15.6%	12.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
教養（品位・一般常識・マナー）を深める上で										
(N)	180	115	162	192	342	178	379	388	347	1169
全く役立たない	6.1%	4.3%	9.3%	3.1%	1.5%	4.5%	5.8%	5.2%	2.3%	4.3%
2	17.8%	10.4%	16.0%	10.9%	5.0%	9.0%	11.3%	9.3%	9.5%	10.6%
3	47.2%	38.3%	45.1%	38.5%	33.9%	31.5%	44.6%	35.8%	35.2%	38.3%
4	20.6%	32.2%	18.5%	29.2%	33.6%	28.1%	25.1%	29.4%	29.7%	27.8%
とても役立つ	8.3%	14.8%	11.1%	18.2%	26.0%	27.0%	13.2%	20.4%	23.3%	19.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問23　高校での生活について、それぞれあてはまるものを選んでください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
高校１年生のころの進路希望										
(N)	182	114	165	190	341	184	378	388	358	1176
就職	7.7%	9.6%	3.0%	4.2%	11.4%	2.7%	6.1%	7.5%	8.1%	7.0%
専門学校	16.5%	18.4%	32.1%	22.1%	10.6%	8.2%	14.3%	17.0%	19.6%	16.8%
短大	0.0%	6.1%	6.7%	5.8%	5.0%	4.9%	6.3%	4.6%	2.8%	4.7%
大学	32.4%	31.6%	27.9%	28.9%	32.6%	50.0%	33.9%	32.0%	36.3%	33.9%
未定	43.4%	34.2%	30.3%	38.9%	40.5%	34.2%	39.4%	38.9%	33.2%	37.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高校３年始めのころの進路希望										
(N)	179	114	163	185	337	180	372	379	357	1158
就職	12.3%	6.1%	0.6%	1.6%	7.7%	6.7%	5.6%	6.3%	7.0%	6.1%
専門学校	50.3%	43.9%	77.3%	63.8%	54.3%	40.6%	53.2%	59.1%	53.5%	55.3%
短大	0.6%	8.8%	4.3%	3.8%	5.9%	5.6%	5.1%	6.3%	2.8%	4.7%
大学	26.8%	33.3%	14.7%	25.4%	24.3%	40.6%	27.7%	24.0%	29.1%	26.9%
未定	10.1%	7.9%	3.1%	5.4%	7.7%	6.7%	8.3%	4.2%	7.6%	6.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高校１年生のころの家や塾での１日の勉強時間										
(N)	182	115	165	192	344	186	382	390	358	1184
していない	52.2%	42.6%	44.8%	42.2%	44.5%	37.1%	38.7%	46.9%	46.6%	44.0%
30分程度	15.9%	18.3%	16.4%	19.3%	17.4%	21.5%	17.5%	16.4%	20.9%	18.1%
1時間程度	18.1%	19.1%	23.6%	25.5%	23.3%	24.7%	26.2%	20.8%	20.7%	22.7%
2時間程度	11.0%	14.8%	9.7%	8.9%	11.6%	10.2%	12.6%	11.8%	8.1%	10.9%
3時間以上	2.7%	5.2%	5.5%	4.2%	3.2%	6.5%	5.0%	4.1%	3.6%	4.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高校３年生の受験時期の家や塾での１日の勉強時間										
(N)	181	114	165	192	343	185	382	388	356	1180
していない	40.3%	28.9%	35.2%	28.1%	34.1%	22.2%	27.0%	33.2%	35.1%	31.9%
30分程度	11.0%	9.6%	15.2%	14.1%	14.0%	10.3%	10.5%	13.4%	14.9%	12.7%
1時間程度	16.6%	16.7%	19.4%	22.9%	19.5%	23.8%	20.4%	19.3%	20.8%	20.0%
2時間程度	18.2%	21.1%	15.2%	22.4%	18.4%	19.5%	21.7%	20.1%	14.6%	19.0%
3時間以上	13.8%	23.7%	15.2%	12.5%	14.0%	24.3%	20.4%	13.9%	14.6%	16.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
親しくしていた友人の数										
(N)	182	116	164	191	343	185	380	391	359	1181
いない	0.0%	0.9%	0.0%	2.6%	1.5%	1.1%	0.8%	0.8%	1.4%	1.1%
1人	2.7%	3.4%	0.6%	2.1%	0.9%	2.7%	2.4%	2.8%	0.8%	1.9%
2人	4.9%	8.6%	6.1%	11.0%	6.4%	5.4%	8.7%	5.9%	5.8%	6.9%
3人	12.1%	15.5%	11.0%	11.0%	13.4%	13.0%	15.3%	10.2%	12.5%	12.6%
4人以上	80.2%	71.6%	82.3%	73.3%	77.8%	77.8%	72.9%	80.3%	79.4%	77.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
出身の高校										
(N)	181	117	163	193	341	185	378	388	360	1180
普通科	70.2%	77.8%	69.9%	79.3%	72.1%	79.5%	74.6%	74.0%	76.4%	74.4%
専門学科	26.0%	17.9%	23.9%	17.1%	23.5%	15.1%	22.2%	20.9%	17.8%	21.0%
総合学科	0.0%	0.0%	4.9%	2.1%	2.6%	1.6%	0.8%	2.3%	3.1%	2.0%
その他	3.9%	2.6%	0.6%	1.6%	1.8%	2.7%	2.1%	2.3%	2.2%	2.1%
海外	0.0%	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	0.5%	0.6%	0.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問24　高校在学中、あなたにとって以下の点はどの程度あてはまっていましたか。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
自分が将来やりたいことがみつかっていた										
(N)	182	117	165	190	345	186	380	392	359	1185
全く該当せず	25.8%	21.4%	10.9%	15.3%	26.4%	16.7%	23.7%	20.4%	16.7%	20.3%
2	15.4%	13.7%	10.3%	13.7%	19.7%	13.4%	13.7%	16.1%	16.4%	15.2%
3	15.9%	23.1%	13.9%	15.3%	21.7%	19.9%	18.2%	16.8%	19.8%	18.6%
4	18.7%	18.8%	26.1%	16.8%	15.7%	14.5%	18.4%	19.9%	15.9%	17.9%
とても該当	24.2%	23.1%	38.8%	38.9%	16.5%	35.5%	26.1%	26.8%	31.2%	28.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問24　続き

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
フリーターの生き方も悪くないと思っていた										
(N)	181	116	165	188	344	186	379	389	358	1180
全く該当せず	64.1%	62.1%	68.5%	68.6%	71.2%	65.6%	70.2%	69.2%	63.7%	67.5%
2	14.4%	9.5%	10.3%	12.8%	9.6%	18.3%	11.9%	13.1%	12.8%	12.3%
3	8.3%	13.8%	10.9%	9.0%	7.3%	10.8%	9.8%	7.7%	11.7%	9.4%
4	7.7%	9.5%	3.6%	5.9%	7.0%	3.8%	4.7%	6.4%	5.9%	6.2%
とても該当	5.5%	5.2%	6.7%	3.7%	4.9%	1.6%	3.4%	3.6%	5.9%	4.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
卒業後に勉強してみたい分野がみつかっていた										
(N)	182	117	165	188	344	185	379	391	357	1181
全く該当せず	13.7%	15.4%	4.8%	13.8%	16.9%	10.8%	14.2%	11.8%	12.3%	13.1%
2	11.5%	10.3%	7.9%	11.2%	16.3%	7.6%	11.1%	12.3%	11.8%	11.6%
3	18.7%	27.4%	18.8%	19.1%	23.0%	17.8%	20.6%	22.0%	20.2%	20.7%
4	23.1%	17.1%	19.4%	18.1%	23.3%	24.9%	21.4%	22.0%	21.6%	21.5%
とても該当	33.0%	29.9%	49.1%	37.8%	20.6%	38.9%	32.7%	32.0%	34.2%	33.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
まだ就職したくないと思っていた										
(N)	181	117	165	189	343	186	378	390	359	1181
全く該当せず	25.4%	23.9%	14.5%	21.2%	20.4%	17.7%	21.4%	20.3%	17.3%	20.4%
2	11.0%	10.3%	7.3%	10.6%	8.7%	11.3%	9.5%	11.3%	9.5%	9.7%
3	15.5%	11.1%	12.1%	13.2%	16.9%	9.7%	13.5%	15.9%	12.8%	13.7%
4	17.1%	12.8%	15.2%	15.9%	16.6%	12.4%	16.4%	12.8%	16.4%	15.3%
とても該当	30.9%	41.9%	50.9%	39.2%	37.3%	48.9%	39.2%	39.7%	44.0%	40.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学歴より資格重視の世の中になると思っていた										
(N)	181	117	165	188	343	184	376	391	358	1178
全く該当せず	8.8%	11.1%	13.9%	7.4%	9.0%	9.2%	8.8%	9.7%	10.6%	9.7%
2	7.7%	12.0%	12.7%	9.0%	13.1%	11.4%	9.8%	10.5%	13.4%	11.2%
3	32.0%	29.9%	35.2%	27.1%	28.9%	39.1%	32.2%	32.2%	31.6%	31.7%
4	28.2%	18.8%	16.4%	23.9%	26.8%	23.4%	25.8%	24.8%	20.7%	23.8%
とても該当	23.2%	28.2%	21.8%	32.4%	22.2%	16.8%	23.4%	22.8%	23.7%	23.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問25　本学に入学するまでに、次のようなことを経験しましたか（○はいくつでも）。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
高専や短大を修了した										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	91.8%	83.1%	84.4%	83.7%	89.3%	90.9%	87.8%	86.8%	86.8%	87.7%
該当する	8.2%	16.9%	15.6%	16.3%	10.7%	9.1%	12.2%	13.2%	13.2%	12.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大学や大学院を修了した										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	95.1%	89.0%	95.2%	98.0%	98.6%	96.2%	96.4%	95.9%	95.9%	96.2%
該当する	4.9%	11.0%	4.8%	2.0%	1.4%	3.8%	3.6%	4.1%	4.1%	3.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高専・短大・大学・大学院を退学した										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	96.2%	94.1%	97.6%	98.0%	96.5%	97.3%	98.2%	96.7%	95.0%	96.7%
該当する	3.8%	5.9%	2.4%	2.0%	3.5%	2.7%	1.8%	3.3%	5.0%	3.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
フルタイムで働いた										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	90.7%	80.5%	95.8%	96.9%	95.7%	92.5%	94.8%	93.7%	91.2%	93.1%
該当する	9.3%	19.5%	4.2%	3.1%	4.3%	7.5%	5.2%	6.3%	8.8%	6.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
浪人した										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	89.6%	93.2%	97.6%	95.9%	95.1%	95.2%	93.5%	95.9%	93.9%	94.6%
該当する	10.4%	6.8%	2.4%	4.1%	4.9%	4.8%	6.5%	4.1%	6.1%	5.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高校を中退した										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	97.3%	100.0%	99.4%	100.0%	99.7%	99.5%	99.7%	99.5%	98.6%	99.3%
該当する	2.7%	0.0%	0.6%	0.0%	0.3%	0.5%	0.3%	0.5%	1.4%	0.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問26　本学への進学を決めた理由について教えてください（○はいくつでも）。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
学びたい分野があったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	9.9%	20.3%	6.6%	23.0%	45.1%	17.2%	21.6%	22.3%	26.2%	23.9%
該当する	90.1%	79.7%	93.4%	77.0%	54.9%	82.8%	78.4%	77.7%	73.8%	76.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
取得したい資格・検定の合格実績がよかったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	56.6%	67.8%	96.4%	52.6%	49.7%	65.6%	66.4%	59.4%	59.5%	62.0%
該当する	43.4%	32.2%	3.6%	47.4%	50.3%	34.4%	33.6%	40.6%	40.5%	38.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
就職に有利だと思ったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	44.0%	66.9%	55.1%	37.8%	23.4%	53.8%	47.4%	41.1%	39.1%	42.3%
該当する	56.0%	33.1%	44.9%	62.2%	76.6%	46.2%	52.6%	58.9%	60.9%	57.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大学・大学院への編入学制度があったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	99.5%	100.0%	99.4%	99.5%	99.4%	84.4%	98.2%	96.4%	96.7%	97.2%
該当する	0.5%	0.0%	0.6%	0.5%	0.6%	15.6%	1.8%	3.6%	3.3%	2.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
校風や建学の精神が好きだったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	88.5%	78.0%	69.5%	87.2%	93.9%	81.2%	88.3%	84.0%	82.9%	85.0%
該当する	11.5%	22.0%	30.5%	12.8%	6.1%	18.8%	11.7%	16.0%	17.1%	15.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学校の施設設備などがよ良かったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	75.3%	74.6%	54.5%	79.6%	87.6%	73.1%	79.7%	73.1%	76.3%	76.2%
該当する	24.7%	25.4%	45.5%	20.4%	12.4%	26.9%	20.3%	26.9%	23.7%	23.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自宅（親元）から通えるから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	62.6%	66.1%	72.5%	73.5%	56.1%	71.5%	64.8%	67.5%	65.8%	65.6%
該当する	37.4%	33.9%	27.5%	26.5%	43.9%	28.5%	35.2%	32.5%	34.2%	34.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高校の先生に勧められたから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	91.8%	98.3%	86.2%	93.9%	92.2%	94.6%	94.8%	91.9%	91.7%	92.6%
該当する	8.2%	1.7%	13.8%	6.1%	7.8%	5.4%	5.2%	8.1%	8.3%	7.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
親・友達に勧められたから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	87.9%	85.6%	83.8%	85.2%	81.2%	86.0%	85.9%	86.3%	82.6%	84.4%
該当する	12.1%	14.4%	16.2%	14.8%	18.8%	14.0%	14.1%	13.7%	17.4%	15.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自分の学力にあっていたから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	91.2%	91.5%	90.4%	87.2%	97.1%	87.6%	92.4%	90.6%	93.1%	91.6%
該当する	8.8%	8.5%	9.6%	12.8%	2.9%	12.4%	7.6%	9.4%	6.9%	8.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
経済的な理由から										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	97.8%	89.0%	91.0%	98.0%	95.1%	97.3%	95.8%	95.9%	93.1%	95.1%
該当する	2.2%	11.0%	9.0%	2.0%	4.9%	2.7%	4.2%	4.1%	6.9%	4.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高卒での就職なかったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	95.6%	100.0%	98.2%	95.4%	94.5%	97.3%	96.6%	97.2%	95.6%	96.3%
該当する	4.4%	0.0%	1.8%	4.6%	5.5%	2.7%	3.4%	2.8%	4.4%	3.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
高専・短大・大学・大学院卒での就職なかったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	98.4%	99.2%	100.0%	99.5%	98.8%	100.0%	98.7%	99.0%	99.4%	99.2%
該当する	1.6%	0.8%	0.0%	0.5%	1.2%	0.0%	1.3%	1.0%	0.6%	0.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問26　続き

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
希望の大学・短大・専門学校に進学できなかったから										
(N)	182	118	167	196	346	186	384	394	363	1195
該当しない	94.5%	87.3%	97.6%	90.8%	88.4%	79.6%	86.7%	91.1%	90.6%	89.5%
該当する	5.5%	12.7%	2.4%	9.2%	11.6%	20.4%	13.3%	8.9%	9.4%	10.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問27　性別

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	182	117	167	195	344	186	382	393	362	1191
女性	11.5%	70.1%	83.2%	64.6%	67.2%	74.2%	61.3%	63.4%	63.8%	61.9%
男性	88.5%	29.9%	16.8%	35.4%	32.8%	25.8%	38.7%	36.6%	36.2%	38.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問28　年齢

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	181	117	166	195	344	185	381	392	361	1188
20	0.0%	1.7%	0.0%	3.6%	13.4%	0.0%	0.0%	0.3%	13.3%	4.6%
21	2.2%	6.0%	3.0%	13.3%	15.1%	14.6%	0.0%	1.3%	30.2%	10.2%
22	13.3%	14.5%	14.5%	16.4%	13.7%	14.1%	0.0%	15.3%	28.5%	14.3%
23	13.3%	14.5%	16.9%	12.8%	17.2%	14.6%	0.0%	33.2%	13.0%	15.2%
24	16.6%	2.6%	17.5%	11.8%	5.2%	23.2%	0.3%	30.1%	6.1%	12.3%
25	3.9%	2.6%	10.8%	2.6%	1.7%	3.2%	0.0%	8.4%	3.0%	3.8%
26	2.8%	6.0%	0.6%	8.7%	12.8%	1.6%	12.6%	2.6%	3.3%	6.5%
27	9.4%	15.4%	5.4%	14.4%	15.4%	8.6%	31.2%	3.3%	0.6%	11.9%
28	26.0%	18.8%	16.9%	10.3%	4.1%	11.4%	34.4%	2.6%	1.1%	12.8%
29	8.8%	3.4%	10.8%	3.1%	1.2%	3.8%	12.9%	0.8%	0.3%	4.6%
30~	3.9%	14.5%	3.6%	3.1%	0.3%	4.9%	8.7%	2.3%	0.6%	3.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問29　現在あなたは結婚されていますか。また結婚されている方は、お子さんはおられますか。あてはまるものを１つ選んでください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
(N)	182	116	167	193	343	186	380	391	361	1187
独身	81.9%	65.5%	88.6%	74.1%	88.6%	85.5%	61.6%	90.3%	96.4%	82.5%
結婚子どもなし	6.0%	9.5%	3.0%	8.3%	4.1%	6.5%	12.1%	3.6%	1.7%	5.8%
結婚子どもいる	12.1%	25.0%	8.4%	17.6%	7.3%	8.1%	26.3%	6.1%	1.9%	11.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問30　あなたは近い将来、仕事についてどのように考えていますか。もっともあてはまるものを１つ選んでください。

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
現在働いている方										
(N)	172	86	140	168	303	154	298	354	320	1023
今の仕事継続	75.0%	67.4%	49.3%	64.9%	57.1%	52.6%	67.1%	57.6%	54.4%	60.5%
転職	23.3%	24.4%	41.4%	19.6%	21.5%	32.5%	23.5%	27.4%	30.6%	26.1%
結婚・出産で辞める	1.2%	8.1%	7.9%	14.9%	20.8%	13.6%	9.4%	13.6%	14.4%	12.6%
結婚・出産関係なく辞める	0.6%	0.0%	1.4%	0.6%	0.7%	1.3%	0.0%	1.4%	0.6%	0.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
現在働いていない方										
(N)	6	28	26	23	38	30	79	33	37	151
しばらく仕事しない	16.7%	46.4%	30.8%	34.8%	36.8%	13.3%	40.5%	24.2%	16.2%	31.8%
パートで働く	0.0%	28.6%	34.6%	39.1%	18.4%	23.3%	26.6%	33.3%	18.9%	26.5%
フルタイムで働く	83.3%	25.0%	34.6%	26.1%	44.7%	63.3%	32.9%	42.4%	64.9%	41.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問31　次のような点で、あなたの卒業した専門学校は成功していると思いますか。また将来的には重要なことだと思いますか。

A.現在の評価

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
職業にすぐに役立つ教育を行う										
(N)	182	115	164	192	342	185	376	391	361	1180
成功してない	11.5%	4.3%	11.0%	7.3%	9.6%	11.9%	11.2%	9.7%	7.2%	9.6%
ある程度成功	62.6%	65.2%	61.0%	59.9%	58.8%	59.5%	59.0%	62.9%	59.6%	60.6%
成功している	25.8%	30.4%	28.0%	32.8%	31.6%	28.6%	29.8%	27.4%	33.2%	29.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
資格に直結した教育を行う										
(N)	181	113	163	190	341	185	372	391	359	1173
成功してない	1.1%	5.3%	19.0%	6.3%	5.6%	11.9%	7.5%	9.2%	6.4%	7.8%
ある程度成功	43.1%	51.3%	65.0%	52.6%	39.0%	49.2%	46.8%	49.9%	48.2%	48.3%
成功している	55.8%	43.4%	16.0%	41.1%	55.4%	38.9%	45.7%	40.9%	45.4%	43.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職業人としての幅広い教育を行う										
(N)	179	114	162	188	341	183	370	389	355	1167
成功してない	17.3%	15.8%	12.3%	11.7%	10.6%	18.0%	16.5%	13.1%	10.1%	13.7%
ある程度成功	64.8%	63.2%	59.3%	61.2%	63.0%	59.0%	63.5%	65.0%	59.2%	61.9%
成功している	17.9%	21.1%	28.4%	27.1%	26.4%	23.0%	20.0%	21.9%	30.7%	24.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大学・大学院に進学する道をひらく										
(N)	177	115	161	188	332	182	367	385	352	1155
成功してない	57.6%	61.7%	50.9%	54.3%	56.0%	37.9%	57.2%	53.2%	47.4%	53.0%
ある程度成功	37.9%	34.8%	42.2%	43.1%	41.9%	44.0%	39.0%	40.5%	45.2%	41.1%
成功している	4.5%	3.5%	6.8%	2.7%	2.1%	18.1%	3.8%	6.2%	7.4%	5.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大学生や社会人に職業教育を行う										
(N)	174	115	159	186	338	180	366	385	353	1152
成功してない	28.7%	31.3%	32.1%	38.7%	19.5%	31.1%	33.1%	27.8%	24.4%	28.7%
ある程度成功	59.2%	56.5%	58.5%	51.1%	61.2%	57.2%	54.4%	59.7%	60.9%	57.8%
成功している	12.1%	12.2%	9.4%	10.2%	19.2%	11.7%	12.6%	12.5%	14.7%	13.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

B.将来のあり方

	専門分野						卒業年			計
	工業	衛生	服飾・家政	教育・社会福祉	商業・実務	文化・教養	2000年	2004年	2006年	
職業にすぐに役立つ教育を行う										
(N)	176	112	160	187	335	183	370	384	354	1153
重要でない	2.8%	2.7%	0.6%	2.7%	3.0%	2.2%	2.4%	2.9%	1.1%	2.4%
ある程度重要	43.8%	41.1%	37.5%	29.9%	37.9%	37.2%	38.1%	37.0%	38.4%	37.6%
とても重要	53.4%	56.3%	61.9%	67.4%	59.1%	60.7%	59.5%	60.2%	60.5%	59.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
資格に直結した教育を行う										
(N)	177	112	159	184	337	182	370	385	352	1151
重要でない	0.6%	1.8%	11.3%	1.6%	3.0%	3.8%	2.4%	4.4%	3.4%	3.6%
ある程度重要	36.7%	41.1%	51.6%	33.7%	41.2%	40.7%	42.2%	41.8%	38.6%	40.7%
とても重要	62.7%	57.1%	37.1%	64.7%	55.8%	55.5%	55.4%	53.8%	58.0%	55.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
職業人としての幅広い教育を行う										
(N)	174	111	157	183	335	183	368	382	350	1143
重要でない	2.9%	2.7%	1.9%	3.3%	3.6%	2.7%	2.7%	3.1%	2.3%	3.0%
ある程度重要	44.8%	43.2%	40.1%	35.0%	40.6%	33.9%	43.2%	40.8%	34.6%	39.5%
とても重要	52.3%	54.1%	58.0%	61.7%	55.8%	63.4%	54.1%	56.0%	63.1%	57.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大学・大学院に進学する道をひらく										
(N)	173	111	157	185	333	181	364	381	352	1140
重要でない	34.7%	33.3%	37.6%	29.2%	37.5%	17.7%	34.9%	31.2%	29.5%	32.2%
ある程度重要	48.6%	47.7%	49.0%	54.6%	51.1%	59.1%	50.3%	52.5%	53.7%	51.9%
とても重要	16.8%	18.9%	13.4%	16.2%	11.4%	23.2%	14.8%	16.3%	16.8%	15.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大学生や社会人に職業教育を行う										
(N)	173	112	158	182	335	178	365	379	353	1138
重要でない	17.3%	15.2%	15.2%	13.7%	10.7%	14.6%	15.6%	13.2%	13.0%	13.9%
ある程度重要	59.0%	54.5%	58.2%	57.1%	56.7%	56.2%	57.3%	56.5%	57.5%	57.0%
とても重要	23.7%	30.4%	26.6%	29.1%	32.5%	29.2%	27.1%	30.3%	29.5%	29.1%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

執筆者紹介（執筆順）

＊編者には◎

おがたなおゆき
◎小方直幸　広島大学高等教育研究開発センター准教授

せきぐちまさお
関口正雄　東京スポーツ・レクリエーション専門学校長

たていしんじ
立石慎治　広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻

りみん
李　敏　広島大学高等教育研究開発センター研究員

くぼたにとみお
久保谷富美男　学校法人佐野学園法人本部理事長室

たかむらまさゆき
高村雅行　文化服装学院学務部

いとうただお
伊藤忠雄　東京スポーツ・レクリエーション専門学校教務部
スポーツトレーナー科長

専門学校教育と卒業生のキャリア
（高等教育研究叢書 103）

2009（平成 21）年 3 月 31 日　発行

編　者　小方　直幸
発行所　広島大学高等教育研究開発センター
〒739-8512　広島県東広島市鏡山 1-2-2
電話（082）424-6240
http://rihe.hiroshima-u.ac.jp
印刷所　株式会社 タカトープリントメディア
〒730-0052　広島県広島市中区千田町 3 丁目 2-30
電話（082）244-1110

ISBN978-4-902808-49-0

REVIEWS IN HIGHER EDUCATION

No.103（March 2009）

Specialized Training College Education and Graduates' Career

RESEARCH INSTITUTE FOR
HIGHER EDUCATION
HIROSHIMA UNIVERSITY

ISBN978-4-902808-49-0